

平成23年度

名古屋市美術館年報

2 0 1 1

目次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	4
(2)常設企画展	11
2 特別展	16
教育普及事業	24
1 教育プログラム	24
1. 一般成人対象の事業	25
(1)講演会・解説会	25
(2)美術講座 コレクション解析学	26
(3)上映会	27
(4)コンサート	27
(5)その他	28
2. 子ども対象の事業	28
(1)学校休業日の体験活動の推進	28
(2)夏休み こどもの美術館	30
(3)その他	31
3. 学校対象事業	32
(1)ボランティアによる学校団体向け ガイドトークの実績	32
(2)アートカード貸出実績	33
(3)出前アート体験	34
(4)就業・職業・職場体験及び職場 訪問受け入れ	36
(5)教員対象の講座	36
(6)その他	36
2 ボランティア	38
(1)ボランティア登録者	38
(2)定例会	38
(3)ガイド活動	39
(4)サポート活動	40
(5)案内活動研修	40
(6)その他	40
3 協力会	41
4 図書室	41
5 出版	42
資料	43
1 収集	43
(1)購入	44
(2)受贈	44
(3)特別資料	59
(4)資料収集状況一覧	61
2 保存・修復	62
3 調査・研究	63
4 貸出	64
入館者一覧	65
組織・予算	66
1 組織図	66
2 美術館協議会	66
(1)名古屋市美術館協議会委員	66
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	66
3 職員	66
4 運営予算	66

序

PREFACE

名古屋市美術館の平成23年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

年々厳しさを増す財政状況は、美術館の活動にも少なからぬ影響を及ぼしていますが、平成23年度もこれまで通り、収集、展示、教育・普及という3つの基本的な柱を大切に、着実に実績を積み上げました。

まず、収集につきましては平成22年度に特別展を開催した村上友晴の最近作とサンパウロ・ビエンナーレ出品作をはじめとし、一色辰夫、臼井薫ら地元の写真家の作品、荻須高德や平松礼二ら郷土ゆかりの作家の作品、地元の現代美術の動向を知る貴重な資料など、400点近い作品が新たにコレクションに加わりました。

展示活動のうち、特別展につきましては「写真家・東松照明 全仕事」「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」「画業50年の軌跡 平松礼二展」「日本画壇の風雲児 中村正義 新たな全貌」「ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト」の5本を開催しました。偶然ですが、5本全てが個展形式の回顧展となり、地元に関連した3名の作家と、欧米の作家2名の組み合わせになりました。いずれの展覧会も規模、内容ともに充実したものとなり、各作家の以前からのファンはもとより、若い世代の新たなファン層の掘り起こしにも成功しました。また開催が夏休みの期間と重なったレンブラント展では、小中学校と緊密な連携を取り、子供向けのパンフレットを作成するなどして、より親しみやすく分かりやすい展示を心がけました。

常設展では例年通り、小テーマを設けながら作品の持つ様々な魅力や様式の特徴を引き出すことに努めましたが、常設企画展では関西在住の美術家、池水慶一による東山動物園のゴリラをテーマとする「毛深き人たち」を開催しました。長年にわたりゴリラの生態を記録した写真や映像の紹介、また子供向けの写生会や観察会等のワークショップなど、多彩なプログラムにより自然と人間との関係を探りました。

教育・普及活動については、所蔵品の魅力を深く掘り下げて紹介する「コレクション解析学」や、特別展毎の講演会や解説会、子供たちを対象に展開される「キッズの日」や「夏休みこどもの美術館」、さらにはボランティアによる常設展・特別展のギャラリートークなど、多様なプログラムを年間を通じて開催しました。

名古屋市美術館は、平成25年度には開館から25周年の節目の年を迎えます。この25年の間に日本の経済や政治の状況は大きく変化しましたが、同時に美術館を取り巻く状況も激変しました。しかし、美術館が社会において果たす役割に変化はなく、むしろその存在意義は高まっていると考えます。今後とも多くの方々に愛され親しまれる美術館となるよう、一層の努力を積み重ねていく所存です。どうぞ、皆様方のこれまで以上のご理解とご支援をお願いいたします。

2012年12月

名古屋市美術館

沿革 HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表
- 12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問
- 4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申
- 7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置
- 8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年3月 建築基本設計完了
- 9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年1月 建築実施設計完了
- 2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱
- 7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年4月 美術館開館準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱
- 7月 美術館本体工事完成
- 10月 外構工事完成
- 昭和63年3月 「名古屋市美術館条例」制定
- 4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱
- 4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年9月 博物館登録
- 平成5年9月 南側エレベーターの設置
- 平成7年6月 美術館長（剣持一郎 元名古屋市教育長）委嘱
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 元名古屋市立大学教授）委嘱
- 平成11年6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱
- 6月 開館以来1,000万人目の入館者を迎える

平成23年度の常設展（名品コレクション展）は、名古屋市美術館のコレクションを多角的に紹介することを目的として、総計3回の展示を各2名の学芸員がチームとなって、それぞれが独自のテーマを設定して開催する形式の3年目になりました。

名品コレクション展Ⅰにおいては、「エコール・ド・パリ」の画家たちの作品のなかに現れた「光のかたち」とともに、「メキシコ・ルネサンス」の時代のメキシコの光景を撮影したアメリカの写真家「ストランドの写真」を紹介しました。「現代の美術」では、激動する戦後日本の「社会を映す」制作をした1950～1960年代の画家たち（前期）と1980年代以降の現代美術における「自然へのまなざし」の視点から選定した美術家たち（後期）を特集しました。また「郷土の美術」では、前期は、大正期から昭和期に美人画家として活躍した「郷土の日本画家・渡辺幾春」のコレクション（日本画6点、版画12点）、後期は、大正期から昭和後期までの郷土の洋画のコレクションのなかから「水辺の情景」を展示しました。

名品コレクション展Ⅱにおいては、「エコール・ド・パリ」の画家たちの描いた女性像「Woman」とともに、「メキシコ・ルネサンス」の女性写真家「ティナ・モドッティの写真」を紹介しました。「現代の美術」では、前期に「制度からの脱出 1960年代の日本の現代美術」、後期は「痕跡」というテーマで、現代という時代における美術の在り方を探究しました。「郷土の美術」では、前期は「NIHONGA」というタイトルで、日本画を幅広く捉えた作品を、後期は「ひと、人、从」というタイトルで、戦後の前衛的な日本画のなかに現れた

人間像を特集しました。

名品コレクション展Ⅲでは、「エコール・ド・パリ」の日本人画家たちが描いた風景画によって「ヨーロッパ逍遥」するような鑑賞を用意しました。今年度の「メキシコ・ルネサンス」コーナーでは、写真家の特集を続けてきましたが、最後はメキシコを代表する写真家「アルバレス・ブラボの写真」を展示しました。「現代の美術」では、1980年代に花開いた「イギリスの美術」を、「郷土の美術」では、「女性美を描く」郷土の洋画家たちの代表作を特集しました。

常設企画展としては、「池水慶一『毛深き人たち』－東山動物園のゴリラたち」と題して、1960年代後半から前衛グループ「THE PLAY」の中心メンバーとして活躍する美術家・池水慶一が、全国各地の動物園に生きるゴリラを40年近く訪ね歩くなかで考えてきた自然と人間との関係についての写真や映像による展示と子どもたちとのワークショップを開催しました。

コレクションによる特集展示としては、特別展「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」の開催に合わせて、1980年代以降、国際的に活躍する現代美術家・宮島達男の発光ダイオードを使ったデジタル・カウンター・ガジェットによる作品を展示しました。また、「メキシコ・ルネサンス」に影響を受けたアメリカの画家である「ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト」展の開催に合わせて、日本の画家「北川民次の芸術」を、名古屋美術館が所蔵するすべてのコレクション（油彩画15点、水彩・素描14点、版画22点、日本画1点、総計52点）を特集展示しました。

(1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of
Nagoya City Art Museum

名品コレクション展 I

会期：2011年4月23日(土)～9月4日(日)

常設展示室 1・2

☆：初出品

i：前期4月23日(土)～6月26日(日)

ii：後期6月28日(火)～9月4日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
1	小山田二郎	昔の聖者	1956	油彩・キャンヴァス	145.5×112.1	i
☆2	青木野枝	水天 1、14	2007	エッチング・ドライポイント・アクアチント、紙	各122.0×115.0	ii

コレクション解析学

1	岡鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	i・ii
2	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5	i・ii
3	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	i・ii
4	ジョン・ディアマン	風景	c.1824-56	油彩・板	22.6×30.4	i・ii
5	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	i・ii
6	キスリング	新聞のある静物	1913	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0	i・ii
7	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	i・ii
8	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4	i・ii
9	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12	油彩、水彩・紙、板	83.0×47.8	i・ii
10	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	i・ii
11	ジュール・バスキン	横たわるエリアーヌ	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6	i・ii
12	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0	i・ii
13	ハイム・スーテン	鳥のいる静物	c.1918-19	油彩・キャンヴァス	60.0×81.5	i・ii
14	ハイム・スーテン	農家の娘	c.1919	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0	i・ii
15	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910	油彩・厚紙	73.1×92.0	i・ii

エコール・ド・パリ：光のかたち

メキシコ・ルネサンス：ストランドの写真

1	北川民次	トラルパム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	i・ii
2	北川民次	老人	1932	油彩・キャンヴァス	76.0×61.0	i・ii
3	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	i・ii
4	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	i・ii
5	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	i・ii
6	ディエゴ・リベラ	ヘンリー・ノーウェブの肖像	1935	油彩・板	115.1×91.2	i・ii
7	ダヴィッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7	i・ii
8	ルフィーノ・タマヨ	黒人の仮面(カーニバル)	1939	テンペラ・リンネル	44.8×60.4	i・ii
9	ポール・ストランド	メキシカン・ポートフォリオより (前・後期で各10点)	1932-33	フォトグラヴェール・紙	40.3×31.4(紙サイズ)	i・ii

現代の美術：(前期)社会を映す

1	芥川(間所)沙織	神話より	1957	染色・木綿	162.3×130.3	i
2	池田龍雄	ストリップ・ミル	1956	油彩・キャンヴァス	162.3×130.5	i
3	石井茂雄	暴力シリーズー戒厳状態Ⅲ	1956	油彩・キャンヴァス	112.2×145.7	i
4	石井茂雄	暴力シリーズー審判	1957	油彩・キャンヴァス	130.3×161.6	i
5	石橋和美	ぎせい	1956	油彩・キャンヴァス	116.0×91.0	i
6	河原温	カム・オン・マイ・ハウス	1955	油彩・キャンヴァス	125.0×181.0	i
7	河原温	私生児の誕生	1955	油彩・キャンヴァス	132.0×194.0	i
8	中井勝郎	2(オーム)の搾取	1956	油彩・キャンヴァス	260.0×136.5	i

9	中谷泰	モク	1952	油彩・キャンヴァス	50.3×60.8	i
10	中谷泰	流田	1954	油彩・キャンヴァス	38.0×71.5	i
11	中村宏	都市計画	1958.7	油彩、グラフィア写真、新聞・合板	92.0×183.0	i
12	吉仲太造	生きものK	1955	油彩・キャンヴァス	181.0×226.5	i
13	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	i
14	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	i

現代の美術：(後期) 自然へのまなざし

1	荒川修作	自画像	1967	油彩、鉛筆・キャンヴァス	173.0×62.0	ii
2	荒川修作	35フィート×7フィート6インチ、126ポンドNo. 2	1967-68	アクリル、コラージュ・キャンヴァス	225.0×1,067.5	ii
3	河原温	百年カレンダー(18,864日)	1984	フェルトペン・シルクスクリン・紙	70.4×131.5	ii
4	河原温	《Today》シリーズより/12 AÜG.1984	1984	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
5	桑山忠明	雪国コラボレーション	1990	エッチング、アクアチント・紙	各80.0×59.5	ii
6	福岡道雄	琵琶湖の風	1982	FRP	183.8×120.7×47.1	ii
7	李禹煥	風とともに	1990	油彩・キャンヴァス	260.0×776.0	ii
8	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	ii
9	アンディー・ゴールズワージー	楓の紅葉による色彩線/大内山村1987年11月14日	1987	カラー写真	92.6×50.0	ii
10	アンディー・ゴールズワージー	穴のまわりの楓の紅葉/大内山村1987年11月14日	1987	カラー写真	40.5×48.5	ii
11	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	ii
12	イサム・ノグチ	死すべきもの	1988	ブロンズ	190.0×51.0×48.0	ii

郷土の美術：(前期) 郷土の日本画家 渡辺幾春

1	渡辺幾春	若き女	1922	絹本着彩 屏風(二曲一隻)	162.0×150.0	i
2	渡辺幾春	女	1923	絹本着彩 屏風(二曲一隻)	162.0×150.0	i
3	渡辺幾春	蛸	1930	絹本着彩 軸	123.5×54.2	i
4	渡辺幾春	娘	1930	絹本着彩 軸	93.0×87.0	i
5	渡辺幾春	蓄音機	1933	絹本着彩 屏風(二曲一隻)	210.0×190.0	i
6	渡辺幾春	二人の女	1939	絹本着彩	172.0×176.0	i
7	渡辺幾春	昭和美女姿競(12点1組)	n.d.	多色木版・紙	各41.8×26.8(紙サイズ)	i

郷土の美術：(後期) 水辺の情景

1	金山平三	雪降らぬ日	n.d.	油彩・キャンヴァス	45.7×60.6	ii
2	木下義謙	ドナウ川とブダペスト	1981	油彩・キャンヴァス	121.0×171.0	ii
3	熊谷守一	秋	1945	油彩・板	23.8×33.1	ii
4	佐分真	風景	c.1912	水彩・紙	18.6×11.0	ii
5	島田章三	山と湖の在り方	1993	油彩・キャンヴァス	181.8×227.3	ii
6	嶋谷自然	砂丘と海	1967	紙本着彩	176.5×212.9	ii
7	嶋谷自然	湖心	1978	紙本着彩	227.3×163.9	ii
8	田淵俊夫	大地悠久 洛陽黄河	1990	紙本着彩	93.0×103.0	ii
9	辻永	浅春の蒲郡	1959	油彩・板	24.1×33.2	ii
10	三岸節子	ブチカナル	1973	油彩・キャンヴァス	116.0×89.0	ii
11	村山槐多	房州風景	1917	油彩・キャンヴァス	31.3×43.4	ii
12	山本鼎	河野にて	1937	油彩・キャンヴァス	72.5×89.5	ii
13	山本鼎	千曲川	1903	鉛筆、水彩・紙	18.5×10.7	ii
14	山本鼎	[夕日と橋と子供]	1910	鉛筆、水彩・紙	25.0×35.5	ii

名品コレクション展Ⅱ

会期：2011年9月13日(火)～1月9日(日)

常設展示室1・2

☆：初出品 *：寄託作品

i：前期9月13日(火)～11月6日(日)

ii：後期11月8日(火)～1月9日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
1	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6	i
2	ベルント&ヒラ・ベッヒャー	巻上げ機	1980	モノクロ写真(12点組)	154.2×165.6	ii

コレクション解析学

1	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6	i
2	ベルント&ヒラ・ベッヒャー	巻上げ機	1980	モノクロ写真(12点組)	154.2×165.6	ii

エコール・ド・パリ:The Woman

1	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	i・ii
2	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	i・ii
3	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	i・ii
* 4	アントワーヌ・ベヴスナー	コンポジション	1915	油彩・パネルに裏打ちされたキャンバス	45.0×45.0	i・ii
5	フランティシェク・ドルティコル	女とマスク	c.1924	ゼラチン・シルバー・プリント	29.1×23.1	ii
6	フランティシェク・ドルティコル	円の正接	c.1925-28	ゼラチン・シルバー・プリント	22.5×28.4	i
7	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12	油彩・水彩・紙・板	83.0×47.8	i・ii
8	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	i・ii
9	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	i・ii
10	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4	i・ii
11	マリー・ローランサン	サーカスにて	c.1913	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0	i・ii
12	ジュール・パスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	i・ii
13	ジュール・パスキン	横たわるエリアース	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6	i・ii
14	ジュール・パスキン	美しきツレイカ	1913	木口木版・紙	11.7×5.7	i
15	ジュール・パスキン	ユディットとホロフェルネス	1922	ドライポイント・紙	9.2×13.5	ii
16	ジュール・パスキン	身だしなみ	1913	木版・紙	11.3×7.6	ii
17	ジュール・パスキン	目ざめ	1925	リトグラフ・紙	24.8×18.9	i
18	ジュール・パスキン	アメリカの少女	1917	ソフトグランドエッチング・紙	8.4×8.4	i
19	ジュール・パスキン	母と娘	1922	ドライポイント・紙	13.7×11.9	ii
20	ジュール・パスキン	ヴィーナスとアモル	1917	ドライポイント・紙	12.8×15.8	ii
21	ジュール・パスキン	サロメ	1927	ドライポイント、アクアチント・紙	23.9×24.0	ii
22	ジュール・パスキン	キセルをふかす女	1917	ドライポイント・紙	9.9×9.3	ii
23	ジュール・パスキン	バテシバの化粧	1928	ドライポイント、メゾチント・紙	32.6×24.9	i
24	ジュール・パスキン	好奇心の強い女	1917	ドライポイント・紙	9.3×13.5	ii
25	ジュール・パスキン	くらべっこ	1929	ドライポイント、アクアチント・紙	18.3×18.0	ii
26	ジュール・パスキン	水浴	1917	エッチング・紙	6.5×7.8	ii
27	ジュール・パスキン	エウロペの掠奪	1923	ドライポイント、アクアチント・紙	9.7×13.6	i
28	ジュール・パスキン	美しきヨーロッパ婦人	1918	ドライポイント・紙	14.7×9.5	i
29	ジュール・パスキン	幾何学	1918	ドライポイント・紙	15.1×6.7	i
30	ジュール・パスキン	ここにヘロデ王ありき	1923	エッチング・紙	11.3×14.9	i
31	ジュール・パスキン	ヘロデ王の前で踊るサロメ	1930	ソフトグランドエッチング、アクアチント・紙	45.5×57.0	ii
32	ジュール・パスキン	女友達	1926	エッチング・紙	14.8×19.9	i
33	ジュール・パスキン	六人の裸婦	1929	ソフトグランドエッチング・紙	11.8×9.2	ii
34	ジュール・パスキン	娘たち	1926	ソフトグランドエッチング、エマーユ・シャンルヴェ・紙	12.9×17.9	i
35	ジュール・パスキン	三人の女	1927	エッチング・紙	13.0×18.2	ii
36	ジュール・パスキン	ヴィーナスへのオマーージュ	1927	エッチング、エマーユ・シャンルヴェ・紙	28.5×40.9	i
37	ジュール・パスキン	サロメ、サロメ	1927	エッチング、エマーユ・シャンルヴェ・紙	23.9×31.6	ii
38	ジュール・パスキン	サロメの踊り	1927	ドライポイント・紙	20.2×27.2	ii
39	ジュール・パスキン	千夜一夜物語	1929	ソフトグランドエッチング、メゾチント・紙	59.7×49.3	i

メキシコ・ルネサンス:ティナ・モドッティの写真

1	ティナ・モドッティ	スタジアムの外観	1927	ゼラチンシルバープリント・紙	24.0×18.9	ii
2	ティナ・モドッティ	ブルケリアー犬、マリオネット、ステージセット	1929	ゼラチンシルバープリント・紙	18.7×20.2	i
3	ティナ・モドッティ	操り人形のルネ・ダルノンクール	1929	ゼラチンシルバープリント・紙	23.7×18.7	i

4	ティナ・モドッティ	アステカの赤子	c.1926-27	ゼラチンシルバークラフト・紙	23.1×18.5	ii
5	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:ABCの学習/脱穀]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	25.2×20.1	i
6	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:労働組合]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	25.3×20.3	ii
7	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:眠り-貧者の夜]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	25.3×20.3	i
8	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:トラクター]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	25.3×20.2	i
9	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:「世界のすべての富は大地からもたらされる」]	1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	23.4×19.2	ii
10	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:抗議]	1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	24.1×18.6	i
11	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:統一戦線]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	24.1×18.9	ii
12	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:雨(部分)]	1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	25.3×20.2	ii
13	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:大地の果実(部分)]	1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	20.2×25.3	ii
14	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:乱気騒ぎ-金持ちの夜(部分)]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	20.3×25.3	i
15	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:エミリアーノ・サパタ(部分)]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	25.3×20.3	i
16	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:ABCの学習]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	25.3×20.2	i
17	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:脱穀]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	21.0×14.5	ii
18	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:労働へ]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	21.0×14.5	i
19	ティナ・モドッティ	[メキシコ文部省壁画:保証-資本主義の残骸]	c.1928	ゼラチンシルバークラフト・紙	23.8×18.8	ii
20	ルフィーノ・タマヨ	横笛を吹く人	1983	油彩・キャンヴァス	129.0×95.5	i・ii
21	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0	i・ii
22	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(三層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	i・ii
23	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	i・ii
24	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	c.1947	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	i・ii
25	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2×11.0	i・ii
26	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	i・ii
27	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	i・ii
28	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	i・ii

現代の美術:(前期)制度からの脱出

☆1	饗嘸	アニメイテッド・レインボー	1965	シルクスクリーン、コラーージュ・紙	9点1組各72.0×58.0	i
2	赤瀬川原平	復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)	1963	インク・紙、パネル	90.0×180.0	i
3	赤瀬川原平	事実か方法か1	1963(1995)	クラフト紙、マニラ・ロープ、パネル	180.0×180.0	i
4	赤瀬川原平	事実か方法か2	1963(1995)	クラフト紙、マニラ・ロープ、パネル	180.0×180.0	i
5	赤瀬川原平	模型千円札1	1963	活版印刷、クラフト紙他	7.4×16.1	i
6	赤瀬川原平	模型千円札2	1963	活版印刷、クラフト紙他	7.4×16.1	i
7	赤瀬川原平	模型千円札3	1963	活版印刷、クラフト紙他	7.4×16.1	i
8	赤瀬川原平	模型千円札4	1963	活版印刷、クラフト紙他	7.4×16.1	i
9	赤瀬川原平	零円札と両替された現金の瓶詰	1967	零円札、現金、瓶	高さ32.0	i
10	荒川修作	デュシャンの大ガラスを小さな細部としている図式	1964	アッサンブラージュ	230.0×168.0×57.0	i
11	岩田信市	ランニングマン(青)	c.1965	発泡スチロール・合板(青)	高さ148.0	i
12	岩田信市	ランニングマン(青)	c.1965	発泡スチロール・合板(青)	高さ148.0	i
13	岩田信市	ランニングマン(ピンク)	c.1965	発泡スチロール・合板(ピンク)	高さ148.0	i
14	岩田信市	ゼロ次元1	c.1962	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	i
15	岩田信市	ゼロ次元2	c.1962	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	i
16	岩田信市	ゼロ次元3	c.1962	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	i
17	岡本太郎	明日の神話	1968	油彩、キャンヴァス	132.7×728.9	i
18	岸本清子	[Look Left!!の断片]	c.1967	アクリル・キャンヴァス	21.9×27.1	i
19	岸本清子	[Look Left!!のための習作]	c.1967	水彩・紙	37.6×53.6	i
20	中村 宏	現代思潮社ポスター 「トロッキー選集全巻完結記念講演会」	1966	印刷(赤・青)・紙	37.3×53.7	i
21	中村 宏	ポスター「議会主義との決別」	1962	印刷(赤・黒)・紙	50.1×53.7	i
22	中村 宏	日本大学芸術学部祭ポスター 「幽閉者は人口楽園を疾駆する」	1963	印刷(赤)・紙	78.8×108.3	i
23	中村 宏	芦川羊子舞踏講演ポスター「D53264機にのる 友達ピオレット・ノジェイルの方へつねに遠のいてゆく 風景PACIFIC231機にのる舞踏嬢芦川羊子」	1967	印刷(青・赤・金)・紙	72.3×51.5	i
24	中村 宏	『早稲田大学新聞』(1966年1月6日付) 「我れ幻の決戦を見たり」	1965	印刷・紙	27.3×39.6	i
25	中村 宏	『夢野久作全集』ポスター	1969	印刷(赤・黄・金)・紙	72.6×51.2	i
26	アンゼラム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	i
27	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	i

現代の美術:(後期)痕跡

1	赤瀬川原平	復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)	1963	インク・紙、パネル	90.0×180.0	ii
2	赤瀬川原平	不在の部屋	1963/1995	クラフト紙、マニラ・ロープ、籐椅子、扇風機、ラジオ、絨毯		ii

3	荒川修作	デュシャンの大ガラスを小さな細部としている図式	1964	アッサンブラージュ	230.0×168.0×57.0	ii
* 4	アルマン	<怒り>シリーズ	1980	叩き潰したバイオリン、楽譜	40.0×40.0×55.8	ii
5	浅野弥衛	無題	1967	油彩・キャンヴァス	72.5×90.8	ii
6	浅野弥衛	無題	1975	油彩・キャンヴァス	97.0×145.5	ii
7	トニー・クラッグ	住処のある静かな場所	1984	採集された木	155.0×105.0×60.0	ii
* 8	河口龍夫	関係-質	1988	綿布・銅板、液体、木製パネル	200.2×200.2×5.0	ii
9	河口龍夫	DARKBOX2008	2008	鉄、闇	37.0×60.0×35.0	ii
* 10	河口龍夫	2001年の闇のフロッターージュ	2008	鉛筆・和紙、フロッターージュ	64.6×98.8	ii
11	河原温	Nov.15,1979	1979	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
12	河原温	Nov.17,1988	1988	アクリル・キャンヴァス	133.4×194.3	ii
13	小清水漸	夢の浮舟—赤い舟	1987	木、石、水	85.0×300.0×40.0	ii
14	桑山忠明	無題 白／黒／黄土	1987	油彩・ハニカムボード	各91.5×61.0×10.2	ii
15	李禹煥	風とともに	1990	油彩・キャンヴァス 4 パネル	260.0×776.0	ii
16	元永定正	作品	1961	アクリル・キャンヴァス	118.0×93.0	ii
17	エドワード・ルッシェ	20世紀	1988	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0	ii
* 18	瀧口修造	デカルコマニー	1962	水彩・紙	16.9×10.5	ii
* 19	瀧口修造	デカルコマニー	1962	水彩・紙	13.2×9.3	ii
* 20	瀧口修造	デカルコマニー	1964	水彩・紙	26.9×19.8	ii
21	山本富章	無題	1987	ミクストメディア	286.0×382.0×16.0	ii
22	安井仲治	磁力の表情	1939/2004	ゼラチンシルバークラッシュ・紙 (オリジナル・ネガからのニュープリント)	35.2×43.0	ii
23	安井仲治	磁力の表情	1939/2004	ゼラチンシルバークラッシュ・紙 (オリジナル・ネガからのニュープリント)	31.3×23.5	ii
24	安井仲治	磁力の表情	1939/2004	ゼラチンシルバークラッシュ・紙 (オリジナル・ネガからのニュープリント)	31.3×23.5	ii
25	安井仲治	磁力の表情	1939/2004	ゼラチンシルバークラッシュ・紙 (オリジナル・ネガからのニュープリント)	31.3×23.5	ii
26	安井仲治	磁力の表情	1939/2004	ゼラチンシルバークラッシュ・紙 (オリジナル・ネガからのニュープリント)	31.3×23.5	ii
27	アンゼルク・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	ii
28	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	ii
28	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	ii

郷土の美術：(前期) NIHONGA ! ?

1	大野淑嵩	緋	1963	絹本着彩、ジュート	117.0×93.0	i
2	大野淑嵩	羯羅俱織	1982	絹本着彩	96.5×80.0	i
3	片岡球子	潮	1958	紙本着彩、屏風(二曲一双)	各171.0×177.5	i
4	北脇 昇	鳥獣曼荼羅	1938	油彩・キャンヴァス	45.5×33.4	i
5	清水有聲	椿咲く島	1920	絹本着彩	203.4×85.3	i
* 6	杉戸洋	Red Eye	2000	顔料、アクリル・紙	38.0×45.5cm	i
* 7	杉戸洋	Elephant (p.p)	2000	顔料、アクリル・紙	220.0×181.0cm	i
8	檀田伸也	通り過ぎた風景	1983	油彩・キャンヴァス	97.0×162.1	i
9	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5	i
10	前田青邨	宿場	c.1914-15	絹本墨画、淡彩、軸	128.2×50.3	i
11	前田青邨	修羅道	1920-30's	絹本着彩、軸	139.3×55.0	i
12	横山大観	日月	c.1902	絹本着彩、軸(双幅)	各115.5×50.0	i

郷土の美術：(後期) ひと・人・从(ひとひと)

1	舟越 桂	かたい布はときどき話す	1988	着彩された楠、大理石	高さ81.0	ii
2	舟越 桂	[かたい布はときどき話す]のためのドローイング	1988	木炭、鉛筆・紙	97.0×86.3	ii
3	星野真吾	喪中の作品	1965	紙本着彩	183.0×123.2	ii
4	星野真吾	喪中の作品・足	1965	紙本着彩	121.0×122.5	ii
5	星野真吾	蒼色の作品	1969	紙本着彩	123.0×183.5	ii
6	三上 誠	アクロバットショウ	1957	紙本着彩	122.2×122.2	ii
7	三上 誠	無題	c.1957-58	紙本着彩、コラージュ	92.5×62.5	ii
8	水谷勇夫	公証人	1960	紙本着彩	162.0×130.0	ii
9	水谷勇夫	さらしもの	1961	紙本着彩	162.0×130.0	ii
10	芥川(間所)紗織	女	1954	染色、木綿	90.8×65.2	ii
11	小山田二郎	昔の聖者	1956	油彩・キャンヴァス	145.5×112.1	ii
12	池田龍雄	監視者(化物の系譜シリーズ)	1956	インク、コンテ、水彩・紙	40.1×31.2	ii
13	池田龍雄	神童(化物の系譜シリーズ)	1956	インク、コンテ、水彩・紙	37.7×29.3	ii
14	池田龍雄	貌(化物の系譜シリーズ)	1956	インク、コンテ・紙	29.2×37.4	ii
15	八島正明	女	1980	油彩・キャンヴァス	162.1×112.1	ii

名品コレクション展Ⅲ

会期：2012年1月21日(土)～2012年3月25日(日)

常設展示室1・2

出品作品

*：寄託作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)
-----	-----	-----	-----	-------	---------

コレクション解析学

1	ジョン・スローン	ヴァレージ監獄の解体	1929	テンペラ、油彩・厚紙	76.2×61.0
---	----------	------------	------	------------	-----------

エコール・ド・パリ：ヨーロッパ逍遥

1	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6
2	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0
3	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12	油彩、水彩・紙、板	83.0×47.8
4	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4
5	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0
6	マリー・ローランサン	サーカスにて	c.1913	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0
7	ジュール・パスキン	横たわるエリアーヌ	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6
8	荻須高德	洗濯場	c.1960	油彩・キャンヴァス	116.3×89.2
9	荻須高德	アムステルダム運河	1956	油彩・キャンヴァス	92.3×65.6
10	三岸節子	ブチカナル	1973	油彩・キャンヴァス	116.0×89.0
11	三岸節子	雷がくる	1979	油彩・キャンヴァス	89.0×116.3
12	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3
13	宮田重雄	滞欧スケッチより4点	c.1928-30	鉛筆、水彩・紙	各30.0×38.0
14	藤田嗣治	風景	1918	油彩・キャンヴァス	81.4×65.5

メキシコ・ルネサンス：アルバレス・ブラボの写真

1	マヌエル・アルバレス・ブラボ	紙の戯れ	1926-27	ゼラチンシルバープリント・紙	20.3×25.4
2	マヌエル・アルバレス・ブラボ	アイスクリーム屋の子馬	1927(1928)	ブラチナパラジウムプリント・紙	20.0×25.0
3	マヌエル・アルバレス・ブラボ	踊り子の娘	1933	ブラチナパラジウムプリント・紙	35.0×28.0
4	マヌエル・アルバレス・ブラボ	永遠の肖像	1935	ブラチナパラジウムプリント・紙	35.0×28.0
5	マヌエル・アルバレス・ブラボ	溶鉱土	1935	ブラチナパラジウムプリント・紙	25.4×20.3
6	マヌエル・アルバレス・ブラボ	死後の肖像	1939	ブラチナパラジウムプリント・紙	28.0×35.0
7	マヌエル・アルバレス・ブラボ	トゥルムのマヤの子供	1942	ブラチナパラジウムプリント・紙	28.0×35.0
8	マヌエル・アルバレス・ブラボ	世界は何て狭いのだろう	1942	ゼラチンシルバープリント・紙	20.3×25.4
9	マヌエル・アルバレス・ブラボ	敷居	1947	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3
10	マヌエル・アルバレス・ブラボ	黒い山、白い雲	1970(1974)	ブラチナパラジウムプリント・紙	28.0×35.0
11	マヌエル・アルバレス・ブラボ	聖アントニウスの誘惑	1970	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3
12	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0
13	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9
14	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(三層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3
15	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n.d.	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0
16	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7
17	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0
18	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4
19	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0

現代の美術：イギリスの美術

1	荒川修作	大気のように何かに似ているもの：意図としての空間	1982-83	アクリル・キャンヴァス 5パネル	335.5×1091.5
2	河原温	MAR. 21, 1983	1983	アクリル・キャンヴァス	66.0×91.5
3	河原温	百万年—未来	1982	ゼロックスコピー、ルーズリーフバインダー	各30.5×22.8×7.6
4	桑山忠明	無題	1978-79	アクリル・キャンヴァス	243.8×243.8
5	エドワード・アーリントン	サチュルヌス	1988	インク、乳剤・紙、キャンヴァス	183.0×244.0
6	トニー・クラッグ	住処のある静かな場所	1984	採集された木	155.0×105.0×60.0

7	バリー・フラナガン	三日月と釣鐘の上を跳ぶ野ウサギ	1983	ブロンズ	121.9×94.0×61.0
8	アンディ・ゴールズワージー	編まれた竹/紀伊長島町/1987年11月29日	1987	カラー写真	77.5×76.5
9	アンディ・ゴールズワージー	太陽の輝く朝の雪の厚板/和泉村/1987年12月19日	1987	カラー写真	74.8×75.5
10	アンディ・ゴールズワージー	冷え込んだ山陰で早朝に制作/和泉村/1987年12月24日	1987	カラー写真	69.7×142.0
11	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話のための挿絵	1969(1970)		46.0×62.0(紙サイズ)
		33 王女の救出		エッチング、アクアチント・紙	45.0×32.0
		34 黄金		エッチング・紙	15.0×24.4
		35 藁いっばいの部屋		エッチング、アクアチント・紙	25.0×22.0
		36 左に藁、右に黄金		エッチング・紙	15.0×24.4
		37 子どもをくれるように懇願する		エッチング・紙	26.7×25.5
		38 調理用スプーンに乗って		エッチング、アクアチント・紙	16.4×25.2
		39 自分を二つに裂く		エッチング、アクアチント・紙	44.7×32.4
12	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5
13	リサ・ミルロイ	皿	1992	油彩・キャンヴァス	188.0×243.8
14	デイヴィッド・ナッシュ	<降りてくる舟>の提案図	1992	鉛筆、インク、木炭、コンテ、パステル・紙	56.0×76.0
*15	サイモン・パターソン	大熊座	1992	紙、オフセット印刷	109.0×136.0×5.0
16	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7

郷土の美術：女性美を描く

1	三尾公三	ガラスの部屋	1996	アクリル・板	180.0×180.0
2	三尾公三	蕩女の帰宅	1972	アクリル・板	160.0×160.0
3	佐々木豊	飛べない女	1973	油彩・キャンヴァス	130.3×162.2
4	佐々木豊	踊り子と画家	1994	油彩・キャンヴァス	130.0×162.1
5	岩田信市	砂漠の女	1977	アクリル・キャンヴァス、コラージュ	92.5×183.0
6	赤瀬川原平	あいまいな海11(座骨内の眼球)	1961	コラージュ、インク・紙	35.5×25.0
7	三岸好太郎	筆彩素描集《蝶と貝殻》より2点	1934	印刷(凸版墨刷り)、手彩色(水彩、グワッシュ)・紙	各30.2×22.8
8	鬼頭鍋三郎	手をかざす女	1934	油彩・キャンヴァス	191.0×129.0
9	鬼頭鍋三郎	エル・モニック	1954	油彩・キャンヴァス	90.9×72.2
10	星野真吾	喪中の作品	1965	紙本着彩	183.0×123.2

(2)常設企画展 Thematic Exhibition

特集：宮島達男

Miyajima Tatsuo: Opposite Circle and Line

会期：2011年6月18日(土)～7月18日(祝・月)

会場

常設展示室 3

内容

宮島達男(1957～)は、1988年の「ヴェネツィア・ビエンナーレ アペルト'88」展に発光ダイオードのデジタル・カウンターのガジェットによる作品を発表して鮮烈なデビューを飾り、「大地の魔術師」展や「アゲインスト・ネイチャー」展などの重要な展覧会に参加して、1990年代以降、国際的に活躍している現代美術家である。

今回の特集では、名古屋市美術館の所蔵作品であり、宮島達男の基本理念から構築されている「133651」シリーズの最初の作品に属している作品《Opposite Circle》と《Opposite Line》を紹介した。

これらの作品に使用されている(赤色あるいは緑色の)発光ダイオードのデジタル・カウンターのガジェットは、2桁の数字「00」から「99」までを順次、カウントする。ただし、「0」は表示しないので、実際には、「0」が登場する数字は、「0」の桁が空白になり、「99」から「100」へのカウントしたときは、瞬間的に「 」(空白)になった後に「1」が現われる。カウントの速度は、それぞれのガジェット毎に宮島によって感覚的に調整されていて、忙しく早いものから緩やかに遅いものまで千差万別になっている。

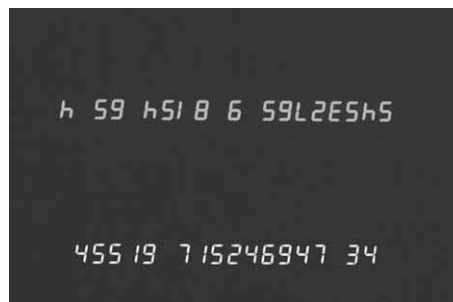
このようなデジタル・カウンターのガジェット10個を連結したものが1個のユニットを構成しているが、このユニットが「133651」シリーズの作品の基本単位となる。

このユニットを構成する10個のガジェットは、まったく単独であるか、あるいはもうひとつの別のガジェットに連結されている。例えば、1番目のガジェットは4番目へ連結して、2番目は8番目に連結して、3番目は7番目へ連結して、5番目、6番目、9番目、10番目は単独であるというようなガジェット(No. 4414)があるが、この場合の連結は、1番目のガジェットが「1」から「99」までカウントして、次の「100」(実際には空白)になったとき、4番目は初めて「1」をカウントしはじめるという関係になっている。同じように、2番目と3番目が「99」から空白になったとき、初めて8番目と7番目は「1」のカウントをはじめるのである。

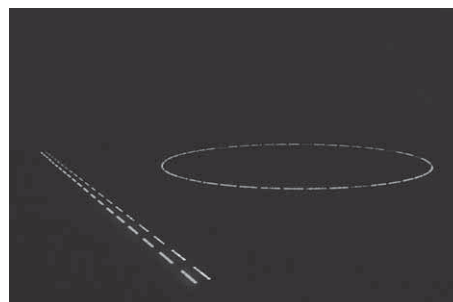
このように10個のガジェットの連結の順列・組合せにおいて数学的に可能なユニットの総数が「133,651」通りになるのである。この「133,651」通りのユニットは、当然のことながら基本的な構造は共通しているが、10個の順列・組合せにおいては、まったく同一のものはない。比喩的に言うならば、私たちは人間という共通の生物であるが、一人ひとりが唯一の存在であるように、「133,651」の世界のユニットは、一つずつが唯一の存在なのである。また、それぞれのユニットには1

出品作品

1	《Opposite Circle》	1991年	発光ダイオード、IC、電線、アルミニウム・パネル、木製パネル	φ512cm(50 units)
2	《Opposite Line》	1992年	発光ダイオード、IC、電線、アルミニウム・パネル、木製パネル	22×852.5cm(40 units)
3	《「Opposite Line」のためのドローイング》	1992年	インク、コラージュ・紙	56.0×128.0cm
4	《「Opposite Circle」のためのドローイング》	1994年	インク、コラージュ・紙	79.1×109.2cm



展示風景



展示風景

番から133,651番まで、通し番号が付けられて、基本的に赤色の発光ダイオードが使用されているが、そのなかで7の倍数のガジェット(19,093通り)だけは、緑色の発光ダイオードが使用されている。宮島達男の「133651」シリーズは、この「133,651」通り存在するユニットを適宜、選択・使用して制作された作品なのである。

このような前提を踏まえて、出品作品について考えると、先に例示したガジェット(No. 4414)とは、「Opposite(正反対の)」関係にあるガジェット(No. 20747)が存在する。具体的に言うならば、4番目のガジェットが1番目へ連結して、7番目が3番目へ、8番目が2番目へ連結して、そして5番目、6番目、9番目、10番目は単独であるガジェットである。これら一対のガジェットは、「Opposite(正反対の)」関係であるからこそ、この他のガジェット以上に深い関係にあると言えるが、今回の出品作品は、タイトル《Opposite Circle》と《Opposite Line》に表示されているように、「Opposite(正反対の)」関係のガジェットを選択して制作されているのである。

実際に、出品作品《Opposite Circle》と《Opposite Line》が展示されている空間においては、暗闇のなかで、赤色と緑色の発光ダイオードのデジタル・カウンターが静かにカウントを続けている。赤色と緑色という補色関係にある色彩は、ゆらゆらと揺らめくように、ちらちらと輝くように、赤色と緑色の光が、街の灯のようにも生命のようにも見えて、絶え間なく動いている。広大な宇宙に放り出されたように、あるいは微細な細胞に入り込んだように、「Opposite(正反対の)」空間のなかで浮遊する感覚が生れる。近くで見つめると、物凄い速さで移り変わる数字もあれば、蝸牛の歩みのようにいつ動いたのかわからないくらいにゆっくりと進む数字もある。一瞬の繰り返しと果てしない時間と、まるで「Opposite(正反対の)」時間の流れを感じるようになる。暗闇のなかで静かに眼が慣れるのを待って、心静かに作品が展示された空間に身をおけば、日常を超越した不思議な世界を体験できるに違いない。

池水慶一 毛深き人たち—東山動物園のゴリラたち

Ikemizu: THE HAIRY NEIGHBORS -GORILLAS in the HIGASHIYAMA ZOO, NAGOYA.

会期：2011年9月13日(火)～10月23日(日)

会場

名古屋市美術館BF 常設展示室3及びロビー

協力

名古屋市東山動物園

内容

現代美術家・池水慶一(1937～)は、「行為による表現」を模索したグループ(PLAY)の結成(1968年)に参加、その中心的メンバーとして、数々の野外パフォーマンス等を企画、実践してきた。その表現は、当時よく見られた「反芸術」の過激さや政治性を超えて、広く環境にまで関わるようなものであった。また、ソロ活動としては、早くから人間と動物、見ることと見られることを意識し、逆転させたかのような作品を制作してきた。1965年8月に長良川畔で行われた岐阜アンデパンダン・アートフェスティバルに於いては池水は、「人類:Homo sapiens/人間MAN♂」と記したキャプションをかけた檻に入り、自らを“展示”してみせた。自身が檻に入り、衆目を浴びるという行為は、岐阜の後、大阪の天王寺動物園と心斎橋でも行われた。このハプニングを契機として池水は動物園に注目し、その社会的機能について考えていくことになる。1979年にはじめて天王寺動物園でゴリラに注目し、作品《毛深き人たち》を制作して以来、池水は全国各地の動物園にゴリラを訪ね、その個体数と環境を調べ、また動物学者や飼育員に取材やインタビューを通じて、動物園の飼育環境や飼育と展示、さらには動物園の機能と歴史からやがて自然と人間との関係にまで思索を拡げて行った。名古屋市東山動物園についても、数年に亘って通い続け、ゴリラの生態を観察し続けてきた。

今回の展覧会では、東山動物園はじめて全国で取材したゴリラの写真と映像、さらには展覧会に先立ち、企画をよりよく理解し楽しんでもらうために開催した写生会とワークショップの成果である市内の小学生の絵画と立体を複合的に展示し、この繊細な「毛深き人たち」を通じて、自然と人間との関係について思索を拡げていくことを目指した。

A) 写生会“ゴリラを描こう”

東山動物園との共催事業。ゴリラの野外放飼場を前に、写生会を開催。作家・池水慶一、美術館担当学芸員、美術館ボランティアが付き添い。ゴリラを身近に観て、その大きさを体感して、観ることと描くことを楽しむプログラム。当日描いた絵は、展示作品の一部として、地下ロビーにおいて展示した。

- ・ 5月22日(日)9:30集合、時間10:00～12:00
- ・ 対象:市内の小学4年生から6年生(事前募集)。
- ・ 参加者数:34名。

B) ワークショップ“メイキング・オブ・キング・ゴリラ”

写生会の参加者によるワークショップ。作家が用意した発泡スチロール製の、ゴリラのシルエットを連想させる人型4体に、参加者を四班に分け、テーマを決め共同制作を行った。表面、裏面ともにポスター・カラー、マジック等で描いた後に、各班でタイトルを決め、展覧会期間中、写生会の絵画とともに地下ロビーにおいて展示。



写生会



ワークショップ

- ・ 開催日:9月10日(土)9:15集合、9:30～12:00、13:00～15:30
- ・ 場所:美術館BF常設展示室3
- ・ 参加者数:26名。

関連事業

① 記念講演会:

日時:9月18日(日)14:00～

演題:「毛深き人たち—ゴリラとヒトの間」

講師:山極壽一(京都大学大学院理学研究科長、人類学、霊長類学)

場所:美術館2F講堂(入場無料、定員180名、先着順)

② “アニマル・トーク” + “ギャラリー・トーク”

東山動物園飼育係によるアニマル・トークと、作家によるプレゼンテーション(ギャラリー・トーク)を、動物園と美術館をリンクしながらツアー形式で開催。

日時:9月25日(日)13:00～ 東山動物園正面入口集合

13:00 東山動物園正面前集合

13:15～レクチャー+アニマル・トーク、終了後移動。

15:30 名古屋市美術館BFロビー集合、ギャラリー・トーク。

講師:渋谷康(東山動物園飼育係ゴリラ担当)+池水慶一

*参加自由。

③ シンポジウム「動物園と美術館:見ることと見せること」

日時:10月8日(土)14:00～15:30

出演:橋川央(名古屋市東山動物園・園長)

高橋綾子(名古屋芸術大学准教授、美術評論)

池水慶一

場所:美術館2F講堂(入場無料、定員180名、先着順)

出品作品

①BFロビー(キッズコーナー)

映像展示「ゴン太とオキとプッピーと」(DVD、約23分、名古屋市広報室制作)

②BFロビー

ゴリラ型オブジェ 4 体

[大(330×210×40cm、発泡スチロール)×1体、小(240×180×40cm、発泡スチロール)×3体]

《ゴリラパラダイス》、《ユメゴチャゴリラ》、《天然ゴリラ》、《ジャングルゴリラ》

市内の小学4年生から6年生写生会参加者38名による共同制作。

③常設展示室3 展示

・映像「毛深き人たち」(2011年)

《ウィリー 水を飲む》7'30"、《ゴンの死》7'30"、《コモモの誕生》6'37"

・映像「彼らの日常」(2011年、DVD、24'37")

④常設展示室3

○「東山動物園のゴリラたち」

・《「東山動物園のゴリラたち」系図》インクジェット・プリント アルミ複合板 750×1500cm

・写真パネル 4点(インクジェット・プリント、アルミ複合板 1189×841mm)

《シャバーニ ♂14歳》、《ネネ ♀39歳》《アイ ♀8歳》《オキ ♀(2011年12月没)》

名古屋市東山動物園

○「ウィリーに捧ぐ」

・《ウィリーに捧ぐ》インクジェット・プリント、ダイベック 2000×4000mm

・《ピンドンII ♂30歳、福岡市動物園》インクジェット・プリント、ダイベック 1189×841mm

○全国のゴリラ

《ドン ♂42歳(推定) 仙台市八木山動物園》《ダイスケ ♂32歳 日立市かみね動物園》

《ピーコ ♀41歳 上野動物園》《ト ♀33歳 上野動物園》《ムサシ ♂31歳 上野動物園》

《ナナ ♀29歳 上野動物園》《ハオコ ♂28歳 上野動物園》《モモコ ♀28歳 上野動物園》

《コモモ ♀1歳 上野動物園》《モンタ ♂27歳 千葉市動物公園》

《ローラ ♀34歳 千葉市動物公園》《ケンタ ♂34歳 千葉市動物公園》

《ショウ ♂34歳 浜松市動物園》《タロウ ♂35歳 犬山市日本モンキーセンター》

《ゲンキ ♀25歳 京都市動物園》《モモタロウ ♂11歳 京都市動物園》

《ヤマト ♂34歳 神戸市王子動物園》《サクラ ♀33歳 神戸市王子動物園》

インクジェット・プリント、ダイベック 1189×841mm



チラシ



展示風景



展示風景(地下ロビー)

特集：北川民次の芸術

The Art of Tamiji Kitagawa

会期：2012年1月21日(土)～3月25日(日)

会場

常設展示室 3

内容

北川民次は、1894年に静岡県榛原郡五和村(現在の金屋町五和)に生まれ、1914年に早稲田大学を中退、単身渡米して、ニューヨークで舞台美術の職人として働きながらアート・スチューデントズ・リーグに学び、1921年には革命直後の激動するメキシコに移住して、画家として本格的に活動を始めるとともに、トラルパンとタスコの野外美術学校において児童絵画教育に取り組んだ。

1936年に帰国すると、すでに戦争へと傾斜しつつあった日本の状況に戸惑いながら、大らかで力強いメキシコ壁画運動の巨匠たち(オロスコ、リベラ、シケイロス)のリアリズムを継承した画風の作品を二科展に出品して、二科会の会員となって活躍した。戦時体制が厳しくなっても、反戦の意思を秘めた作品を制作、発表した。

戦後、新しい民主的な日本の建設に期待を掛けて、社会的なテーマを積極的に取り上げた作品を制作するとともに、母子や家族、労働者など、同時代に生きる民衆の姿を愛情深く描き続けました。1978年に二科会会長の座を捨てて、絵筆を置くことを宣言するまで、半世紀以上に渡って、民衆のなかで民衆とともに生きる画家として活動して、1989年に95歳で亡くなった。

今回の特集は、特別展「ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト」の開催を記念して、メキシコ・ルネサンス壁画運動の巨匠リベラに影響を受けたアメリカの画家シャーンの多彩な分野の芸術をより深く鑑賞できるように、同じくメキシコにおいて、リベラの壁画作品に刺激された日本の画家「北川民次の芸術」を紹介した。

名古屋市美術館がこれまでに収集してきた北川民次の作品(油彩画15点、水彩・素描14点、版画22点、日本画1点、総計52点)は、1923年のメキシコ時代から1964年の瀬戸時代まで、代表作も含んだ「北川民次の芸術」を展望することのできる内容であり、すべての所蔵作品を一堂に展示する初めての機会となった。

関連事業

講演会「バットの哲学：北川民次の芸術について」

日時：2012年2月11日(祝・土)午後2時～

講師：山田 諭(名古屋市美術館・学芸員)



展示風景

出品作品

1	チュルプスコの修道院の回廊	1923/1955年	油彩・キャンバス	71.3×61.5cm
2	トラルパンの霊園のお祭り	1930年	油彩・キャンバス	90.5×89.8cm
3	メキシコ水浴の図	1930年	油彩・キャンバス	78.6×68.5cm
4	老人	1932年	油彩・キャンバス	76.0×61.0cm
5	タスコの山B	1934年	油彩・板	45.5×60.6cm
6	瀬戸の工場	1936年	グワッシュ・紙	39.0×40.0cm
7	瀬戸風景(中学生の居る風景)	1936年	グワッシュ・紙	38.5×38.5cm
8	陶器工場内部	1936年	グワッシュ・紙	39.8×40.6cm
9	静岡風景	1936年頃	水彩・紙	39.0×40.0cm
10	瀬戸風景(まちかど)	1936-37年	グワッシュ・紙	38.8×38.5cm
11	硅砂工場	1936-37年	グワッシュ・紙	36.0×39.5cm
12	酸素溶接工場	1937年	グワッシュ、鉛筆・紙	38.9×38.5cm
13	瀬戸風景	1937年	グワッシュ・紙	39.5×38.5cm
14-0	瀬戸十景:工場の一角	1937年	リノカット・紙	11.3×11.3cm
14-1	瀬戸十景:窯小屋	1937年	リノカット・紙	13.5×19.5cm
14-2	瀬戸十景:土掘り場	1937年	リノカット・紙	12.7×9.0cm
14-3	瀬戸十景:煙突のある風景	1937年	リノカット・紙	19.7×13.2cm
14-4	瀬戸十景:夜の工場	1937年	リノカット・紙	12.5×19.4cm
14-5	瀬戸十景:工場の中	1937年	リノカット・紙	19.7×13.0cm
14-6	瀬戸十景:ろくろを廻す男	1937年	リノカット・紙	19.6×12.3cm
14-7	瀬戸十景:山の中の窯場	1937年	リノカット・紙	11.9×16.0cm
14-8	瀬戸十景:窯焼き	1937年	リノカット・紙	13.3×19.5cm
14-9	瀬戸十景:窯入れ	1937年	リノカット・紙	19.4×12.2cm
14-10	瀬戸十景:瀬戸市街	1937年	リノカット・紙	19.4×12.3cm
15	家族	1937年	木版・紙	7.5×7.5cm
16	牛	1937年	木版・紙	8.0×11.0cm
17	自画像	1937年頃	木版・紙	7.0×4.2cm
18	メキシコの女	1937年頃	セルロイド凸版・紙	22.3×15.0cm
19	海王丸シリーズ(甲板)	1938年	グワッシュ・紙	36.8×44.9cm
20	海王丸シリーズ(通風筒)	1938年	グワッシュ・紙	36.3×51.6cm
21	海王丸シリーズ(舷側)	1939年	グワッシュ・紙	49.2×33.2cm
22	作文を書く少女	1939年	油彩・キャンバス	73.4×60.7cm
23	瀬戸登り窯	1940年頃	油彩・キャンバス	80.5×100.3cm
24	赤津陶工の家	1941年	油彩・キャンバス	128.1×163.6cm
25	赤津陶工の家(下図)	1941年	水彩、鉛筆・紙	29.8×38.0cm
26	蔬菜の図	1941年	紙本着彩、軸装	43.0×50.2cm
27	蔵書票(北川)	1942年頃	木版・紙	7.0×4.8cm
28	蔵書票(佐藤)	1943年頃	木版・紙	4.2×3.4cm
29	焼け跡	1945年	油彩・キャンバス	65.5×80.6cm
30	拳をあげる男	1947年	木版・紙	8.5×6.5cm
31	教育者	1947年	セルロイド凸版・紙	12.5×11.0cm
32	雑草の如くII	1948年	油彩・キャンバス	162.0×130.9cm
33	メキシコの男	1948年	セルロイド凸版・紙	6.5×8.5cm
34	蛇を握る女	1951年	木版・紙	7.2×5.3cm
35	『明治・大正名古屋市史』挿絵原画:ビジネス・センター	1955年頃	水彩・紙	21.5×30.5cm
36	『明治・大正名古屋市史』挿絵原画:枇杷島市場	1955年頃	水彩・紙	21.5×30.5cm
37	犬	1957年	セルロイド凸版・紙	11.5×13.0cm
38	ファンダンゴI	1958年	ピロキシリン・板	275.1×365.4cm
39	いなごの群れ	1959年	油彩・キャンバス	162.0×130.5cm
40	花	1962年	油彩・キャンバス	161.7×130.2cm
41	三人の女客	1964年	油彩・キャンバス	130.6×162.2cm
42	哺育	1964年	油彩・キャンバス	130.3×162.0cm

平成23年度は5本の特別展を開催しました。まず4月から6月にかけて開催したのが「写真家・東松照明全仕事」です。名古屋出身の東松照明は現代日本を代表する写真家の一人ですが、60年に及ぶその膨大な仕事の全貌を500点を超える代表作の数々によって紹介しました。戦後間もない時期の都市の記録に始まり、次第にアメリカ文化に覆われていく日本の姿、原爆の後遺症に苦しむ長崎の人々に向けたまなざし、独特の伝統と文化を保持する沖縄の風景、などなど多彩な写真作品の背後からは戦後の日本人の精神のあり様が事に浮かび上がってきます。かつて無い規模による本格的な回顧展ということもあり、地元名古屋はもちろんのこと、全国的な反響を呼び、写真の持つ力をあらためて感じさせてくれる展覧会となりました。

続く6月下旬から9月初旬にかけてはヨーロッパ絵画を代表する巨匠の一人レンブラントの回顧展を開催しました。レンブラントといえは明暗の対比を生かした劇的な画面構成で知られていますが、今回の展覧会は「光の探求／闇の誘惑」と題し、油彩と版画の二つのメディアにおけるレンブラントの明暗表現の変遷をたどりました。特に版画作品では、ステートや紙の違いによる表現の微妙な差を展示によって明確にし、版画の奥深い魅力を紹介しました。小さな画面の中に広がる複雑にして多様な世界と、それを可能にする卓越した技巧に多くの来館者が魅了されました。

9月中旬から10月下旬にかけては、現代日本画を代表する作家の一人、平松礼二の回顧展を開催しました。東京に生まれ、幼い時に名古屋に移り、この地で画家としての地位を確立した平松礼二の、ほぼ半世紀にわたる画業を回顧したこの展覧会では、これまで紹介されることの無かった「平松邦夫」時代の最初期の作品から、ライフワークとなる「路」シリーズ、さらには近年のジャポニスム研究から琳派様式の再興に至る作品まで、還暦を迎えた画家の多彩な作風の全貌を紹介しました。多数の屏風を含む大画面作品が並んだ会場

は圧巻の一言で、日本画の装飾性と繊細な美しさに、奔放さと大胆さが加わったその独特の絵画世界を多くの方が満喫されました。

年末の11月初旬から12月下旬にかけては、その独自の画風によって戦後の日本画壇に新風を吹き込んだ中村正義の全貌を紹介する「日本画壇の風雲児 中村正義 新たなる全貌」を開催しました。豊橋に生まれた中村正義は早くからその才能を注目され、若くして日展の審査員となりましたが、既存の日本画のあり方に飽き足らず日展を脱退し、以後技法的にも画題的にも従来の枠組みを大きく超えた作品を発表し続けました。今回の展覧会では日本画革新のためにその生涯を捧げた中村正義の全貌を、これまでほとんど公開されることの無かった初期作品や、長らく不明だった作品なども含む230点を超える代表作によって回顧しました。没後35年を経て、初めて中村正義の作品に触れた若い世代の来館者も数多く、今なお輝きを放つその作品群に新たな感動の輪が広がりました。

平成23年度最後の特別展として2月中旬から3月下旬にかけて「ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト」を開催しました。日本でも人気の高いベン・シャーンの展覧会は過去何度か開催されていますが、今回は絵画、写真、版画など、多様な媒体を駆使してメッセージを伝えようとしたこの芸術家の本質を400点を超える膨大な作品群によって紹介しました。この地方ではほぼ20年ぶりとなる回顧展ということもあり、初めてベン・シャーンの作品に触れた方々は、今なお新鮮なそのデザイン感覚に魅了されるとともに、この作家が提議した様々な問題意識を改めて共有していました。とりわけ第五福竜丸の事件に取材した「ラッキー・ドラゴン」シリーズは、会期中に東日本大震災の一周年を迎えたこともあり、核時代の恐怖を予見した作品として多くの方々の強い関心呼びました。

写真家・東松照明 全仕事

TOMATSU SHOMEI: PHOTOGRAPHS

会期：2011年4月23日(土)～6月12日(日)

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、東海テレビ放送

後援

愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会、中日写真協会

協力

名古屋市交通局

特別協賛

愛知大学、愛知大学同窓会

観覧料

一般1,100円、高大生700円、小中生400円

内容

現代日本を代表する写真家・東松照明(1930～)は、写真というメディアの記録性を活かしながら、敗戦からのわれわれ日本人の精神の在り処を模索・表現し、“戦後写真の巨人”とまで称されている。

名古屋市東区新出来町に生まれた東松は、愛知大学在学中にアマチュア向けの月例懸賞写真に投稿し、当時写真のリアリズム表現を牽引していた木村伊兵衛や土門拳から高い評価を受け、早くから注目されていた。

ひとつのテーマについて、複数の写真と説明文によって「フォト・ストーリー」を展開する手法を獲得しながら、やがて東松はそれとは異なる新たなドキュメントを目指し、従来の報道写真の枠から逸脱しながらも、戦後日本が抱えることになった矛盾や問題を提起し続けていく。

1960年代に入ると、写真家は時事や社会批評とともに、歴史と現代を結びつける、長大な叙事詩とも呼ぶべきテーマに取り組むことになる。

原子爆弾の投下による「被爆」とその後の精神的葛藤を追及し、写真家のライフ・ワークともなった「長崎」シリーズ(1961～)。占領と独自性が屹立する沖縄の精神性を注視した『太陽の鉛筆』(1975)から始まる沖縄に取材した一連の作品群。さらには、都市や自然の情景を抽象絵画を想わせる美しい画面にまで昇華した連作等は、戦後日本と日本人の精神的な「原風景」に回帰するばかりでなく、時間や人間存在に対する深い思索に誘うものとして、国内はもとより海外でも高い評価を獲得している。今回の展覧会では、60年に及ぶ東松照明の表現の集大成を見せる本格的な回顧展として開催した。

図録

29.8×22.7cm 308頁

編集：名古屋市美術館

発行：「写真家・東松照明 全仕事」展実行委員会

(名古屋市美術館、中日新聞社、東海テレビ放送)



展示風景



ポスター



図録

関連事業

・記念対談

日時：4月23日(土)午前11時～

演題：鼎談「写真事始」ふたたび

出演：中平卓馬(写真家)＋倉石信乃(明治大学工学部准教授、写真史)

会場：中区役所ホール、入場無料、定員250名、先着順

・映画上映会

演題：“ヌーヴェル・ヴァーグの時代”Nouvelle Vague in May.

1950年代末にパリで巻き起こり、「新しい波」と呼ばれた一群の映画作品を特集して上映。

日時：5月6日(金)、8日(日)、14日(土)、15日(日)、20日(金)、21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)

会場：美術館2F講堂、入場無料、定員180名、先着順

・解説会

日時：5月7日(土)、6月11日(土)いずれも午後2時～

会場：2階講堂

レンブラント 光の探求／闇の誘惑

版画と絵画 天才が極めた明暗表現

Rembrandt: The Quest for Chiaroscuro

会期：2011年6月25日(土)～9月4日(日)

主催

名古屋市美術館、中京テレビ放送

後援

オランダ王国大使館、愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

特別協賛

木下工務店

協賛

大日本印刷、日本興亜損保

協力

エールフランス航空、KLMオランダ航空、日本貨物航空、日本航空、
日本通運、パナソニック電工、名古屋市交通局

企画協力

NTVヨーロッパ

観覧料

一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円

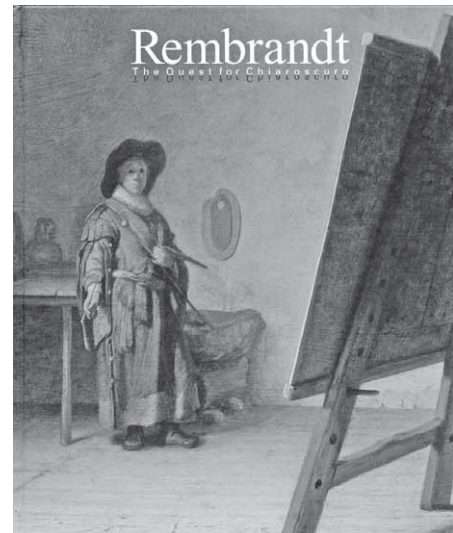
内容

本展覧会は、17世紀を代表するオランダの画家、レンブラント・ファン・レイン(1606～1669)が極めた明暗表現のすばらしさを伝えるべく企画された。オランダのレンブラントハイスの協力のもと、版画を中心に世界中から重要な作品が集まり、版画93点、油彩画11点、素描1点、銅版(原版)2点の計107点のレンブラント作品を核に、関連作家の作品10点を加えた総数117点の作品が展示された。レンブラントは生涯を通じて、白と黒の芸術である銅版画に取り組んだが、出品作品には代表作である《病人たちを癒すキリスト》や、当時まだオランダに輸入されたばかりの貴重な和紙に刷られた作品も含まれた。本展覧会の最大の特徴は、同一の銅版を用いながらも異なった用紙に刷られた版画、またステートの違う版画を比較展示したことにあり、レンブラントの大胆な創意と繊細な美意識を示すことができた。油彩画では、数は少なかったものの、《アトリエの画家》(ボストン美術館蔵)や《ヘンドリック・スτροφフェルス》(ルーヴル美術館蔵)といった素晴らしい傑作の出品が叶った。

本展覧会では、パナソニック電工の協力を得て、照明の一部にLEDスポットライトを導入した。光色の違う2つのライトを同時に使用することで、光を油彩画ごとに適した色温度に調整し、また低い光量でも安定した色温度を保つLEDの特性を活かして、同一条件下で版画の微細な質感の違いを比較することができた。



ポスター



図録



展示風景



展示風景

図録

24.1×20.1cm 360頁

編集:幸福輝氏(国立西洋美術館シニア・キュレーター)

日本テレビ放送網株式会社

発行:日本テレビ放送網株式会社

価格:2,300円

関連事業

上映会

演題:「レンブラント 描かれた人生」(1936年 81分)

日時:7月10日(日)、8月7日(日)各日14:00～

演題:「ようこそ、アムステルダム国立美術館へ」(2008年 117分)

日時:7月24日(日)、8月21日(日)各日14:00～

会場:名古屋市美術館 2階講堂

講演会

日時:7月30日(土)14:00～15:30

講師:幸福輝氏(国立西洋美術館シニア・キュレーター)

演題:「レンブラント—光と闇をこえて」

会場:名古屋市美術館 2階講堂

展覧会解説

日時:7月9日(土)、7月23日(土)、8月6日(土)、8月20日(土)

各日14:00～14:45

講師:保崎裕徳(名古屋市美術館学芸員)

会場:名古屋市美術館 2階講堂

以上いずれも無料、先着180名

講習会

パナソニック電工セミナー『レンブラント×LED』

日時:7月27日(水)17:30～18:30

講師:藤原工氏(パナソニック電工株式会社 照明事業本部 照明エンジニアリング総合部 照明デザインEC)

会場:名古屋市美術館 2階講堂、企画展示室1・2

対象:愛知県、岐阜県、三重県の美術館、博物館の学芸員など(事前申込制)

名古屋観光ホテル開業75周年記念イベント

「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」アートレクチャー&ランチ

日時:7月9日(土)11:00～13:30

講師:保崎裕徳(名古屋市美術館学芸員)

会場:名古屋観光ホテル宴会場

料金:7,500円(観覧券付き)、6,500円(観覧券なし)

特別講演会

レンブラントとフェルメールを極める

日時:7月12日(火)13:30～15:40

講師:西崎紀衣(豊田市美術館学芸員)

保崎裕徳(名古屋市美術館学芸員)

会場:名古屋市東文化小劇場

無料、先着300名

宗次ホール×名古屋市美術館 共同企画

アニメ・コンコルディア～2本のバロックヴァイオリン～

レンブラントが聴いていた同時代の音楽たち

日時:8月10日(水)13:30～15:00

演奏:戸田薫(ヴァイオリン)、パウル・エレラ(ヴァイオリン)

レクチャー:「レンブラントとバロック美術」

講師:保崎裕徳(名古屋市美術館学芸員)

会場:宗次ホール

料金:2,000円

画家五十年の軌跡 平松礼二展

Reiji Hiramatsu; Fifty Years of his Works

会期：2011年9月13日(火)～10月23日(日)

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、東海テレビ放送

後援

愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

特別協賛

愛知大学、愛知大学同窓会

協力

名古屋市交通局

観覧料

一般：1,100円、高大生：700円、小中生：400円

内容

名古屋で育ち、名古屋で画家となった平松礼二の50年間の軌跡を紹介する回顧展。横山操を師と仰ぎ、日本画の革新を志した若き日の重厚にして鮮烈な作品から、苦闘の果てに生まれ、現在にまで続くライフワークとなった「路」シリーズ。モネをはじめとする印象派の研究を経て生まれた近年の装飾的で華麗な作品。さらに東日本大震災に取材して本展のために制作された新作まで47点の代表作と、11年間にわたって担当した雑誌『文藝春秋』の表紙絵の中から選ばれた36点を加えて、合計83点の作品をほぼ年代順に7つのセクションに分類して、平松礼二の芸術の全貌とその様式の変遷を紹介した。

図録

30.5×22.5cm、106頁

編集：名古屋市美術館、中日新聞社

発行：中日新聞社

関連事業

①記念対談

日時：2011年9月18日(日)午前11時～

場所：名古屋市科学館サイエンス・ホール

講師：平松礼二＋月尾嘉男(東京大学名誉教授)

演題：「明日の日本のために～文化による日本再生をめざして～」

②記念講演会

日時：2011年10月9日(日)午後2時～

場所：名古屋市美術館講堂

講師：平松礼二

演題：「振り向けば路、見つめれば路」

③作品解説会

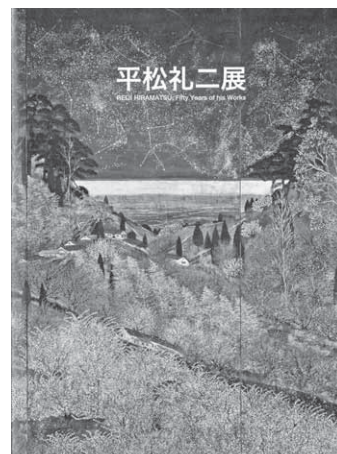
日時：2011年10月2日(日)午後2時～

場所：名古屋市美術館講堂

講師：深谷克典(名古屋市美術館学芸課長)



ポスター



図録



展示風景



展示風景

日本画壇の風雲児 中村正義 新たなる全貌

Nakamura Masayoshi: A Retrospective

会期：2011年11月1日(火)～12月25日(日)

主催

名古屋市美術館、中日新聞社

後援

愛知・岐阜・三重各県教育委員会

特別協力

中村正義の美術館

協力

名古屋市交通局

観覧料

一般:1,100円、高大生:700円、小中生:400円

内容

戦後、「日本画滅亡論」まで登場した日本画壇において、新しい時代の新しい日本画の創造を目指して活躍した中村正義。若くして日展の頂点に登り詰めながら、生来の批判精神と日本画壇の因襲への反発心から日展を脱退して、画題的にも画材的にも、日本画の既成概念を遙かに超越した多様多彩な絵画を描いて、「日本画壇の風雲児」と呼ばれた。

1924年、愛知県豊橋市に生まれ、日本画家・中村岳陵に入門して、1946年には第2回日展に初入選、1950年の第6回日展では最年少で特選を受賞、翌年から無鑑査となり、1952年の第8回日展では再び特選を受賞した。ところが、肺結核が再発したために長い療養生活を余儀なくされ、1957年の第13回日展で委嘱出品を再開、1960年の第3回新日展では審査員に推挙されたが、その翌年、仲間とともに日展を脱退した。

それ以降は、画風を一転させ、絵具に蛍光塗料を混ぜて描いた《男と女》や《舞妓》のシリーズや映画『怪談』のための大作《源平海戦絵巻》などの前衛的な作品を制作して、無所属の日本画家として活動を開始した。1974年には、社会的な意識の高い前衛画家によるグループ「从会」を結成して、現代社会に生きる人間の《顔》に現われた心の闇を描いた作品群を発表した。また一方で、鮮やかな静けさを湛えた風景画《太陽と月》シリーズや磨崖仏を思わせる仏画などの伝統的な画題でも独自の画風を探究した。しかし、1977年には肺癌のために52歳で夭逝した。

今回の展覧会では、戦後の日本画の革新運動の中心的な存在であった中村正義の変転し続けた芸術の「新たなる全貌」を、中村正義の美術館の全面的な協力を得て、総合的に紹介するものであり、日展出品作をはじめ各時期の代表作は勿論のこと、知られざる初期作品や長い間、所在不明であった代表作などが次々に発見されるとともに、これまであまり出品されることのなかった分野の作品群も加えて、総計230点を越える作品を集めて充実した内容での本格的な回顧展になる。



図録



ポスター



展示風景



展示風景

図録

28.0×21.0cm 232頁

編集:名古屋市美術館

発行:中日新聞社

関連催事

①記念対談「父をめぐる旅－異才の日本画家・中村正義の生涯－」

日時:11月23日(祝・水)14:00～

講師:中村倫子(中村正義の美術館・館長)

武重邦夫(映画監督)

司会:山田 諭(名古屋市美術館・学芸員)

会場:講堂(入場無料、定員180名、先着順)

②記念上映会 映画「怪談」(1965年／小林正樹監督／オリジナル版182分)

日時:11月13日(日)10:00～／13:30～

会場:講堂(入場無料、定員180名、先着順)

③記念琵琶演奏「平家物語」から「壇ノ浦」の段(約15分)

日時:11月3日(祝・木)／5日(土)／26日(土)／27日(日)

12月10日(土)／11日(日)

各日とも14:00～と15:00～の2回公演

演奏者:北川鶴昇(琵琶演奏家)

会場:常設展示室3(要入場券、定員50名、先着順)

④解説会

日時:11月6日(日)14:00～

講師:山田 諭(名古屋市美術館・学芸員)

会場:講堂(入場無料、定員180名、先着順)

ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト —写真、絵画、グラフィック・アート—

Ben Shahn: Cross Media Artist / Photographs, Paintings and Graphic Arts

会期：2012年2月11日(土・祝)～3月25日(日)

主催

名古屋市美術館、読売新聞社、中京テレビ放送、美術館連絡協議会

後援

愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

協賛

ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

協力

名古屋市交通局

観覧料

一般:1,100円 高大生:800円 小中生:500円

内容

20世紀のアメリカを代表し、社会派の作家として知られるベン・シャーン(1898～1969)の芸術を、絵画、素描、版画、ポスターなど約130点とオリジナル50点にデジタルイメージなどによる約200点を加えた写真によって紹介する日本では1991年以来約20年ぶりとなる回顧展。

アメリカのフォッグ美術館の協力を得て開催された本展は、シャーンの創作において重要な役割を持ちながら日本ではあまり紹介されることがなかった写真作品に光を当て、あるイメージが絵画や素描、版画、ポスターなどの表現手法において多様に変化して用いられ、豊かな表現世界を生み出していることを作品に即して紹介するとともに、シャーンの造形の魅力を「ドキュメンタリー、そして社会への告発」「『私』から共感へ」「文字への愛、神話の力」「アジア、そして日本へ」という4つのテーマのもとに解き明かし、あわせて代表作である〈ラッキー・ドラゴン〉シリーズをはじめとして、深い関わりのあった日本との関係をシャーンの創作と日本への影響のふたつの側面から紹介した。

図録

26.0×18.6cm 264頁 ISBN978-4-568-10430-1 C3070

編集：李美邦(神奈川県立近代美術館主任学芸員)、角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)、高嶋雄一郎(岡山県立美術館学芸員)、荒木康子(福島県立美術館学芸員)、堀宜雄(福島県立美術館学芸員)

発行：株式会社美術出版社

関連催事

記念講演会「ベン・シャーン 不変の良心」

日時：2012年3月4日(日)午後2時～4時

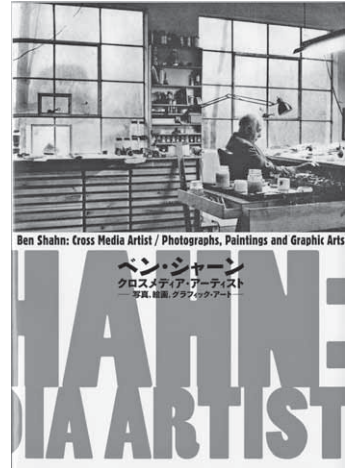
講師：ロジャー・バルバース(作家、劇作家、演出家)

会場：2階講堂、無料

*日本語による講演



ポスター



図録



展示風景



展示風景

解説会

日時：2012年3月17日(土)午後2時～4時

講師：角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)

会場：2階講堂、無料

上映会「第五福竜丸」

(新藤兼人監督作品、1958年、モノクロ、110分)

日時：2012年2月19日(日)および2月25日(土)

午後2時～4時

会場：2階講堂、無料

名古屋市美術館では、美術鑑賞の楽しさや面白さを体験できる美術館を目指して、今年度も来館者の皆さんからの多様な要望に応えられるように多彩な教育プログラムを実施しました。

一般向けには、特別展などでの講演会や解説会ですが、今年度は日本の画家、写真家の個展が続いたので、作家を交えた対談やシンポジウムを数多く開催しました。「写真家・東松照明全仕事」展では、東松照明（電話参加）を中心に写真家・中平卓馬と写真評論家・倉石信乃による記念鼎談「写真事始」ふたたび（中区役所ホール）を、「画家五十年の軌跡 平松礼二」展では、名古屋市科学館との共同企画によって、平松礼二と月尾嘉男（東京大学名誉教授）とによる記念対談「明日の日本のために～文化による日本再生をめざして～」（科学館サイエンスホール）を、「日本画壇の風雲児 中村正義 新たなる全貌」展では、撮影中のドキュメンタリー映画に関連して、中村正義の長女で中村正義の美術館の館長である中村倫子と映画監督・武重邦夫による記念対談「父をめぐる旅―異才の日本画家・中村正義の生涯―」を、常設企画展「池水慶一 毛深き人たち―東山動物園のゴリラたち」では、東山動物園との共同企画によって、池水慶一を中心に、東山動物園長・橋川央と美術評論家・高橋綾子によるシンポジウム「動物園と美術館：見ることと見せること」を開催しました。

海外の美術家の個展では、その美術家についての専門家を招いて記念講演会を開催しました。「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」展では、幸福肇（国立西洋美術館シニア・キュレーター）による「レンブラント―光と闇をこえて」、ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト」展では、ロジャー・パルバース（作家）による「ベン・シャーン 不変の良心」を開催しました。

また、特別展毎に担当する学芸員による解説会（全9回）も開催されました。

名古屋市美術館のコレクションについて、学芸員が最新の研究成果を踏まえて、その作家と作品の魅力を語る美術講座・コレクション解析学では、名品コレクション展にあわせて展示された多彩な美術家たち（小山田二郎、青木野枝、キスリング、ベッヒャー、スローン）の代表作5点についての調査・研究の成果を紹介しました。

映画上映会としては、特別展の関連催事として、東松照明展の特集上映「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」、レンブラント展の「レンブラント 描かれた人生」（1936年）とドキュメンタリー映画「ようこそ、阿姆斯特ダム国立美術館へ」（2008年）、中村正義展の小林正樹監督作品「怪談」（1965年）、ベン・シャーン展の新藤兼人監督作品「第五福竜丸」（1958年）が実施されました。

次に、子ども向けの教育普及事業としては、夏休みの恒例となった「夏休み こどもの美術館」では、「みせる・見せる・魅せる」というタイトルで、展示見学会「一枚の絵を展示するまで」やワークショップ「あなたの“見せ方”」を通して、作品を展示する方法や技術、目的や考え方を伝えることで、「見せる＝展示する」

ことに興味・関心を持って、理解を深めてもらえるように行いました。

一方、「美術をたのしむプログラム」名古屋市美術館の「キッズの日」として実施している美術鑑賞プログラムにおいては、「子どものためのワークシート」を配布するとともに、白川公園を巡る「“おと”探検隊」（鈴木昭男の《点音in白川公園》）と「宝物（＝美術作品）を守る」ために工夫されている「“びじゅつかん”探検隊」を全4回実施しました。

学校との連携による教育普及事業としては、平成15年度から開始された「出前アート体験」では、「名画の秘密をさぐる」「作品に託されたメッセージ」「美術から異文化を知ろう！」「アートカードで学ぼう」などのプログラムを持って、学芸員やガイドボランティアが出前授業（全8校）を行いました。また、学校の団体見学への対応においても、ガイドボランティアによる常設展のガイドトークを受けた児童・生徒たち（名古屋市内の小中学校をはじめとして、高校、大学、一般など27団体、1,475名）は充実した美術鑑賞の体験をしています。

また、今年度から名古屋市教育センター教職経験者研修会（Ⅱ）[10年研] 選択研修として、「名古屋市美術館における鑑賞教育講座」を開催しました。

このように名古屋市美術館が積極的な教育普及事業を展開できるのは、ボランティアの活動に支えられているからです。名品コレクション展でのギャラリートークを基本として、「キッズの日」の美術鑑賞プログラムの企画・実施、「出前アート体験」の「アートカードで学ぼう」の支援、常設展の学校団体向けガイドトークの実施、総合案内と図書室における来館者への案内活動、ボランティア養成講座のサポートを行う教育活動など、幅広い分野で活動を行ってきました。

今年度は、ボランティア第7期を募集、養成講座を経て、新たに30名を登録して、総計100名のボランティアが活動しましたが、ボランティア活動開始10周年記念プロジェクトの体験を生かした自主的な活動として、今年度も名古屋まつり開催日（常設展の入場料が無料）に、900名を越える来館者の皆さんに多彩な活動を通して、美術鑑賞を楽しんでもらいました。

また、震災から1周年となる「3月11日に美術とともに」過ごしてもらえるように、ボランティア有志（18名）によって「まるごと1日ギャラリートーク」を実施しました。

美術館の活動を支援することを目的とした美術愛好家の会である名古屋市美術館協力会では、春・秋の「美術館見学ツアー」と近郊の美術館への「美術鑑賞ミニツアー」（全4回）を実施するとともに、「作家を囲む会」（池水慶一、平松礼二）を開催しました。また、特別展を開催した平松礼二にオリジナル・カレンダーの作成を委嘱して、多数の新規会員の獲得に成果を挙げました。

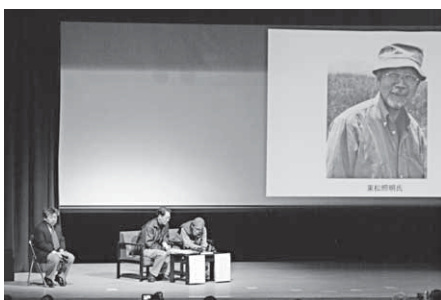
この他に、美術書や画集・展覧会カタログが充実した図書室の利用者も年間9,400余名になっています。出版関係では、多彩で豊富な記事が好評の美術館ニュース「アートペーパー」（第86～89号）とともに、『年報』『展覧会案内』を定期刊行しました。

1. 一般成人対象の事業

(1) 講演会・解説会

月日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者
4月23日(土)	11時～	東松照明展記念鼎談「写真事始」ふたたび	東松照明(写真家) 中平卓馬(写真家) 倉石信乃(明治大学理工学部准教授)	中区役所 ホール	400
5月7日(土)	14時～	東松照明展解説会	竹葉丈(当館学芸員)	講堂	40
6月11日(土)	14時～	東松照明展解説会	竹葉丈(当館学芸員)	講堂	68
7月9日(土)	14時～	レンブラント展解説会	保崎裕徳(当館学芸員)	講堂	144
7月12日(火)	13時半～	特別講演会「レンブラントとフェルメールを極める」	保崎裕徳(当館学芸員) 西崎紀衣(豊田市美術館学芸員)	東文化小劇場	250
7月23日(土)	14時～	レンブラント展解説会	保崎裕徳(当館学芸員)	講堂	45
7月30日(土)	14時～	レンブラント展講演会「レンブラント―光と闇をこえて」	幸福輝(国立西洋美術館シニア・キュレーター)	講堂	180
8月6日(土)	14時～	レンブラント展解説会	保崎裕徳(当館学芸員)	講堂	101
8月20日(土)	14時～	レンブラント展解説会	保崎裕徳(当館学芸員)	講堂	90
9月18日(日)	11時～	平松礼二展記念対談	平松礼二(日本画家) 月尾嘉男(東京大学名誉教授)	市科学館サイ エンスホール	250
9月18日(日)	14時～	池水慶一展記念講演会「毛深き人たち―ゴリラとヒトの間」	山極壽一(京都大学大学院理学研究科長)	講堂	45
9月25日(日)	13時～	池水慶一展「アニマル・トーク」	澁谷康(名古屋市東山動物園・ゴリラ担当飼育員)	東山動物園	90
9月25日(日)	15時半～	池水慶一展「ギャラリートーク」	池水慶一(現代美術家)	常展3	48
10月2日(日)	14時～	平松礼二展作品解説会	深谷克典(当館学芸課長)	講堂	47
10月8日(土)	14時～	池水慶一展シンポジウム 「動物園と美術館: 見ることと見せること」	橋川央(名古屋市東山動物園・園長) 高橋綾子(名古屋芸術大学准教授) 池水慶一(現代美術家)	講堂	40
10月9日(日)	14時～	平松礼二展記念講演会	平松礼二(日本画家)	講堂	220
11月6日(日)	14時～	中村正義展解説会	山田諭(当館学芸係長)	講堂	79
11月23日(水祝)	14時～	中村正義展記念対談 「父をめぐる旅―異才の日本画家・中村正義の生涯―」	中村倫子(中村正義の美術館館長) 武重邦夫(映画監督)	講堂	120
3月4日(日)	14時～	ベン・シャーン展記念講演会「ベン・シャーン 不変の良心」	ロジャー・パルバース(作家、劇作家、演出家)	講堂	155
3月17日(土)	14時～	ベン・シャーン展解説会	角田美奈子(当館学芸員)	講堂	87

計 2499



東松照明展講演会



平松礼二展記念対談



平松礼二展講演会



中村正義展記念対談



ベン・シャーン展講演会

(2)美術講座 コレクション解析学

月日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者
5月29日(日)	14時～	小山田二郎《昔の聖者》	清家三智(当館学芸員)	講堂	45
7月31日(日)	14時～	青木野枝《水天1・14》	角田美奈子(当館学芸員)	講堂	75
9月25日(日)	14時～	クスリング《ルネ・クスリング夫人の肖像》	原沢暁子(当館学芸員)	講堂	65
11月27日(日)	14時～	ベルント／ヒラ・ベッヒャー《巻き上げ機》	笠木日南子(当館学芸員)	講堂	48
1月29日(日)	14時～	スローン《ヴェレージ監獄の解体》	深谷克典(当館学芸課長)	講堂	72

計 305

第1回：5月29日(日)午後2時～

作品：小山田二郎《昔の聖者》1956年

演題：「With or Without You」

講師：清家三智(学芸員)

内容：小山田二郎(1914-1991)は、優れた色彩感覚と描写力を有し、自己の内面世界を幻想的に描きながら社会の不条理を問い続けた、戦後を代表する画家であるが、今やその活躍を知る人は少ない。彼の作品はいずれも自身の生い立ちや体験が描かせた一種の自画像と言えるが、キリスト教の古典的な主題を連想させつつ、悲劇の最中すでに諦めの境地に至ったような乾いた印象や滑稽さを感じさせる《昔の聖者》を通して、作者は何を訴えかけたのか、画業の変遷や描かれた当時の社会状況とともに探った。

第2回：7月31日(日)午後2時～

作品：青木野枝《水天1・14》2007年

演題：「生命のかたち」

講師：角田美奈子(学芸員)

内容：青木野枝(1958-)は現代日本を代表する彫刻家である。鉄を溶断、溶接してかたち作る作品は、世界にひそむ生命の始原的な形態をあらわすとともに、つらなり生まれいでる生命の動的循環をあらわしている。作家は、立体造形だけでなく、素描や版画などの平面造形においてもすぐれた作品を残している。これまでに制作されたもののうち、もっとも大きな版画作品である《水天1》と《水天14》から、作家が自作において実現し、感得しようとしていることがらを、彫刻作品やその他の版画作品を参照しながら紹介した。

第3回：9月25日(日)

作品：クスリング《ルネ・クスリング夫人の肖像》

演題：「華やかさと憂いと」

講師：原沢暁子(学芸員)

内容：クスリング(1891-1953)は、ポーランドに生まれ、1910年にパリに出て、エコール・ド・パリの画家として活躍した。彼が妻をモデルに描いた《ルネ・クスリング夫人の肖像》には、クスリングらしい華やかさが見られるが、同時に、夫人の表情やポーズから、憂いも感じ取ることができる。この作品に表れた二面性は、そのまま、エコール・ド・パリの持つ二面性を反映しているとも言えるだろう。作品を観察し、クスリングの生涯についても辿ることを通じて、成功者であったこの画家の華やかな部分と憂いの部分にスポットを当て、クスリングという人物と作品について探った。



第4回：11月27日(日)午後2時～

作品：ベルント／ヒラ・ベッヒャー《巻き上げ機》1980年

演題：「芸術としての写真？写真としての芸術？写真はやっぱり写真？」

講師：笠木日南子(学芸員)

内容：ベッヒャー(ベルント：1931-2007 ヒラ：1934-)の作品には、近代の産業遺物が写された写真が並べられている。まるでその形態の類型を指し示す表のように、同じ大きさで同じ構図で撮られている。現在では誰もが気軽にデジタルカメラで写真を撮ることができ、写真は表現として身近な存在になっているが、私たちが撮るようなスナップ写真とベッヒャーの作品との違いを起点に、写真の持つ、物事を写しだすという記録的な性質と、画面にイメージをアーティストティックに展開できるという芸術表現としての側面について解説し、ベッヒャーの作品について、写真をメディアとした芸術表現という点から考察した。

第5回：2012年1月29日(日)午後2時～

作品：ジョン・スローン《ヴェレージ監獄の解体》1929年

演題：「時代を映す鏡としての絵画」

講師：深谷克典(学芸課長)

内容：1908年にニューヨークのマクベス画廊でグループ展を開き、一大センセーションを巻き起こした8人の画家「ジ・エイト」。アメリカ美術の底流にあるリアリズムの精神を、大都会を舞台に率直に描き出した彼らの作品は、その後も大きな影響を持ち続けた。グループの中心的なメンバーである、

ジョン・スローンが大恐慌の始まる年である1929年に描いた《ヴィレッジ監獄の解体》はこの画家の代表作の一つだが、このような作品がアメリカ美術の主流となる歴史を、19世紀半ばのハドソン・リバー派の誕生から説き起こした。また、スローンの作風の変遷をたどるとともに、この作品の背

後に描かれているヴィレッジ監獄の歴史についても触れ、解体後新設された女性留置所に壁画を描いた画家ルシエンヌ・ブロックの経歴、交友関係があったディエゴ・リベラ、フリーダ・カーロらとの関係についても触れた。

(3)上映会

月日	時刻	内 容	場 所	参加者
5月6日(金)	18時～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[ヒロシマ・モナムール](アラン・レネ監督、1959年、91分、英語字幕付き)	講堂	13
5月8日(日)	10時半～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[ヒロシマ・モナムール](アラン・レネ監督、1959年、91分、英語字幕付き)	講堂	25
5月8日(日)	14時～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[去年マリエンバードで](アラン・レネ監督、1961年、94分、英語字幕付き)	講堂	39
5月14日(土)	14時～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[女は女である](ジャン＝リュック・ゴダール監督、1961年、84分、日本語字幕付き)	講堂	40
5月15日(日)	10時半～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[8 1/2(はっかにぶんのいち)](フェデリコ・フェリーニ監督、1959年、92分、英語字幕付き)	講堂	50
5月15日(日)	14時～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[アラン・レネ/ジャン＝リュック・ゴダール短編集](アラン・レネ/フェデリコ・フェリーニ監督、トータル123分、日本語字幕付き)	講堂	55
5月20日(金)	18時～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[バリとところどころ](1965年、95分、日本語字幕付き)	講堂	42
5月21日(土)	14時～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[地下鉄のガジ](ルイ・マル監督、1960年、96分、日本語字幕付き)	講堂	38
5月28日(土)	14時～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[マンハッタンの二人の男](ジャン＝ピエール・メルヴィル監督、1958年、84分、日本語字幕付き)	講堂	28
5月29日(日)	10時半～	東松照明展関連「ヌーヴェル・ヴァーグの時代」[死刑台のエレベーター](ルイ・マル監督、1957年、91分、日本語字幕付き)	講堂	42
7月10日(日)	14時～	レンブラント展関連「レンブラント 描かれた人生」(1936年、81分)	講堂	121
7月24日(日)	14時～	レンブラント展関連「ようこそ、アムステルダム国立美術館へ」(2008年、117分)	講堂	97
8月7日(日)	14時～	レンブラント展関連「レンブラント 描かれた人生」(1936年、81分)	講堂	120
8月21日(日)	14時～	レンブラント展関連「ようこそ、アムステルダム国立美術館へ」(2008年、117分)	講堂	103
11月13日(日)	10時～	中村正義展記念上映会『怪談』(小林正樹監督、1965年、短縮版162分)	講堂	58
11月13日(日)	13時半～	中村正義展記念上映会『怪談』(小林正樹監督、1965年、短縮版162分)	講堂	43
2月19日(日)	14時～	ベン・シャーン展上映会『第五福竜丸』(新藤兼人監督、1958年、モノクロ、110分)	講堂	142
2月25日(土)	14時～	ベン・シャーン展上映会『第五福竜丸』(新藤兼人監督、1958年、モノクロ、110分)	講堂	149

計 1205

(4)コンサート

「平松礼二展」記念名フィル「まちかどコンサート」

日 時 9月24日(土)午前11時30分～
 演 奏 名古屋フィルハーモニー交響楽団
 曲 目 ペリのファンファーレ/アメリカン・パトロール/
 ポルカ「狩」ほか
 参加者数 105名



名古屋フィルハーモニー交響楽団

「中村正義展」記念琵琶演奏

日 時 11月3日(木・祝)、5日(土)、26日(土)、27日(日)、12月10日(土)、11日(日)午後2時～、午後3時～
 演 奏 北川鶴昇(琵琶演奏家)
 曲 目 「平家物語」から「壇ノ浦」の段
 のべ参加者数 438人



中村正義展記念琵琶演奏

「芸術と科学の杜」クリスマスコンサート

日 時 12月24日(土)午後3時～
 演 奏 Belle Age(ベルアージュ)
 曲 目 クリスマスメドレー
 参加者数 73名



クリスマスコンサート

「芸術と科学の杜」名フィル「まちかどコンサート」

日時 3月22日(木)午後3時～
演奏 瀬木理史(ヴァイオリン)、小泉理子(ヴィオラ)
曲目 ハルヴォルセン「ヘンデルの主題歌によるパッサカリア」／モーツァルト「歌劇『魔笛』序曲」／バッハ「インベンション」ほか
参加者数 70名

(5)その他

白川公園 野外彫刻鑑賞会

日時 11月26日(土)午前の回10:00～11:00／午後の回13:30～14:30
場所 名古屋市美術館敷地内の屋外、白川公園一帯
参加者数 午前7名／午後1名
スタッフ (学芸員)保崎裕徳
(ボランティア)午前2名／午後2名
内容 「芸術と科学の杜」推進事業として、名古屋市美術館周辺に設置された彫刻を当館ボランティアの案内で鑑賞する「屋外彫刻鑑賞会」を実施した。同日には科学館でも展示解説会があり、2館足並みをそろえてイベントを開催することで、「芸術と科学の杜」構想を市民に知っていただく機会とした。

2. 子ども対象の事業

(1)学校休業日の体験活動の推進

平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日(土日祝)を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。平成23年度は年間6回のプログラムを開催した。

①こどものためのワークシート

日時 開館中の土曜・日曜・祝日および学校長期休暇期間(139日間)
対象 小中学生
延べ実績 1,593枚
参加方法 当日常設展入口で随時受付
内容 名品コレクション展Ⅰ～Ⅲの各展示内容にあわせて展示作品をじっくり鑑賞するためのヒントやクイズを載せた「こどものためのワークシート」を配布し、取り組んでもらうことで作家や作品への理解を深めた。

②“おと”探検隊

日時 1回目…5月28日(土)
2回目…11月23日(水祝)
いずれも午前10時～正午
対象 小中学生とその保護者
参加者数 1回目…14名／2回目…27名
スタッフ 1回目…(学芸員)清家三智、ボランティア6名
2回目…(学芸員)清家三智、ボランティア8名
内容 目には見えない“音”を意識するための練習を参加者全員と一緒にを行った後で、2009年に設置された鈴木明男の作品《点音in白川公園》を体験しながら、身近な存在である“音”について考えを深めることをねらいとしたプログラム。意識して耳



をすますことで、音の動きや響き方、距離感などを聞きとるだけでなく、「見ること」と「聞くこと」のちがいに気づいたり、空間の広さ／狭さやその日の気候、身の回りの環境などについて五感を使って丁寧に感じ取る機会となり、参加者に白川公園という場の面白さや魅力に気づいてもらうことができた。

③“びじゅつかん”探検隊

日時 1回目…6月25日(土)
2回目…2月25日(土)
いずれも午前10時～正午

対象 小学生

参加者数 1回目…23名／2回目…21名

スタッフ 1回目…(学芸員)清家三智、ボランティア9名
2回目…(学芸員)原沢暁子、ボランティア9名

内容 (1回目)

美術館は何のための場所か、館内を探検しながら自分たちで見て、聞いて、考えを掘り深めていくプログラム。単なるバックヤードツアーではなく、館内の設備をくわしく観察することから「どうして美術館には開かない窓しかないのか」、「火事になったらどうするのか」、「なぜ収蔵庫の鍵はこんなにたくさんあるのか」などの疑問を参加者に抱かせ、館内で働いている人々の役割を考えながら学芸員と話し合う活動を通して、「宝物(=美術作品)を守る」という美術館の社会的役割への理解を深めた。

(2回目)

作品鑑賞と美術館内の探検(バックヤードを含む)を通じて、美術館がどんなところかを知り、今後の鑑賞にも繋げるプログラムを行った。

まず、講堂に集合し、美術館が作品を大切に守っている施設であることを話した。その後、常設展示室で少人数のグループに分かれて作品を鑑賞した。ボランティアのトークを交え、対話をしながらの鑑賞を行った。

続いて、美術館内を探検した。地下エレベーター、収蔵庫前、機械室を見た後、二つのグループに分かれ、警備員室、総務課、学芸課、図書室、総合案内などを探検。ボランティアがそれぞれ説明しながらまわった。

講堂にもどり、まとめを行って終了した。

④アート・ウォッチング

日時 1回目…10月29日(土)
2回目…1月28日(土)
いずれも午前10時～正午

対象 小学生

参加者数 1回目…24名／2回目…15名

スタッフ 1回目…(学芸員)清家三智、ボランティア10名
2回目…(学芸員)原沢暁子、ボランティア8名
内容 (10/29)

参加者を5～6名のグループに分け、それぞれにボランティア2名がつき以下の活動を行った。

①グループの代表者が感情や気持ちを表わす言葉が書かれたくじをひき、そのテーマについてグループ内で話し合う。どんな時にその気持ちになるか、その気持ちを感じている時どんな顔(=表情)をするか、互いの表情を見あっこして、表情が最も強調される角度やライティングを研究する。色も質感も異なる背景幕を用意し、どれが一番ふさわしいかなども考える。

②グループ内でモデル、照明係、撮影係などを役割分担し、先の意見交換を参考にテーマに合わせて作った表情をデジタルカメラで写真に撮る。プリントアウトされた写真を見ながら、自分たちで考えた通りに感情が読み取れるか、モデルの表情やポーズ、光、視点の方向などを分析してワークシートに記入する。

③全員で常設展に展示されているキスリング《ルネ・キスリング夫人の肖像》を鑑賞し、前半の体験も思い出しながらボランティアによるギャラリートークに参加。その後、再びグループに分かれて、展示室内の肖像画を見ながら気づいたこと・感じたことなど活発に意見交換を行い、肖像画を見る面白さ(=画家の工夫など)を発見する。

(1/28)

「絵のなかに入ってみたら」という想定で、簡単なワークショップと鑑賞を組み合わせたプログラムを行った。

まず、講堂に集合し、常設展に展示されているアンゼラム・キーファー《シベリアの王女》をモノクロコピーしたものに、それぞれ好きな色を付けてもらった。色をつけ終わったら、裏の質問事項「ここはどこかな?寒いかな暑いかな?」などに答えてもらい、自分の描いた絵がどんな印象かを考えてもらった。

続いて、実際に常設展示室の《シベリアの王女》の前に行き、ボランティアのトークを交えて鑑賞。自分の絵を持参して、実際の作品と大きさや色彩などを比べてみた。また、「絵の中に入ってみたら」という想定でも話をした。

最後に、少人数のグループに分かれて常設展の他の作品を鑑賞し、ボランティアのトークによって「絵の中に入ってみたら」という想定も交えて作品を観察した。

講堂にもどり、まとめを行って終了した。

(2)夏休み こどもの美術館

平成23年度は、「みせる・見せる・魅せる」と題し、展示およびワークショップを通して、作品を展示するためのさまざまな技術やその目的、考え方を伝えることで、「見せる(=展示する)」という行為に興味・関心を持つとともに、作品展示の役割に対する理解を深めてもらうことをねらいとした。

展示は、こどもたちの目線に立って考えた5つの疑問(「どうやって壁に絵をかけるの?」「絵の裏側はどうなっているの?」「絵をかける高さはどうやって決めるの?」「どうして額ぶちをつけるの?」「絵の並べ方は決まっているの?」)に答える形をとり、文章による説明よりも実際の作品や展示物をよく観察・比較することで理解できるように配慮した。会場には踏み台用に小さな椅子を用意し、絵の高さと見る人の目線の高さとの関係を参加者が自分で確認できるようにした。またパソコンの画面上で絵画作品の額ぶちを色々な種類に取り替えられる「額ぶちきせかえマシーン」を委託制作し、会場を見学した参加者が自由に操作することで、額ぶちが作品全体の印象に与える影響を実感してもらった。



タイトル 夏休み こどもの美術館2011「みせる・見せる・魅せる」

期間 7月23日(土)～9月4日(日)

会場 常設展示室3

A. ワークショップ「あなたの“見せ方”」

日時 8月2日(火)、3日(水)、18日(木)、19日(金)

いずれも1日2回

午前10:30～12:00/午後1:30～3:00

対象 小中学生

参加費 無料

定員 各回先着15名

参加者数 23名(4日間のべ)

内容 浅野弥衛の版画作品《タマゴのMetapher》(1～9)とその展示方法をよく観察した後、展示壁に見立てた画用紙の上に、縮小した作品図版を

思い思いの考えに沿って並べた。美術館において、作家から特に指示のない作品については、展示担当者(=学芸員)の考えが基になって展示される。作品一つ一つをじっくり鑑賞することで何かしらのストーリーを見出したり、造形的な特徴から共通点を探ったりしながら、どの順番で、どの高さに、どの程度間隔をあけて展示するか、参加者がシミュレーションを通して普段何気なく見ている美術館の展示に意識を向けることをねらいとした。



B. 見学会「一枚の絵を展示するまで」

日時 8月10日(水)、11日(木)

午前10:30～12:00

対象 小中学生

参加費 無料

定員 各回先着15名

参加者数 43名(2日間のべ)

内容 普段、一般来館者の目に触れる機会のない作品展示作業を体験しながら知るプログラム。あらかじめ展示壁に掛けておいたモディリアーニ《おさげ髪の少女》の複製を外して絵画の裏面を観察するところから始め、実際に使用する道具や展示備品を参加者に触ってもらって仕組みを理解し、対話による説明を加えながら、フックによる展示とワイヤーによる吊り展示の2パターンを実演した。展示する高さの決め方、地震対策などについても適宜紹介し、見えないところで行われている展示の工夫に気づいてもらうきっかけとした。

(3)その他

レンブラント展ガイドパンフレット「光と闇のマジック」

「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」の会期が小中学校の夏休みと重なることから、子ども達の鑑賞の助けとなるようなクイズや豆知識を盛りこんだガイドパンフレットを作成した。

制作部数 10,000部

配布 「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」展に来場した小中学生全員
(内容は小学5年生から中学3年生向き)



子供対象事業 レンブラント展 中学校美術部による団体鑑賞

6月末から9月初めにかけて開催したレンブラント展では、会期がちょうど夏休みに重なっていたこともあり、小中学生に向けたいくつかの新たな試みを行った。その一つとして中学校の美術部による特別団体鑑賞の受け入れを行った。夏休み期間中ということもあり、クラス単位や学校単位での美術館の見学は難しいため、部活動の一貫として中学校の美術部にレンブラント展の団体鑑賞を呼びかけた。初めての試みであったが、学校側の熱意もあり、27校、391名という予想外に多数の学校の参加をいただいた。会場での作品鑑賞の前に、講堂において展覧会の概要を学芸員が分かりやすく説明した後、小中学生用に特別に開発した「ガイドパンフレット」を手がかりに、各自が会場内で作品を楽しんだ。

名古屋市中国文化センターでの夏休みこども向け行事への協力

夏休み期間中、中国文化センターで実施する子ども行事の一つに協力して欲しいと、同じ区内にあることから依頼があった。

日時 8月8日(月)14:30～15:30

場所 名古屋市中国文化センター 和室

対象 小学1～3年生

(未就学児は保護者同伴で参加)

参加者数 4名

講師 (学芸員)清家三智、(調査員)林知万夫

内容 美術に親しむこと、作品をよく観察することを目的にアートカードを用いて以下の活動を行った。

① たんていゲーム

作品の一部を切り取って拡大した図版をよく観察し、60枚あるアートカードのどの作品の一部であるかを探して当てる。

② 7人をさがせ！

「女の人だけ」「男の人だけ」「男女あわせて」7人になるよう、アートカードの作品をよく見ながら組み合わせる。その後、人物のポーズに注目して「立っている人だけ」「右を向いている人だけ」「まっすぐ前を向いている人だけ」7人を同様に探す。

③ ジェスチャーゲーム

ジャンケンで順番を決め、最初の1人はスタッフから示されたカードをよく観察して作品の特徴を身ぶり手ぶりだけで表す。残りの子どもたちは場に広げられたカードとジェスチャーの共通点から正解を探す。

④ 「ぼくの／わたしの一枚」をかこう

全カード60枚から自分の気に入った／気になった作品を選び、よく観察しながら模写をする。描き終えたところで作品を選んだ理由や模写してみて難しかったところなどを話し合う。

3. 学校対象事業

(1) ボランティアによる学校団体向けガイドトークの実績

平成23年度学校団体受入

No.	日時	曜日	団体名	見学者数 (生徒数)	引率者数	対応ボランティア数
1	6月15日	水	名古屋市立中央高校（昼間定時制）1～3年生	13	2	0 ※
2	6月15日	水	名古屋市立南陽東中学校2年生	40	2	4
3	6月22日	水	名古屋市立吹上小学校4年生	5	0	1
4	7月26日	水	東京福祉大学1年生	7	1	1
5	7月26日	火	飛騨市立古川中学校美術部1～3年生	22	3	2
6	7月27日	水	名西子ども会1～6年生	28	3	3
7	8月24日	水	ひらばやし造形教室1～6年生	18	9	3
8	9月14日	水	長久手町立北小学校3年生	120	3	12
9	10月4日	火	名古屋市立太子小学校6年生	76	3	8
10	10月13日	木	名古屋市立愛知小学校5年生	50	3	6
11	10月19日	水	名古屋市立桶狭間小学校6年生	130	5	8
12	10月27日	木	名古屋市立栄小学校1～6年生	166	50	10
13	11月2日	水	名古屋市立笠東小学校4年生	61	2	6
14	11月4日	金	武豊町立富貴中学校1～3年生	6	2	1
15	11月10日	木	三好市立南部小学校5年生	64	2	7
16	11月22日	火	名古屋市立八事小学校4年生	56	2	7
17	11月30日	水	大府市立大府中学校1年生	100	5	9
18	12月7日	水	天白生涯学習センター	30	2	3
19	12月7日	水	西尾市立三和小学校4年生	82	4	9
20	12月14日	水	名古屋市立滝の水小学校4年生	100	7	6
21	12月14日	水	名古屋市立大磯小学校4年生	39	2	5
22	1月24日	火	名古屋市立植田中学校1年生	6	0	0 ※
23	1月25日	水	名古屋市立宮根小学校4年生	60	3	8
24	2月8日	水	名古屋市立扇台中学校1年生	10	0	2
25	2月9日	木	中学生涯学習センター	25	2	3
26	2月16日	木	名古屋市立極楽小学校5年生	72	2	8
27	2月24日	金	名古屋市立小幡北小学校5年生	89	2	10
計				1475	121	142

※は、学芸員が対応した。

(2)アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

平成23年度アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区	東山小 (千種区)	塚本 雅子	3	1、2、3
東区			3	4、5、6
北区	飯田小	山崎 美佳	4	7、8、9、10
西区	榎小	水野 由貴	3	11、12、13
中村区	中村小	厚東 実	3	14、15、16
中区	大須小	津嶋 英人	3	17、18、19
昭和区	北山中	秦 久美子	3	20、21、22
瑞穂区	萩山中	水谷 恵美	3	23、24、25
熱田区	白鳥小	中村 仁美	3	26、27、28
中川区	はとり中	松下 泰久	4	29、30、31、33
港区	港明中	木村 雄介	3	34、35、36
南区	柴田小	辻本 哲也	4	38、39、40、41
守山区	森孝中	小林 弘倫	4	42、43、44、45
緑区	太子小	中野 幸代	5	46、47、48、49、50
名東区	貴船小	児玉美恵子	4	51、52、53、54
天白区	御幸山中	吉田 有希	4	55、56、57、58

<美術館からの直接貸出>

No.	学校・団体名	ケース数
1	名古屋市立中央高等学校	1
2	栄トワイライトスクールほか	1
3	春日井市玉川小学校	2
4	愛知教育大学	1
5	岡崎市立大門小学校（教員研修用）	1
6	清須市立春日小学校	1
7	長久手町立北小学校	1
8	清須市立西枇杷島中学校	1
9	岡崎市立城南小学校	1
10	(東京都)板橋区立前野小学校	2
11	(愛知県)大町立大西小学校	1
12	名古屋市立牧の原小学校	1
13	西尾市立三和小学校	1
14	常滑市立三和小学校	2
15	犬山市立犬山西小学校	1
16	名古屋造形大学（小牧市民講座で使用）	1

貸出件数：16件、貸出数：19

<保管校から貸出>

区	貸出先	ケース数
千種	若水中学校	1
北	楠中学校	2
西	栄生小学校	3
	山田東中学校	3
	浮野小学校	3
中村	千成小学校	3
瑞穂	汐路小学校	2
	陽明小学校	2
熱田	大宝小学校	1
	白鳥小学校	2
中川	愛知小学校	1
港	東港中学校	1
	南陽中学校	1
南	千鳥小学校	1
	柴田小学校	1
	笠東小学校	2
	笠寺小学校	2
守山	瀬古小学校	2

区	貸出先	ケース数
緑	滝ノ水小学校	2
	桶狭間小学校	1
	太子小学校	1
	黒石小学校	1
	太子小学校	1
	熊の前小学校	2
	扇台中学校	1
	太子小学校	1
	黒石小学校	1
	太子小学校	1
名東	極楽小学校	1
	貴船小学校	1
天白	高坂小学校	1

貸出件数：32、貸出数：48

(3)出前アート体験

①南区・伝馬小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる
日 時 6月10日(金)11:00~12:00
場 所 クラス教室
対象学年 6年生1クラス33名
講 師 (学芸員)深谷克典
授業内容 当館で開催されるレンブラント展に出品される数点を取り上げてプロジェクターで投影して授業を行った。児童たちと一緒に観察しながら作品のよさを発見し、いったいどこがどんな風によいのか、写楽、ダ・ヴィンチ、モディリアーニなど、古今東西の有名画家の作品と比較しながら、レンブラントの作品が名画と呼ばれる理由を具体的に解説した。

②緑区・常安小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 6月14日(火)9:30~10:15/10:30~11:15
場 所 各クラス教室
対象学年 6年生2クラス61名
講 師 (学芸員)清家三智
スタッフ (ボランティア)6名
授業内容 各回、児童を6グループに分け、それぞれのグループにスタッフ1名がつき、以下の活動の運営・支援を行った。

①「アートかるた」

学芸員が読み上げる文章をよく聞いて、特徴が一致するカードを当てる。

②「キーワードを当てよう」

学芸員が何かの「ある/なし」を基準に、選んだアートカードを2つのグループに分けて黒板に提示する。児童は、分けられたカードの共通点や違いを見比べながら考え、基準となる「何か」を指すキーワードを推測する。

なお、出題した4つの問題の答えはそれぞれ「文字」「影」「背景」「輪郭線」。作品をよく観察すれば誰でも発見できる、基本的な造形要素とした。

③グループ・ディスカッション

②で取り上げられた作品のカードから1枚を選び、基準となった「何か」のある/なしによって作品の見え方・感じ方がどのように異なるか(例えば、影のある/なしで作品の印象はどう違うか)、なぜ作者は「何か」を描こう/描かないでおこうと思ったのか、各自の想像したことをグループで意見交換した。

上記3つの活動を、担当教諭からの表現力の向上につなげたいという考えを反映して行い、作品を客観的な視点から観察する力や、作品の改良

にあたってどんな造形要素を加えればよいかなどを判断する力を養う機会とした。

③名東区・本郷小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 9月13日(火)9:40~10:25/10:40~11:25
場 所 特別活動室
対象学年 6年生2クラス63名
講 師 (学芸員)角田美奈子
スタッフ (ボランティア)6名
授業内容 2クラスに対して、1クラスずつ同じ内容の授業を行った。

名古屋市美術館を例にして美術作品と美術館について紹介したあと、クラスで6つのグループに分かれて、「図画工作」の指導要領に記された目標(主に、「共通事項」、ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。/イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。)に配慮した課題「形と色で表わそう」を行った。スタッフは担任教諭とともに活動の支援を行い、児童はアートカード60枚のなかから用意された課題の言葉にふさわしい内容を持つカードを選び、選択の理由を作品に即して文章にまとめ、グループのあいだで各自が発表を行った。課題への取り組みを通して、児童ひとりひとりの想像力を刺激するとともに、グループ活動のなかで互いの発想を共有し、異なる感覚や意見への理解と共感を育む機会とした。

用意した課題の言葉は下記の通りである。学校からの希望により、抽象的な意味内容を形と色で表わすことを試みる言葉を選んでいる。

練習課題:「悩む」(選択のみで文章は書かない)

/本課題:「信頼」

④守山区・小幡北小

プログラム名 作品に託されたメッセージ
日 時 9月15日(木)9:40~10:25
場 所 特別活動室
対象学年 5年生3クラス88名
講 師 (学芸員)原沢暁子
授業内容 アメデオ・モディリアーニの《おさげ髪の少女》を採り上げ、画像を見せながら授業を行った。まず最初に、何が描かれているのかを、よく観察し、モディリアーニの絵の特徴を大まかに捉えてもらった。その後、絵に描かれている女の子について、何歳くらいであるのか、また、どんな女の子であるのかを、紙にそれぞれ書いて、何人かに発表してもらった。つづいて、モディリアーニという人物と、彼の他の作品についても説明し、最後に、再び

《おさげ髪の少女》を見て、最初とはまた異なった視点でそれぞれに作品を感じ取ってもらい、授業を終了した。

⑤西区・稲生小

プログラム名 名画の秘密をさぐる
日時 9月28日(水)10:50~11:35
場所 プレイルーム
対象学年 4年生3クラス85名
講師 (学芸員)深谷克典
授業内容 「世界の名作と呼ばれる作品のよさや創作の工夫を知ることで、秋の作品展に向けて児童の制作意欲を高めたい」という学校側の要望を受け、以下の4つのテーマに沿って授業を行った。取り上げた作品はいずれもプロジェクターで投影し、児童と一緒にじっくり見て考え、意見交換する時間を多く取った。
①芸術の本質とは何か:ピカソが自転車のハンドルとサドルで作った牡牛の頭
②優れた作品には優れた技術が必要:ダ・ヴィンチのモナリザ
③個性とは何か?:ピカソの二つの作品。モデルリアーニと贋作
④どんな風に描けばいいのか?

⑥名東区・牧の原小

プログラム名 アートカードで学ぼう
日時 11月2日(水)10:45~11:30/11:40~12:25
場所 図工室
対象学年 4年生1クラス31名
5年生2クラス48名
講師 (学芸員)保崎裕徳
スタッフ (ボランティア)5名
授業内容 児童を6グループに分け、各グループに講師およびスタッフが1名つき、以下の活動を行った。
<4年生>

- ①さがしてあてよう(同じ作者をさがす)
所蔵作品の複製図版「アートカード」60枚を場に広げる。スクリーンに映し出される作品を見て、同じ作者が作った別の作品のカードを、グループで相談して当てる。
- ②説明ゲーム
「いつ」「どこ」「だれ」「何をしている」「なんで」「どんな工夫」と書かれた6種類の「質問カード」を用意する。グループ内で、一人1枚「質問カード」をひく。話し合いの対象として1枚の絵を指定し、ひいた「質問カード」の質問に一人ずつ順番に答えていく。一人一人の答えをつなげていくと、絵についての説明文ができあがる。

<5年生>

- ①3つのヒントゲーム
「アートカード」60枚を場に広げる。司会者が与える3つのヒントから推測して、問題となっている作品を探し当てる。
- ②説明ゲーム
「いつ」「どこ」「だれ」「何をしている」「なんで」「どんな工夫」と書かれた6種類の「質問カード」を用意する。グループ内で、一人1枚「質問カード」をひく。話し合いの対象として1枚の絵を指定し、ひいた「質問カード」の質問に一人ずつ順番に答えていく。一人一人の答えをつなげていくと、絵についての説明文ができあがる。

⑦緑区・太子小

プログラム名 美術から異文化を知ろう!
日時 1月27日(金)10:45~11:30
場所 多目的室
対象学年 6年生2クラス72名
講師 (学芸員)山田諭
授業内容 児童を小グループに分けたところで所蔵作品であるフリーダ・カーロ《死の仮面を被った少女》の図版を配り、作品を細部までよく観察させ、気づいたこと・気になったことについて意見交換を行った。その後、世界地図やスライドなどを用いてメキシコの文化・風習についての話をし、作品から読み取れる事柄や日本とメキシコのつながりについて考えさせた。

⑧西区・城西小

プログラム名 アートカードで学ぼう
日時 1月27日(金)13:35~14:20/14:25~15:10
場所 各クラス教室
対象学年 5年生2クラス61名
講師 (学芸員)清家三智
スタッフ (ボランティア)6名
授業内容 各回、児童を6グループに分け、それぞれのグループにスタッフ1名が付き、以下の活動の運営・支援を行った。
①分類ゲーム
アートカード60枚を図柄が見えるように広げ、まずはそれぞれの作品をよく観察する。その後、学芸員の提示したテーマにあわせて、グループで協力してカードを分類する。複数のテーマに関連する紛らわしいカードについてはグループで話し合って分類先を決める。
②「キーワードを当てよう」
学芸員が何かの「ある/なし」を基準に、選んだアートカードを2つのグループに分けて黒板

に提示する。児童は、分けられたカードの共通点や違いを見比べながら考え、基準となる「何か」を指すキーワードを推測する。

③マッチング(絵合わせ)ゲーム

図版を伏せた状態でアートカード60枚を広げる。児童は順番に、神経衰弱の要領で2枚のカードを選んでみる。カードをよく観察し、両方に共通する事柄(例:人物が描かれている、同じ色が使っている、季節・時間帯が同じ、など)を指摘する。

(4)就業・職業・職場体験及び職場訪問受け入れ

1. 対象 中学校・高等学校 生徒

2. 内容 【体験】総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、清掃、警備、案内監視、施設管理等の業務内容を知り体験する。

【訪問】館内施設の見学をするとともに、疑問点についてインタビューを行い美術館に関する理解を深める。

3. 実績

実施日	内容	学校名	学年	人数	備考
23.8.2~3	体験	名古屋市立名古屋商業高校	2年	2人	
23.8.2~3	体験	名古屋市立西陵高等学校	2年	1人	
23.11.8	体験	東海市立横須賀中学校	2年	5人	
23.1.25	体験	名古屋市立鳴海中学校	2年	3人	
23.1.25	体験	名古屋市立伊勢山中学校	2年	6人	
24.2.1	体験	名古屋市立円上中学校	2年	1人	
24.2.1	体験	名古屋市立守山中学校	2年	4人	
23.6.1	訪問	西尾市立寺津中学校	2年	8人	
23.11.4	訪問	名城大学附属高等学校	1年	7人	
23.11.9	訪問	蟹江町立蟹江中学校	1年	6人	
24.1.24	訪問	名古屋市立千鳥丘中学校	1年	5人	
24.1.26	訪問	名古屋市立大江中学校	1年	6人	
24.2.8	訪問	名古屋市立黄金中学校	1年	4人	
24.2.9	訪問	名古屋市立はとり中学校	1年	7人	
24.3.6	訪問	KTC中央高等学院	—	3人	

(5)教員対象の講座

①教師のための美術館研修会

名古屋市立の小中学校、高等学校、養護学校の教員を対象に、美術館の基本的活動と、児童・生徒を対象にした美術鑑賞の実践例を紹介した。当館が提供している常設展のギャラリートークや、アートカードを使用した事前・事後授業の一例を実際に体験してもらい、美術館の利用法を具体的に知ってもらえるようにした。

日 時 8月3日(水)13:00~17:00

場 所 名古屋市美術館 講堂および常設展示室

参加者数 48名

講 師 (学芸係長)山田諭 (学芸員)原沢暁子、保崎裕徳

スタッフ (ボランティア)6名

②名古屋市教育センター 教職経験者研修会(Ⅱ)[10年研] 選択研修「名古屋市美術館における鑑賞教育講座」への協力

名古屋市教育センターからの依頼により、名古屋市立の小中学校、養護学校の教員を対象とする研修(10年研)の講座を提供した。図画工作、美術における、鑑賞教育の指導力の充実を図るとともに、教員としての視野を広げることを目的とした。前日に実施した「教師のための研修会」の内容をもとに、常設展のギャラリートークや事前・事後授業の方法など、美術鑑賞の実践例を紹介した。

日 時 8月4日(木)13:00~17:00

場 所 名古屋市美術館 講堂および常設展示室

参加者数 21名

講 師 (学芸係長)山田諭 (学芸員)原沢暁子、保崎裕徳

スタッフ (ボランティア)3名

③知多市教育研究会造形部会「夏期研修会」への協力

知多市教育研究会造形部会からの依頼を受けて、「美術鑑賞のあり方」と特別展「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」について解説した。「美術鑑賞のあり方」では、アートカードやプロジェクターを使い、教室で実施できる鑑賞授業の方法を中心に紹介し、鑑賞プログラムのねらいと評価について考えた。

日 時 8月19日(金)13:30~16:15

場 所 名古屋市美術館 講堂および常設展示室、特別展示室

参加者数 14名

講 師 (学芸員)保崎裕徳

(6)その他

「アートマイル 絆プロジェクト」作品展

昨年8月、東日本大震災からの復興を願って、名古屋市と仙台市の中学校の美術部が共同制作した絵画(シート壁画)を、震災から1年が経つ2012年3月11日より2週間、美術館で展示した。

「アートマイル 絆プロジェクト」とは、名古屋市と仙台市の中学校美術部が、被災地・支援者という関係ではなく、復興という未来を共に考えていく仲間として交流を深め、両者の絆をスケールの大きな絵画で表現・発信したものだ。JICA中部の主催で、名古屋市からは7校(今池中・円上中・笹島中・山王中・千鳥丘中・名塚中・御幸山中)、仙台市からは3校(第二中、六郷中、館中)の中学校美術部が参加した。両者は今年の6、7月にFaxやEメールを通じてプロフィールやアイデアを交換し、武将や干潟などの共通点を見つけながら壁画の構想を練っていった。8月、名古屋の生徒が先に絵を描き、これに仙台の生徒が加筆し

て壁画が完成した。

壁画は、縦1.5m、横3.6mという大きな画布5枚に両地域の名所や名物、“絆”や“調和”を連想させるモチーフをちりばめた作品で、つなげると18mの巨大な画面になる。9月から今年1月まで仙台市の中学校や市民センターなどで展示され、2月4日～10日までは、JICA中部で展示された。

会 期 2012年3月11日(日)～3月25日(日)

※ただし休館日の月曜日は非公開

公開時間 午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時まで)

展示場所 名古屋市美術館1階エントランス前(屋外)



今年度は7期のボランティアを募集したところ91名の応募があり、選考合格者を対象に10月～3月にかけて養成講座を実施した。平成24年度からは養成講座を修了した30名が新たに加わり、100名を超える団体に拡充するわけだが、一方で一人当たりの活動量を確保していくことも肝要であり、今後は新たな活動内容も視野に入れながら活動の幅を広げていくことが望まれる。

また、名古屋まつり開催の日曜日には、常設展が無料開放されるのにあわせて、ボランティアまつりを開催した。ボランティア有志による計画のもと、1点トークや彫刻ガイド、建物ガイド、ロビー案内、美術館周辺の美化運動などを実施し、来館いただいた約900人のお客様に美術鑑賞を楽しんでいただくとともに、ボランティア活動についても周知する機会とすることができた。

このほか、ボランティア内より、震災後の被災地のために何かしたいという申し出があり、募金活動等を行った。7月には、全国美術館会議が行う被災地の美術品レスキューのための募金をボランティア内で集め、「名古屋市美術館ボランティア」の名前で寄付した。また、震災から1年となる3月11日には、「まるごと一日ギャラリー・トーク」を実施し、古くなった展覧会

カタログの無償配布とあわせて募金活動を行った。

(1)ボランティア登録者(2011年4月～2012年3月)

第1期:江川敦子、大竹希至子、山田泰子 計3名

第2期:木村千代子、黒柳美紀子、桜井泉、杉山博之、藤栄朋子、堀井香里 ほか、計7名

第3期:今瀬弘美、小田光枝、神谷多恵子、北村圭衣子、榊原民恵、真田薫、竹山満里子、中嶋厚、三島きょう子 ほか、計10名

第4期:赤尾和江、天野恵子、荒川千華、井戸田早苗、加藤浩司、加藤真由美、久保田典子、栗木恵子、坂田典子、杉浦直子、田内徳隆、土田晶子、寺西春美、中野芳枝、安井まり子、山田由紀子 ほか、計19名

第5期:赤尾和子、加藤貞典、北川恭子、佐藤紀子、鈴木律子、瀧川友子、永田高志、野口健弘、原田直美、引地順子、平山千枝、藤井万巳、向井弓子、村松敦子、森和美、山田優子 ほか、計22名

第6期:伊藤えつ子、太田久美、荻野知恵子、梶田清美、加藤枝里香、坂井千恵、中村俊雄、林梨加 ほか、計14名

(2)定例会

定例会は原則として毎月第2土曜日の午前中に開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。

日時	時間	内容	講師
4月16日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅰ会場説明会	清家学芸員／角田学芸員
5月14日	午前10時～12時	名古屋市美術館のコレクションについて－1980年代の日本の美術	笠木学芸員
6月11日	午前10時～12時	写真の歴史と、名市美コレクションについて	原沢学芸員
7月9日	午前10時～12時	美術館での展示の工夫について	清家学芸員
8月6日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅱについて	笠木学芸員
9月10日	午後10時～12時	名品コレクション展Ⅱ会場説明会	笠木学芸員
10月8日	午前10時～12時	美人画について	保崎学芸員
11月12日	午前10時～12時	現代美術のコレクションについて	金城学院大学教授 山脇一夫
12月10日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅲについて	原沢学芸員／保崎学芸員
1月14日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅲ会場説明会	原沢学芸員／保崎学芸員
2月11日	午前10時～12時	7期の研修内容について	清家学芸員
3月10日	午前10時～12時	7期との交流会	ボランティア

(3)ガイド活動

①常設展ギャラリートーク

休館日を除く毎日(午前11時～・午後2時～)、一般を対象とした約1時間のガイドツアーをボランティア2名が担当した。

活動日数 278日間(「名古屋まつり」を除く)

延べ参加者数 1,666名

②特別展ギャラリートーク

特別展ギャラリートークは、ボランティアに参加の希望を募り、展覧会ごとに担当を分けて行う。ギャラリートークの開催日、開始時間、方法などは、担当ごとに選出するまとめ役を中心にした話し合いによって決定する。登録後2年を経過したボランティアのメンバーが活動している。

a) 写真家・東松照明 全仕事

開催日 4月30日、5月6日、13日、20日、21日、27日、28日、6月3日、4日(計9日)

時間等 金、土
10時30分～／13時30分～

担当 3期:2名、4期:2名 計4名
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ174人

b) レンブラント 光の探求／闇の誘惑

開催日 7月7日、8日、12日、13日、14日、15日、20日、21日、22日、26日、27日、28日、29日、8月2日、3日、4日、5日、10日、11日、17日、18日、19日(計22日)

時間等 火、水、木、金
10時30分～／13時30分～

担当 1期:2名、2期:2名、3期:2名、4期:1名、5期:5名 計12名
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ1,088人

c) 画家五十年の軌跡 平松礼二展

開催日 9月19日、22日、23日、24日、28日、30日、10月1日、5日、7日、10日、12日、14日、15日、18日、19日、22日、23日(計17日)

時間等 月(祝)、火、水、木、金、土、日
10時30分～／13時30分～

担当 2期:2名、3期:2名、4期:3名、5期:4名 計11名
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ700人

d) 日本画壇の風雲児 中村正義 新たなる全貌

開催日 11月10日、11日、15日、16日、19日、20日、22日、30日、12月2日、3日、4日、6日、13日、14日、16日、17日、18日、20日、21日、23日(計20日)

時間等 火、水、木、金、土、日
10時30分～／13時30分～

担当 3期:1名、4期:2名、5期:5名、6期:6名 計14名
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ497人

e) ベン・シャーン展

開催日 2月18日、21日、24日、26日、28日、29日、3月2日、3日、6日、7日、8日、9日、13日、14日、15日、16日、18日、20日(計18日)

時間等 火、水、木、金、土、日
10時30分～／13時30分～

担当 4期:4名、5期:3名、6期:3名 計10名
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ514人

③案内活動

総合案内・図書室案内を該当月の一定期間(定休日及び金曜日を除く)を、ボランティアで運営した。活動日一日につき6人(午前3人／午後3人)、延べ226人のボランティアが担当した。

〈活動日〉

月	日	月	日
4	_____	10	25 26 27 29 30
5	17 18 19 21 22	11	19 20 22 23 24
6	14 15 16 18 19	12	13 14 15 17 18
7	_____	1	_____
8	_____	2	4 5 7 8 9
9	27 28 29	3	3 4 6 7 8

(4) サポート活動

a) 係の活動

ボランティア全員が4つの係に分かれ、各まとめ役を中心に円滑なボランティア活動を支えるための活動を行っている。

・体験活動係

年6回開催される「キッズの日」各プログラムの実施に際し、スタッフの募集や実施までの連絡調整、教材の下準備、当日の運営サポートを主に受け持った。また、当日の円滑な事業運営や鑑賞対象となる作品への理解を深めるために、事前打ち合わせや意見交換を随時行った。

・資料係

常設展の展示替ごとにギャラリートークの参考となる資料を選別して、ボランティアに配布したり、特別展等で使用した図書資料や解説会の記録などを収集し、後に参照しやすいよう整理して保存するなど、資料の管理全般に携わった。

・研修係

館外研修として「マリー・ローランサンとその時代展」(一宮市三岸節子記念美術館)を、また、勉強会として連続講座「絵画を読む」、「解析学でトーク」(「コレクション解析学」を聴講した後で、ボランティア間で感想・疑問などを話し合うもの)、ボランティア定例会での特別レクチャー(講師:山脇一夫 金城学院大学教授)を企画・実施した。

・団体対応係

学校等の団体鑑賞を円滑に行うための取りまとめを行った。また、数回の打ち合わせを行い、小中学生向けのギャラリートークの円滑な進め方について話し合い、実施するよう努めた。

b) 係以外の自主的な活動

名古屋まつり特別企画 まるごと1日ギャラリートーク

日時 10月16日(日) 9:30~17:00
場所 地下一階常設展示室、屋外美術館敷地内など
スタッフ ボランティア41名
(学芸員)原沢暁子 保崎裕徳
内容 常設展が無料公開となる名古屋まつりの日にあわせて、普段ボランティアが常設展で行っているようなギャラリートークをより多くの人に体験していただくという趣旨の企画。来館者がいつ入場しても何らかのギャラリートークを聴くことができるように、二時間おきに二種類ずつ、計8回の常設展示室でのギャラリートークを実施した。また、建物ガイド、彫刻ガイドも行った。

① 1点トーク…ボランティアのリードにより、来館者が1つの作品をじっくり鑑賞するギャラリートーク。所要時間約20分。10:00~、12:00~、14:00~、16:00~開催。

② 建物ガイド…美術館内、館外を巡りながら、黒

川紀章設計の特徴ある建物を紹介するガイドツアー。所要時間約60分。11:00~、15:00~開催。

③ 彫刻ガイド…美術館の屋外を巡りながら、様々な彫刻作品を紹介するガイドツアー。

所要時間約60分。13:00~開催。

また、上記の活動以外に、美術館運営のサポートとして、「監視補助」と「ロビー案内」、「美化運動」において、ボランティアの協力を得た。監視補助は、当日の会場の混雑を考慮し、人の流れが滞る箇所や人が触れそうな作品の箇所にボランティアが立ち、適切に声を掛けてトラブルを防いだもの。ロビー案内は、当日の来館者に催事の案内や会場への誘導を行ったもの。美化運動は、名古屋まつりに先立ち、美術館外壁や周辺の清掃を行ったもので、9月27日(火)13:30~14:30に実施した。

(5) 案内活動研修

総合案内や図書室における案内活動をサポートするため、新たに活動への参加を希望するものに対し、研修の機会を設けた。

(6) その他

「3月11日を美術とともに」

日時	3月11日(日)
場所	常設展示室1・2、ロビー
内容	東日本大震災の発生から一周年となる3月11日を迎えるにあたって、美術が私たちの傷ついた心を慰め、沈んだ心を励まし、悲しい心に喜びを与えてくれるものであり、さまざまな思いや記憶が頭のなかを駆け巡るとき、美術を見ることで、心安らかな時間を過ごすことができるという、美術と美術館の力を信じて、「3月11日を美術とともに」、美術館で過ごしてもらえればと願い、ボランティア有志の皆さんの賛同と協力を得て、常設展・名品コレクション展Ⅲにおいて、「まるごと1日ギャラリートーク」を実施しました。また、美術館からの来館者の皆さんへの細やかな贈り物として、古くなった展覧会カタログ(1人1冊)を無償配布しました。

来館者の皆さんには、ゆったりと美術鑑賞を楽しみながら、3月11日を「忘れない日」として、心に刻んでいただくとともに、全国美術館会議の美術と美術館の復興を支援する募金にも協力していただきました。

スタッフ ボランティア有志(18名)

ギャラリートーク参加者 57名

カタログ配布数 113冊

全国美術館会議募金 34,713円

3 協力会

名古屋市美術館協力は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

＜会員数＞		＜新規・継続別＞ (平成24年3月31日現在)		
		新規	継続	計
特別会員	8名	特別会員 1名	7名	8名
一般会員	123名	一般会員 15名	108名	123名
ユース会員	9名	ユース会員 1名	8名	9名
ペア会員	38名	ペア会員 4名	34名	38名
(計)	178名	(計) 21名	157名	178名

平成23年度美術館協力会事業報告

- 1 展覧会ギャラリー・トークの開催**
 「写真家・東松照明 全仕事」
 平成23年5月8日(日) 47名参加
 「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」
 平成23年6月26日(日) 79名参加
 「画家五十年の軌跡－平松礼二展」
 平成23年9月18日(日) 50名参加
 「日本画壇の風雲児－中村正義展」
 平成23年11月6日(日) 47名参加
 「ベン・シャーン クロスメディア・アーティスト展」
 平成24年2月12日(日) 48名参加
- 2 美術館見学ツアーの実施**
 春 平成23年5月22日(日) 40名参加
 国立国際美術館、大阪歴史博物館、大阪市立美術館
 秋 平成23年11月19日(土)～20日(日) 36名参加
 クリスチャン・ボルタンスキー、豊島美術館、大原美術館、奈義町現代美術館
- 3 作家を囲む会**
 平成23年9月25日(日)
 「池水慶一氏」を囲む会 30名参加
 平成23年10月9日(日)
 「平松礼二氏」を囲む会 35名参加
- 4 美術館鑑賞ミニツアー**
 「フェルメール(地理学者)とオランダ・フランドル絵画展」
 豊田市美術館
 平成23年6月19日(日) 35名参加
 「近代日本の木彫展」碧南市藤井達吉現代美術館
 平成23年10月23日(日) 25名参加
 「生誕100年ポロック展」愛知県美術館
 平成23年12月18日(日) 17名参加
 「世界遺産 ヴェネツィア展」名古屋市博物館
 平成24年1月29日(日) 26名参加
- 5 ブログの運用**
 平成23年度ブログ閲覧状況
 [投稿58件、閲覧数10,952回、ユーザー数(延)2,713名]

- オリジナル・カレンダーの作成及び配付
 「平松礼二」氏の紙本着彩作品《池を渡る風》 250部
- 催しものの案内
 特別展、常設展、講演会などの情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付
- 作品の寄贈
 オリジナル・カレンダー 1件1点
 平成24年1月10日の資料収集審査委員会で決定
- 総会の開催
 平成23年6月26日(日) 24名参加(委任状63名)

4 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料やビデオ番組を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

図書資料分類別冊数一覧 (平成24年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	567(2)	223(0)
画集、美術全集、所蔵品目録	7,092(49)	3,438(22)
展覧会図録	11,512(307)	1,460(8)
研究書、技法書	313(1)	12(0)
年報、紀要、報告書	5,970(307)	20(0)
美術雑誌	12,431(62)	2,475(22)
その他(美術教科書、一般図書)	2,487(9)	1,092(0)
小計	40,372(737)	8,720(52)
総計	49,092(789)冊	

() は今年度の受け入れ図書冊数

入室者数 9,443名

4月	631名
5月	584名
6月	647名
7月	1,870名
8月	2,474名
9月	841名
10月	510名
11月	322名
12月	345名
1月	96名
2月	523名
3月	600名

出版・制作物一覧

美術館ニュース「アートペーパー」No.86、87、88、89

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

A 2 版、部数：各5,000部

特集記事

86号：マーチンの不透明な光

87号：“キュビズムの転換点”—アントワヌ・ペヴスナー《コンポジション》を巡って

88号：パウル・クレイ・センターを訪れて

89号：不思議な出会い。三つの作品をめぐる



年報

平成22年度の美術館活動全般の詳細な記録です。

A 4 版、52頁、PDFデータとして当館ホームページに掲載



年間案内

平成24年度一年間の展覧会の情報を告知するものです。

A 4 版変形、部数：20,000部



団体向けガイドトークのご案内

学校などの団体が常設展見学をする際の団体向けガイドトークの申し込み方法について記したものです。

A 4 版、モノクロ、部数：8,000部



所蔵作品解説シートの増し刷り

常設展で無料配布している所蔵作品についての解説シートです。

B 6 版、モノクロ、一部改訂、増刷22種、部数：78,000部



ボランティア募集要項

名古屋市美術館のボランティア（7期）を募集するための募集要項です。

A 4 版、モノクロ、部数：7,000部



平成23年度も厳しい予算状況の中、作品の収集に努め、購入1点、受贈385点、受託143点の合計529点の作品を新たに受け入れました。

まず購入では、村上友晴の《マリア礼拝堂》を収集しました。日本の現代美術を代表する作家の一人村上友晴の作品については、1998年の作品《十字架》および14点セットの《十字架の道》をすでに収集していましたが、2010年に開催された「静けさの中から：村上友晴展」に出品された、最新作であり新しい方向性を示す作品《マリア礼拝堂》を新たに加えることができました。また同時に第16回サンパウロ・ビエンナーレ展に出品された《無題》をご寄贈いただくことができ、コレクションに一層の厚みを加えることができました。

寄贈については地元作家を中心に、非常に数多くの作品のご寄贈をいただきました。写真資料は名古屋市美術館のコレクションの特色の一つになっていますが、1994年に開催して大きな話題を呼んだ「異郷のモダニズム展」の出品作家、一色辰夫の貴重な満州関係の作品12点が新たにコレクションに加わりました。また同じく写真作品として、戦後のリアリズム運動の影響を強く受けた地元作家、臼井薫の全貌を紹介できる作品171点をまとめてご遺族よりご寄贈いただきました。

荻須高德は名古屋市美術館のコレクションの重要作家の一人ですが、今回荻須がまだ東京美術学校に入学する以前の、非常に初期の貴重な作品を新たに加えることができました。草間彌生は現代日本美術の作家として海外でも高い人気を誇る一人ですが、今回はKDDIとの共同制作による、携帯電話に関連するグッズを3点収集しました。前衛美術とマスプロダクツとの接点という、今日的なテーマを紹介するという意味でも興味深いコレクションになりました。

地元とゆかりの深い日本画家、平松礼二の個展を特別展として秋に開催しましたが、同展のために新たに制作された震災への鎮魂への思いを込めた作品が、作家

自身からご寄贈いただきました。また、現存作家に毎年依頼している協力会のカレンダーも、今年は平松氏にお願いしました。

1969年から74年にかけての5年間、名古屋を主な拠点とした「ぷろだくしょん我S」の活動に関しては、2010年に常設企画展としてご紹介しましたが、この異色のグループの軌跡をたどる様々な資料134点が一括して収集されました。

戦前から戦後の長い期間にわたり洋画家として活躍した薮野正雄は、郷土を代表する画家の一人ですが、今回戦後間もない時期に描かれた代表作の1点が新たにコレクションに加わりました。

星野眞吾、平川敏夫らとともに戦後の豊橋における日本画革新運動に取り組んだ高畑郁子の作品3点を新たに収集しました。いずれも展覧会での受賞作品で、作家の特徴がよく出ており、また完成度の高い作品ばかりです。

水野清亭は美術館に程近い名古屋市中区出身の日本画家で、京都で本格的に勉強した後、大正3年から5年にかけて連続で文展に入選した俊秀です。惜しくも27歳の若さで没したためその芸術の十分な完成を見ることはありませんでしたが、今回文展の入選作3点をご遺族より寄贈していただくことができました。不明な点の多い作家であり、今後さらに研究を進めて行きたいと考えています。

最後に2010年がメキシコにとって独立や革命からの節目の年に当たることを記念して、「独立と革命」をテーマとする版画を中心とした54点の作品からなるセットがメキシコ合衆国の主導によって制作されました。全部で100セットが制作され、その内50セットがメキシコと関係の深い、海外の機関に贈呈されましたが、日本では唯一メキシコ美術のコレクションを収集している当館が選ばれ、寄贈を受けました。現代メキシコの作家たちによる最新作の作品群が加わることにより、当館のメキシコ美術コレクションはさらに充実することになりました。

(1)購入



1. 村上友晴(1938-)
MURAKAMI, Tomoharu
《マリア礼拝堂》
Lady Chapel
2009年
油彩、鉄筆・キャンヴァス
oil and steel pen on canvas
91.0×72.5cm

(2)受贈



1. 一色辰夫(1908-1986)
ISSHIKI, Tatsuo
一色辰夫旧蔵資料
former collection of the artist:Photography Book "Hikaru-Oka"(The Shining Hill) and Photography Book "Hokuman no Emiguranto"(The White-Russian Refugee in MANCHOUKUO)
12件12点

- | | | | |
|----|---------------------|-----------------|-------------|
| 1 | 写真画集『光る丘』創刊号 | (1937年11月22日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 2 | 写真画集『光る丘』第1巻第2号 | (1937年12月20日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 3 | 写真画集『光る丘』第2巻第1号 | (1938年1月30日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 4 | 写真画集『光る丘』第2巻第2号 | (1938年2月28日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 5 | 写真画集『光る丘』第2巻第3号 | (1938年4月15日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 6 | 写真画集『光る丘』第2巻第4号 | (1938年5月14日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 7 | 写真画集『光る丘』第2巻第6・7号 | (1938年7月15日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 8 | 写真画集『光る丘』第2巻第8号 | (1938年8月31日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 9 | 写真画集『光る丘』第2巻第9号 | (1938年10月5日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |
| 10 | 写真画集『光る丘』第2巻第10・11号 | (1938年11月15日発行) | コロタイプ印刷(冊子) |



11 写真画集『北満のエミгранト』
(1939年8月20日発行、日本語版限定44/500)
コロタイプ印刷(冊子)



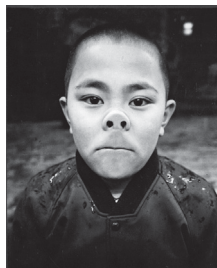
12 写真画集『ИЗ ЖИЗНИ РУССКИХ В СЕВЕРНОЙ МАНЬЧЖУРИИ』
(『北満のエミгранト』ロシア語版)
コロタイプ印刷(冊子)

2. 臼井薫(1916-2010)

USUI, Kaoru

写真集『戦後を生きた子供達 昭和22-32年』より
from Photo Album "Children in Post-War.1947-1957"

臼井てる子氏寄贈
1件102点



1 豚の鼻
名古屋 中区
1951年
ゼラチンシルバープリント
28.8(29.4)×23.2(23.9)cm



2 母子草
名古屋 中区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.1(19.6)×26.4(26.9)cm



3 さゝやき
名古屋 中区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
27.9(28.4)×25.5(23.0)cm



4 悲愴なる曲
名古屋 中区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
34.5(35.1)×24.6(25.0)cm



5 父さん床や
三重 坂手島
n.d.
ゼラチンシルバープリント
26.4(26.9)×36.0(36.5)cm



6 巡礼の親子
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.5(22.1)×30.8(31.3)cm



7 踏切番の親子
名古屋 道徳
n.d.
ゼラチンシルバープリント
22.6(23.2)×29.6(30.2)cm



8 独りで遊ぶ
春日井市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.5(30.0)×21.5(22.1)cm



9 旅廻りの母子
名古屋 宝生座
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.3(29.8)×20.3(20.9)cm



10 路地裏
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
23.8(24.2)×29.8(30.4)cm



11 かえり道
名古屋 港区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.2(29.8)×19.4(20.0)cm



12 宗五郎の子役
名古屋 宝生座
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.8(30.4)×20.7(21.3)cm



13 母さん床や
近江長岡
1955年
ゼラチンシルバープリント
31.3(32.0)×22.5(23.2)cm



14 山の兄弟
瀬戸市
1953年
ゼラチンシルバープリント
32.9(33.5)×25.0(25.5)cm



15 山の兄弟
瀬戸市
1953年
ゼラチンシルバープリント
30.3(30.8)×25.3(26.1)cm



16 私のペット
名古屋 北区
1955年
ゼラチンシルバープリント
30.9(31.6)×23.5(24.1)cm



17 裏町の兄弟
名古屋 中川区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
35.8(36.3)×25.4(26.1)cm



18 船上の姉弟
名古屋 港区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.5(30.1)×23.7(24.4)cm



19 凸坊三兄弟
木曾川町 玉ノ井
1955年
ゼラチンシルバープリント
22.5(23.1)×28.7(29.2)cm



20 2人の凸坊
名古屋 北区
1955年
ゼラチンシルバープリント
24.6(25.1)×27.4(28.0)cm



21 夏休みの校庭
一宮 奥町
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.4(30.0)×23.2(23.8)cm



22 怖い蛇
瀬戸市
1953年
ゼラチンシルバープリント
29.5(30.0)×24.9(25.4)cm



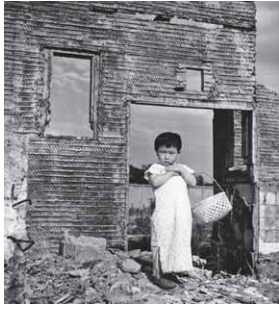
23 火の見櫓に登る
多治見市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.9(30.4)×23.0(23.4)cm



24 かえり道
名古屋 守山区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
20.9(21.5)×26.0(26.5)cm



25 仲よし眼帯
名古屋 守山区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
23.5(24.1)×30.5(31.1)cm



26 中国服の少女
名古屋 東区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
28.1(28.6)×23.8(24.4)cm



27 一人淋しく
名古屋 南区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
35.2(35.8)×25.9(26.4)cm



28 明日に向けて
名古屋 北区
1954年
ゼラチンシルバークラウド
29.9(30.5)×24.6(25.0)cm



29 裸同志
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
29.3(29.9)×24.6(25.1)cm



30 可愛い妹
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
29.2(29.8)×23.6(24.2)cm



31 題不詳(自転車の兄妹)
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
22.0(22.5)×17.9(18.5)cm



32 かえり道
名古屋 港区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
23.1(23.7)×29.8(30.5)cm



33 魚とりのかえり道
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
20.6(21.2)×28.4(28.9)cm



34 仔猫と一緒に
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
29.5(30.1)×24.0(24.6)cm



35 猫だよ
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
31.7(32.1)×27.4(27.9)cm



36 風呂屋の子
高浜市
1951年
ゼラチンシルバークラウド
22.7(23.4)×29.0(29.6)cm



37 少年の夢は雲の彼方に
春日井市
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
22.9(23.4)×32.3(32.9)cm



38 飛び出した狐の子
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
22.3(22.8)×30.0(30.5)cm



39 海桐花の樹の下
名古屋 下ノ一色
1958年
ゼラチンシルバークラウド
22.7(23.3)×33.2(33.7)cm



40 水車番の子
山梨 忍野村
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
30.1(30.6)×21.9(22.5)cm



41 遅く生きる
常滑市
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
35.5(35.9)×25.7(26.2)cm



42 不審
名古屋 中区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
34.5(35.0)×25.9(26.4)cm



43 リンチの少年
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
28.8(29.5)×23.0(23.6)cm



44 四ツ手網
名古屋 北区
1955年
ゼラチンシルバークラウド
29.8(30.3)×23.2(23.8)cm



45 浅春
東区 大曾根中学
1949年
ゼラチンシルバークラウド
26.7(27.3)×20.7(21.2)cm



46 山高帽子の子
名古屋 北区
1960年
ゼラチンシルバークラウド
29.6(30.3)×22.9(23.5)cm



47 大雨の日
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
29.3(29.8)×22.6(23.2)cm



48 小さな魚
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
35.2(35.9)×26.4(26.9)cm



49 豆腐売りの少年
名古屋 西区
1955年
ゼラチンシルバークラウド
23.9(24.4)×30.1(30.5)cm



50 子守しながら
岩倉市
1957年
ゼラチンシルバークラウド
35.5(36.0)×24.8(25.3)cm



51 かえり道
名古屋 守山区
1955年
ゼラチンシルバークラウド
29.5(30.0)×23.7(24.2)cm



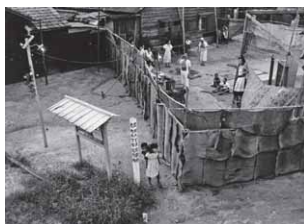
52 二人のお姉さん
三重 坂手島
1958年
ゼラチンシルバークラウド
29.4(30.0)×24.6(25.2)cm



53 兄は一生懸命
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
30.3(30.9)×19.1(19.6)cm



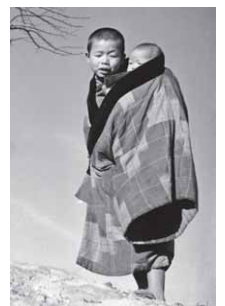
54 麗子像
長野 藪原
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
35.0(35.6)×26.3(26.9)cm



55 オープン劇場の宵
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
25.9(26.4)×35.5(36.0)cm



56 裏の小径
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークラウド
29.1(29.6)×22.1(22.7)cm



57 可愛い弟
名古屋 北区
1953年
ゼラチンシルバークラウド
30.1(30.6)×20.5(21.0)cm



58 半鐘に登る
春日井市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
24.6(25.3)×25.6(26.2)cm



59 夕刊少年
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
24.5(25.0)×18.1(18.6)cm



60 一人離れて
名古屋 中村区
1961年
ゼラチンシルバープリント
20.9(21.5)×30.5(31.0)cm



61 夕日をうけて
名古屋 西区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.9(26.5)×34.3(34.8)cm



62 一生懸命に見る
瀬戸市
1958年
ゼラチンシルバープリント
23.4(24.0)×29.3(29.9)cm



63 一生懸命に見る
瀬戸市
1958年
ゼラチンシルバープリント
23.1(23.8)×30.3(31.0)cm



64 鈴売り
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.6(22.2)×25.8(26.4)cm



65 迷子
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
22.0(22.5)×29.3(29.9)cm



66 題不詳(電信柱)
n.d.
ゼラチンシルバープリント
18.7(19.3)×25.4(25.9)cm



67 堤防に遊ぶ
1947年
ゼラチンシルバープリント
22.5(23.1)×30.6(31.1)cm



68 夕餚の支度
名古屋 守山区
1955年
ゼラチンシルバープリント
30.3(30.8)×18.5(18.9)cm



69 祭車のような家
名古屋 下ノ一色
1957年
ゼラチンシルバープリント
29.3(29.9)×23.0(23.6)cm



70 ブランコの童女
春日井市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
33.1(33.6)×25.7(26.3)cm



71 夏
三重 坂手島
n.d.
ゼラチンシルバープリント
23.5(24.2)×29.5(30.0)cm



72 題不詳(破れ襖)
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.7(22.3)×30.8(31.3)cm



73 題不詳(月見る子達)
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.1(19.8)×28.6(29.1)cm



74 父のいない家族
春日井市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.2(25.7)×35.2(35.8)cm



75 水屋の店先
尾西市 起
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.0(25.5)×30.2(30.6)cm



76 嬉しい顔
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
23.5(24.1)×29.6(30.1)cm



77 船に登る
静岡 中田島
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.6(22.1)×29.2(29.8)cm



78 危険な橋
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
26.3(26.8)×35.5(36.1)cm



79 寒い朝
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.0(21.6)×23.1(23.7)cm



80 大人も子供も
瀬戸市
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.6(26.1)×34.4(35.0)cm



81 題不詳(紙芝居 後)
1958年
ゼラチンシルバープリント
25.0(25.5)×35.5(36.0)cm



82 題不詳(紙芝居を見る子)
瀬戸市
1955年
ゼラチンシルバープリント
18.8(19.4)×27.6(28.2)cm



83 題不詳(雑誌売りの親子)
n.d.
ゼラチンシルバープリント
17.2(17.8)×25.6(26.1)cm



84 ねんねころり
瀬戸市
1956年
ゼラチンシルバープリント
20.4(21.0)×28.5(29.1)cm



85 題不詳(縁側の二人の幼児)
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.5(20.1)×31.1(31.5)cm



86 題不詳(覗き見る 名古屋市内)
c.1960-62年
ゼラチンシルバープリント
29.6(30.1)×21.5(22.1)cm



87 冬日の紙芝居
名古屋築地 中電火力発電所
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.2(21.8)×28.6(29.0)cm



88 題不詳(遂にダウン)
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.2(19.8)×28.8(29.3)cm



89 遅い母
名古屋 東区
n.d.
ゼラチンシルバープリント
フェロタイプ 22.8×16.7cm



90 泣き出した弟
名古屋 守山区
1955年
ゼラチンシルバークプリント
24.4(25.1)×30.5(31.1)cm



91 雪のつばやき
岐阜 大仏町
1957年
ゼラチンシルバークプリント
23.8(24.4)×30.9(31.4)cm



92 一文菓子屋の子
中津川市
1957年
ゼラチンシルバークプリント
21.0(21.7)×28.8(29.4)cm



93 雪の朝
中区 桜通り伏見
n.d.
ゼラチンシルバークプリント
22.7(23.3)×24.0(24.5)cm



94 場末の映画館
一宮市 奥町
1949年
ゼラチンシルバークプリント
29.0(29.6)×21.6(22.1)cm



95 ネットに登る
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークプリント
28.9(29.6)×24.7(25.2)cm



96 寒桜の下
名古屋 北区
n.d.
ゼラチンシルバークプリント
29.1(29.6)×23.5(24.1)cm



97 題不詳(アコーディオン弾き)
n.d.
ゼラチンシルバークプリント
28.9(29.6)×24.0(24.6)cm



98 題不詳(リヤカーを曳く爺と孫)
知多郡 常滑
1955年
ゼラチンシルバークプリント
30.0(30.4)×20.8(21.4)cm



99 題不詳(町へ行く主婦)
名古屋 守山瀬古
1953年
ゼラチンシルバークプリント
31.1(31.8)×23.8(24.4)cm



100 鳥籠を持つ男
北区 上飯田
1948年
ゼラチンシルバークプリント
25.4(26.0)×21.7(28.5)cm



101 題不詳(室山で遊ぶ少年)
1956年
ゼラチンシルバークプリント
19.1(19.7)×27.3(27.9)cm



102 題不詳(戦後の三種の神器)
北区 上飯田
1949年
ゼラチンシルバークプリント
16.0(16.6)×20.6(21.0)cm

3. 白井薫 (1916-2010)

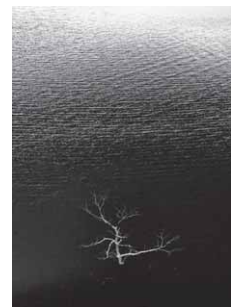
USUI, Kaoru
写真集『白と黒の軌跡』より
from Photo Album "Trace of Light and Shadow"
白井てる子氏寄贈
1件59点



1 水没の湖 1
n.d.
ゼラチンシルバークプリント
21.7(22.1)×15.5(16.0)cm



2 水没の湖 2
n.d.
ゼラチンシルバークプリント
21.8(22.2)×15.5(16.0)cm



3 水没の湖 3
n.d.
ゼラチンシルバークプリント
22.1(22.5)×15.9(16.4)cm



4 水没の湖 4
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.4(21.8)×15.7(16.2)cm



5 水没の湖 6
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.4(21.8)×15.4(15.8)cm



6 弧鳥
n.d.
ゼラチンシルバープリント
28.1(28.6)×19.8(20.3)cm



7 村の小学校
n.d.
ゼラチンシルバープリント
18.2(18.8)×25.2(25.6)cm



8 山村の田植
n.d.
ゼラチンシルバープリント
18.7(19.1)×25.3(25.8)cm



9 地蔵の化粧
n.d.
ゼラチンシルバープリント
28.5(28.9)×20.3(20.8)cm



10 円
n.d.
ゼラチンシルバープリント
23.2(23.7)×16.8(17.3)cm



11 白い葉
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.5(20.1)×25.0(25.5)cm



12 白いベンチ
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.8(20.7)×29.4(29.8)cm



13 極道 1
n.d.
ゼラチンシルバープリント
28.7(29.3)×21.6(22.2)cm



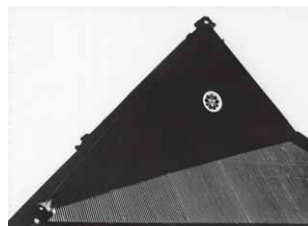
14 猫
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.2(25.6)×17.7(18.2)cm



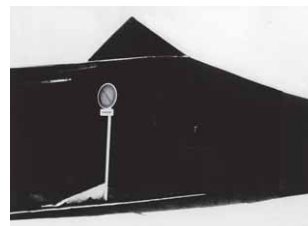
15 銀輪
n.d.
ゼラチンシルバープリント
20.9(21.5)×28.5(29.2)cm



16 波トタン
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.1(29.6)×21.4(22.0)cm



17 剣かたばみ
n.d.
ゼラチンシルバープリント
18.3(18.9)×24.8(25.3)cm



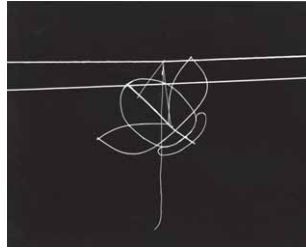
18 コールタールの家
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.6(22.0)×29.6(30.2)cm



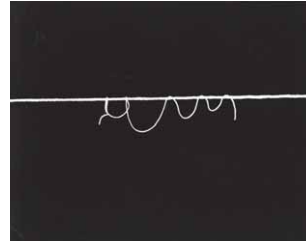
19 通行止
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.3(21.9)×29.1(29.7)cm



20 新築の家
n.d.
ゼラチンシルバープrint
21.4(21.9)×28.8(29.4)cm



21 引っかけたもの 1
n.d.
ゼラチンシルバープrint
23.6(24.1)×29.8(30.4)cm



22 引っかけたもの 2
n.d.
ゼラチンシルバープrint
24.5(24.9)×30.1(30.6)cm



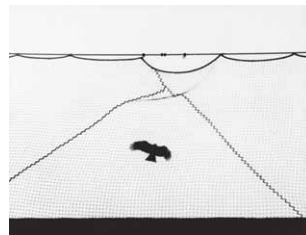
23 引っかけたもの 3
n.d.
ゼラチンシルバープrint
24.4(24.9)×29.4(30.0)cm



24 白い傘
n.d.
ゼラチンシルバープrint
20.6(21.1)×27.3(27.8)cm



25 鶏の飛ぶ日
n.d.
ゼラチンシルバープrint
20.4(20.9)×20.7(21.2)cm



26 飛鳥
n.d.
ゼラチンシルバープrint
19.5(20.0)×25.6(26.0)cm



27 黒い縄
n.d.
ゼラチンシルバープrint
25.3(25.7)×17.5(18.1)cm



28 不忍の弧鳩
n.d.
ゼラチンシルバープrint
26.0(26.4)×18.3(18.8)cm



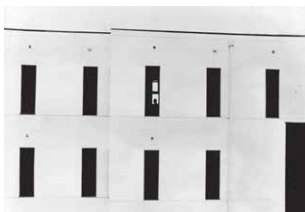
29 黒い電球
n.d.
ゼラチンシルバープrint
24.4(24.9)×15.4(15.9)cm



30 吊輪
n.d.
ゼラチンシルバープrint
25.3(25.8)×16.5(17.0)cm



31 窓の中
n.d.
ゼラチンシルバープrint
25.4(25.9)×17.4(18.0)cm



32 白亜の工場
n.d.
ゼラチンシルバープrint
21.0(21.4)×30.4(30.9)cm



33 冬風の工場
n.d.
ゼラチンシルバープrint
20.5(21.0)×27.8(28.3)cm



34 給水塔のある工場
n.d.
ゼラチンシルバープrint
21.8(22.4)×29.3(29.8)cm



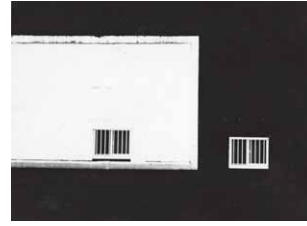
35 始禄
n.d.
ゼラチンシルバープrint
23.1(23.6)×27.6(28.1)cm



36 五重塔
n.d.
ゼラチンシルバープリント
23.5(23.9)×29.6(30.1)cm



37 弧鳥
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.1(25.5)×17.8(18.3)cm



38 白と黒
n.d.
ゼラチンシルバープリント
18.4(18.9)×25.1(25.6)cm



39 改元屋
n.d.
ゼラチンシルバープリント
18.8(19.3)×25.6(26.1)cm



40 山田学園
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.1(21.6)×27.9(28.4)cm



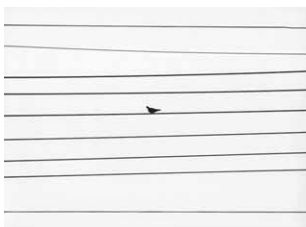
41 建築中
n.d.
ゼラチンシルバープリント
30.1(30.6)×19.1(19.6)cm



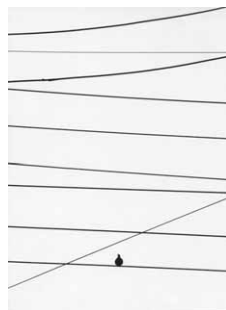
42 白い車
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.6(30.0)×21.5(22.1)cm



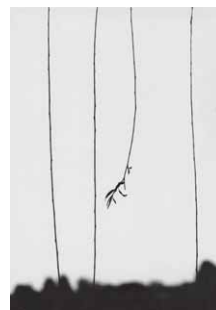
43 弧鳥
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.4(19.9)×24.0(24.0)cm



44 弧鳥
n.d.
ゼラチンシルバープリント
18.7(19.2)×25.5(26.1)cm



45 弧鳥
n.d.
ゼラチンシルバープリント
26.1(26.6)×19.2(19.8)cm



46 新生
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.5(26.0)×18.1(18.7)cm



47 2本の煙突
n.d.
ゼラチンシルバープリント
16.8(17.3)×25.0(25.5)cm



48 幾何学の館
n.d.
ゼラチンシルバープリント
17.5(18.1)×24.6(25.0)cm



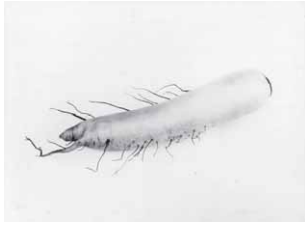
49 柑
n.d.
ゼラチンシルバープリント
24.9(25.4)×18.4(18.9)cm



50 菊
n.d.
ゼラチンシルバープリント
25.3(25.8)×18.7(19.3)cm



51 葡萄
n.d.
ゼラチンシルバープリント
24.9(25.4)×19.3(19.8)cm



52 大根
n.d.
ゼラチンシルバープリント
17.2(17.6)×23.5(23.9)cm



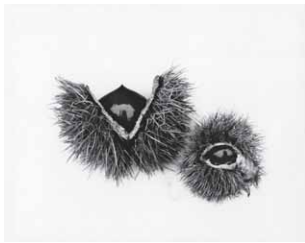
53 玉葱
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.7(20.3)×23.2(23.6)cm



54 黒柑
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.4(19.8)×23.9(24.2)cm



55 黒ダリヤ
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.2(19.6)×24.2(24.7)cm



56 栗
n.d.
ゼラチンシルバープリント
19.2(19.6)×24.4(24.8)cm



57 島の露路
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.1(29.7)×21.5(22.1)cm



58 ポスター
n.d.
ゼラチンシルバープリント
29.7(30.3)×23.2(23.8)cm



59 暗雲
n.d.
ゼラチンシルバープリント
21.1(21.7)×28.1(28.6)cm

4. 臼井薫(1916-2010)
USUI, Kaoru
写真集『街道』より
from Photo Album "On the Road"
ゼラチンシルバープリント
臼井てる子氏寄贈
1件10点



1 格子模様の土壁
下田街道 下田港
1961年
ゼラチンシルバープリント
30.3×22.3cm



2 川辺の家
下田街道 下田港
1961年
ゼラチンシルバープリント
30.2×22.4cm



3 入り江
下田街道 下田港
1961年
ゼラチンシルバープリント
30.1×22.6cm



4 ふもとの家
北国街道(樺 坂峠の霧)
1961年
ゼラチンシルバープリント
29.9(30.2)×22.4(22.8)cm



5 棚
北国街道(樺 坂峠の霧)
1977年
ゼラチンシルバープリント
25.5(30.6)×18.7(23.8)cm



6 雪の古民家
北国街道(樺 坂峠の霧)
1977年
ゼラチンシルバープリント
25.3(30.7)×17.3(22.7)cm



7 雪原
北国街道(樺 坂峠の霧)
1977年
ゼラチンシルバープリント
25.0(30.5)×17.3(22.7)cm



8 古民家の庭先
湖北路
1965年
ゼラチンシルバープリント
30.5×22.0cm



9 古民家の軒先
湖北路
1965年
ゼラチンシルバープリント
30.4×22.2cm



10 古民家の庭
湖北路
1965年
ゼラチンシルバープリント
30.4×22.5cm



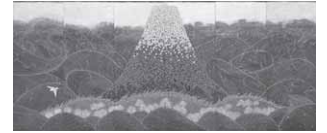
5. 高畑郁子(1929-)
TAKAHATA, Ikuko
《作品A》
Work A
1959年
紙本着彩
color on paper
92.1×92.3cm



6. 高畑郁子(1929-)
TAKAHATA, Ikuko
《塔門の人々》
Women before the Pylon
1976年
紙本着彩
color on paper
181.6×226.7cm



7. 高畑郁子(1929-)
TAKAHATA, Ikuko
《窟院の人達》
Women in the Cave Temple
1976年
紙本着彩
color on paper
181.5×226.8cm



8. 平松礼二(1941-)
HIRAMATSU, Reiji
《2011311—日本の祈り》
2011311 Pray for Japan
2011年
紙本着彩(雲肌麻紙)、金泥
屏風(六曲一隻)
color with gold paint on paper, six-fold screen
180.0×420.0cm
平松礼二氏寄贈



9. ぶろだくしょん我'S(1969-1974)
Production-Gas
《我S DISK》
Gas' Disk
1970年
レコード、木など(装丁済み1点、未装丁1点)
record, wood and etc.
日冲隆氏寄贈
2件2点



10. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas
《週刊 週刊誌》(通刊24冊)
Weekly Weekly-Magazine (Total Issue: Nos.1-24)
1971年
インク・紙(冊子、24冊×2セット) ink on paper
25.8×18.2×0.7cm
日冲隆氏寄贈
2件48点

11. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas
《週刊 週刊誌》(5月12日創刊号、8月4日夏季特大号、10月20日号(終刊号))
Weekly Weekly-Magazine (The First Issue dated May 12, The Summer Special Enlarged Issue dated August 4, The Final Issue dated October 20)
1971年
インク・紙(冊子) ink on paper
25.8×18.2×0.7cm
日冲隆氏寄贈
1件3点



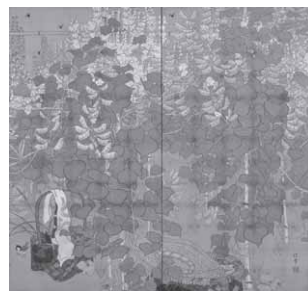
12. 水野清亨(1893-1920)
MIZUNO, Seitei
《春麗》
In Spring
1914年
絹本着彩、金地屏風(二曲一双)
color on gold-foiled silk, pair of two-fold screens
各171.1×184.8(174.7×189.0)cm
水野勇氏寄贈



13. 水野清亨(1893-1920)
MIZUNO, Seitei
《初夏の朝》
A Morning in Early Summer
1915年
絹本着彩、金地屏風(二曲一双)
color on gold-foiled silk, pair of two-fold screens
各171.5×180.8(175.1×184.1)cm
水野勇氏寄贈



14. 水野清亨(1893-1920)
MIZUNO, Seitei
《日ざかり》
A Summer Day
1916年
絹本着彩、金地屏風(二曲一双)
color on gold-foiled silk, pair of two-fold screens
各171.1×184.8(174.7×189.0)cm
水野勇氏寄贈



15. 村上友晴(1938-)
MURAKAMI, Tomoharu
《無題》
Untitled
1981/1982年
木炭、油彩・キャンヴァス
charcoal and oil on canvas
162.0×130.0cm
村上友晴氏寄贈



16. 藪野正雄(1907-1990)
YABUNO, Masao
《めざめ》
Awakening
1949年
油彩・キャンヴァス
oil on canvas
130.5×162.5cm
彦坂善元氏寄贈

17. 『独立と革命』

Independence and Revolution

メキシコ国立版画美術館、在日メキシコ大使館寄贈(メキシコ革命100年、独立200年を記念した寄贈品)
1件54点



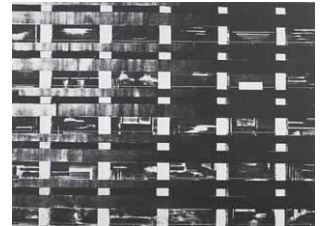
1 デミアン・フロレス(1971-)
Demián FLORES
《祖国》
Motherland
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
60.0×50.0(60.0×50.0)cm



2 フェルナンド・アセベス・ウマナ(1969-)
Fernando Aceves HUMANA
《無題》
Untitled
2010年
リトグラフ ed.027/130
lithograph on paper
87.0×114.2(94.7×124.5)cm



3 マリオ・ベネデッティ(1938-)
Mario BENEDETTI
《Incombenza》
Task
2010年
金風/グラビア印刷 ed.027/100
rotogravure on paper
57.5×112.5(69.0×124.5)cm



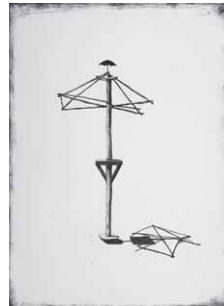
4 ホセ・カストロ・レニエロ(1953-)
José Castro LENERO
《テラス》
Terrace
2010年
リトグラフ ed.027/140
lithograph on paper
90.4×122.0(94.5×124.5)cm



5 パトリシア・コルドバ(1973-)
Patricia CORDOVA
《夢 168》
Dream 168
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
65.0×93.4(69.2×99.2)cm



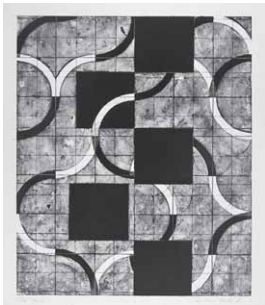
6 ベェル・アンデルソン(1946-)
Per ANDERSON
《個々の石に可能性がある》
Each Stone Has Its Possibility
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
50.0×60.0(50.0×60.0)cm



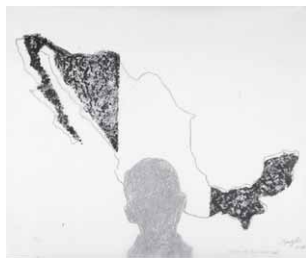
7 フランコ・アセベス・ウマナ(1965-)
Franco Aceves HUMANA
《無題》
Untitled
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
91.7×66.3(99.7×69.5)cm



8 ラファエル・ルイス・モレーノ(1969-)
Rafael Ruiz MORENO
《競技者》
The Athlete
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
60.1×50.0(60.1×50.0)cm



9 フランシスコ・カストロ・レニエロ(1954-)
Francisco Castro LENERO
《ゲーム》
Game
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
50.0×42.2(60.0×50.0)cm



10 ピエル・ブラグリオ(1939-)
Pierre BURAGLIO
《無題(メキシコ地図)》
Untitled (Mexican Map)
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
50.0×60.0(50.0×60.0)cm



11 エミリアーノ・ヒロネラ(1972-)
Emiliano GIRONELLA
《トロイアの列車》
The Train of Troya
2010年
ソフト・グラウンド・エッチング ed.027/100
softground etching on paper
49.5×78.5(69.5×99.4)cm



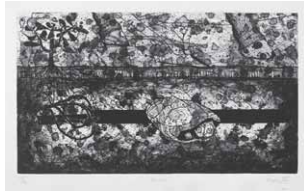
12 サウル・ビリヤ(1958-)
Saul VILLA
《セルバンド》
Servando
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
79.0×50.5(99.4×69.7)cm



13 アルトゥーロ・ガルシア・ブストス(1926-)
Arturo García BUSTOS
《農民の表明》
Farmer's Manifesto
2010年
木版 ed.027/100
woodcut on paper
66.0×57.5(99.5×69.2)cm



14 イルマ・パラシオス(1943-)
Irma PALACIOS
《無題》
Untitled
2010年
ソフト・グラウンド・エッチング ed.027/100
softground etching on paper
59.0×49.0(99.8×69.5)cm



15 エンリケ・ペレス(1950-)
Enrique PÉREZ
《遺産》
Inheritance
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
45.0×78.5(69.5×99.5)cm



16 ハビール・マリン(1962-)
Javier MARÍN
《無題》
Untitled
2010年
亜鉛板にグラビア印刷、エッチング ed.027/100
photogravure on zinc
63.5×50.5(99.4×69.4)cm



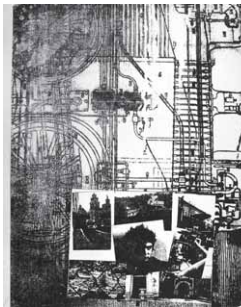
17 シスコ・ヒメネス(1969-)
Cisco JIMÉNEZ
《6つの前立腺》
6 Prostate
2010年
アルグラフィア(アルミニウム板にリトグラフ)ed.027/100
lithograph on aluminum
44.4×39.0(59.8×49.9)cm



18 ボリス・ビスキン(1960-)
Boris VISKIN
《我が独立50周年記念》
The Fifty Years Anniversary of My Independence
2010年
グラビア印刷、デジタル写真 ed.027/100
photogravure and digital print on paper
46.5×39.0(59.5×49.8)cm



19 マリサ・ボオウロサ(1961-)
Marisa BOULLOSA
《ガナファトと2010年のガナファト》(二枚一組)
Guanajuato and Guanajuato of 2010 (Diptych)
2010年
アルグラフィア(アルミニウム板にリトグラフ)ed.027/100
lithograph on aluminum
各60.0×50.0(60.0×50.0)cm



20 ライムンド・セスマ(1954-)
Raymundo SESMA
《無題》
Untitled
2010年
セリグラフ ed.027/100
seligraph on paper
42.5×78.0(80.0×121.5)cm



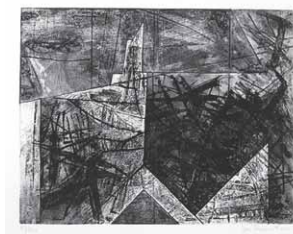
21 ルベン・マヤ(1964-)
Rubén MAYA
《宇宙の二面性 R. Ha》
Cosmic Duality R. Ha
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
46.0×39.0(60.0×50.0)cm



22 ラウル・エレラ(1941-)
Raúl HERRERA
《鷲と蛇の戦い》
Battle of Eagle against Serpent
2010年
亜鉛板にグラビア印刷、エッチング、
アクアチント ed.027/100
photogravure, etching and aquatint
on zinc
63.4×49.4(99.9×69.4)cm



23 レネ・デロウイン(1936-)
René DEROUIN
《生と死》(二枚一組)
"The Life" and "The Death" (Diptych)
2010年
リノリウム版 ed.027/100
linocut on paper
109.0×89.0(120.0×99.5)cm
105.0×80.0(120.0×99.5)cm



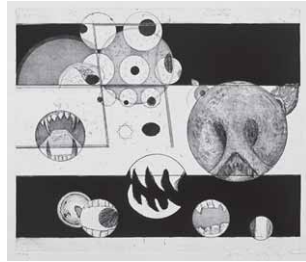
24 ホセ・ラスカロ・トケロ(1941-)
José Lazcarro TOQUERO
《革命》
Revolution
2010年
グラビア印刷、エッチング、木版 ed.027/150
photogravure, etching and woodcut on paper
49.3×62.8(69.5×99.5)cm



25 アドルフォ・メヒアック(1927-)
Adolfo MEXIAC
《祖国》
Homeland
2010年
木版 ed.027/100
woodcut on paper
98.0×74.0(120.0×100.0)cm



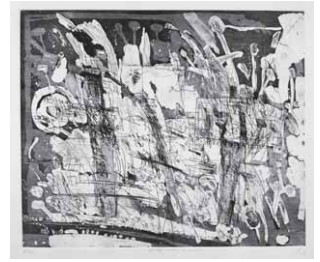
26 ガブリエル・マコテラ(1954-)
Gabriel MACOTELA
《死者は祝いを嫌う》
The Dead Do Not Like Celebration
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
50.0×59.8(69.5×99.7)cm



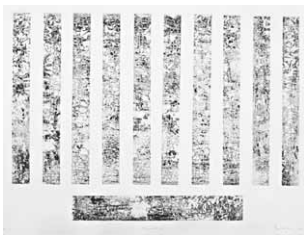
27 ロベルト・トゥルンブル(1959-)
Roberto TURNBULL
《旗の提案》
Proposal by Flag
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
50.0×58.7(69.5×99.8)cm



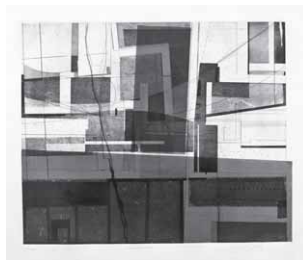
28 ビラル・ボルデス(1948-)
Pilar BORDES
《使者》
Messenger
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
69.5×98.5(88.0×119.5)cm



29 ハビエ・フェルナンデス(1951-)
Javier FERNÁNDEZ
《花と打撃の間》
Between Flowers and Blow
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
49.7×59.8(69.4×99.5)cm



30 ホセ・アントニオ・カスティージョ(1958-)
José Antonio CASTILLO
《断片》
Fragments
2010年
エッチング ed.027/100
etching on paper
61.0×84.0(69.5×100.0)cm



31 モニカ・サウセード(1966-)
Mónica SAUCEDO
《百二百》
Hundred Two Hundred
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
49.8×60.8(69.5×99.8)cm



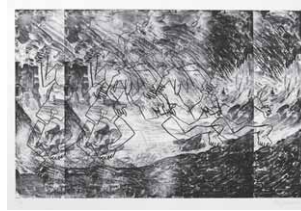
32 ホセ・マルティン・スライマン(1958-)
José Martín SULAIMAN
《概要》
Outline
2010年
木版・転写 ed.027/100
woodcut on paper
64.0×45.5(99.4×69.8)cm



33 アナ・サントス(1978-)
Ana SANTOS
《混沌を見るもの達》
People Who Watch the Chaos
2010年
エッチング ed.027/100
etching on paper
49.3×69.2(69.5×99.0)cm



34 ギレルモ・オルギン(1969-)
Guillermo OLGUÍN
《メキシコ共和国》
Republic of Mexico
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
49.0×70.5(69.7×99.6)cm



35 エロイ・タルジシオ(1955-)
Eloy TARCISIO
《無題》
Untitled
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
51.1×77.5(69.8×99.9)cm



36 フロル・ミノール(1961-)
Flor MINOR
《鷲の頭の肖像(ナウトル語)》
Portrait of Eagle's Head
2010年
tousche y barniz blando(柔らかなニス)
ed.027/100
etching, aquatint, softground and
spitbite on paper
80.5×102.1(99.7×120.4)cm



37 モニカ・マイヤー(1954-)
Mónica MAYER
《私は戦争を祝うことも無ければ
記念することもない》
I Never Celebrate nor Commemorate War
2010年
セリグラフ ed.027/100
seligraph on paper
70.0×100.0(70.0×100.0)cm



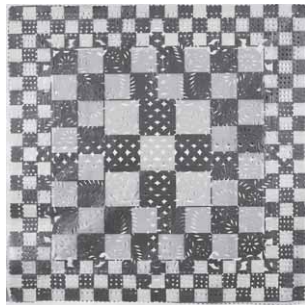
38 エレン・エスコベド(1934-2010)
Helen ESCOBEDO
《捨てるな》
Never Throw It
2010年
オフセット印刷 ed.027/100
offset on paper
60.0×73.5(69.2×68.6)cm



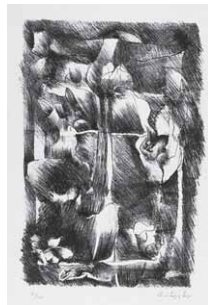
39 モリヤマ・テルミ(1969-)
MORIYAMA, Terumi
《通過と停止》
Transition and Suspension
2010年
エッチング、アクアチント、エングレーヴィング ed.027/100
etching, aquatint and engraving on paper
44.5×30.0(60.0×40.8)cm



40 アンドレス・バスケス・グロリア(1971-)
Andrés Vásquez GLORIA
《無題》
Untitled
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
37.0×49.0(49.8×59.9)cm



41 ベツァベ・ロメロ(1963-)
Betsabé ROMERO
《黄色い立方体》
Yellow Cube
2010年
セリグラフ ed.027/100
seligraph on paper
100.5×101.5(100.5×101.5)cm



42 ルイス・ロベス・ローザ(1939-)
Luis López LOZA
《歪曲した形》
Deformed Form
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
39.0×26.7(60.0×50.0)cm



43 ニコラ・ロベス(1975-)
Nicola LÓPEZ
《跡を残すための予防策》
Precaution to Leave the Trace
2010年
intaglio sobre madera(木版整合)ed.027/100
embossing on paper
120.0×100.0(120.0×100.0)cm



44 アレハンドロ・ペレス・クロス(1966-)
Alejandro Pérez CRUZ
《起こるであろう事の予感》
Presage of the Succeeding Things
2010年
リトグラフ、セリグラフ ed.027/100
lithograph and seligraph on paper
99.8×69.9(99.8×69.9)cm



45 ホエル・レンドン
Joel RENDÓN
《二つの頭、二本の足、二百年》
Two Heads, Two Feet, Bicentennial
2010年
リノリウム版 ed.027/100
linocut on paper
69.3×98.3(69.3×98.3)cm



46 ロゲル・フォン・グンテン(1933-)
Roger von GUNTEN
《チャチャラカの魔女》
Witch of Chachalaca
2010年
写真製版 ed.027/100
photo-engraving on paper
50.0×40.0(82.1×40.0)cm



47 ジョイ・ラビーリャ(1923-)
Joy LAVILLA
《花瓶》
Flower Vase
2010年
写真製版 ed.027/100
photo-engraving on paper
50.0×38.5(82.2×67.5)cm



48 マヌエル・フェルゲレス(1928-)
Manuel FELGUERAZ
《無題》
Untitled
2010年
グラビア印刷 ed.027/100
photogravure on paper
39.2×53.0(67.3×82.2)cm



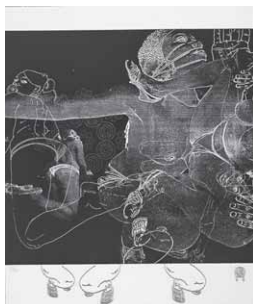
49 レオノーラ・キャリントン(1917-2011)
Leonora CARRINGTON
《ハゲワシ》
Vulture
2010年
ブロンズ
bronze
15.2×26×11cm



50 ミーモ・パラディート(1948-)
Mimo PALLADITO
《祖国または死》
Homeland, or the Death
2010年
リトグラフ ed.027/100
lithograph on paper
73.0×53.7(99.5×70.2)cm



51 アレハンドロ・サンチャゴ(1964-)
Alejandro SANTIAGO
《自由への夢》
Dream for the Liberty
2010年
エッチング、アクアチント ed.027/100
etching and aquatint on paper
50.0×60.0(50.0×60.0)cm



52 ルイス・リカウルテ(1964-)
Luis RICAURTE
《自由な心》
Free Spirit
2010年
セリグラフ ed.027/100
seligraph on paper
58.5×48.2(58.5×48.2)cm

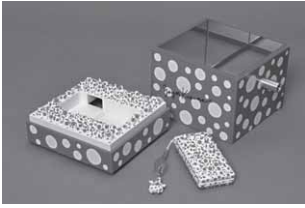
(3)特別資料



1. 荒川修作(1936-2010)
ARAKAWA, Shusaku
個展「もう一つの墓場」ポスター
Poster of One-man Show "Another Cemetery"
1960年
印刷・紙
print on paper
37.0×26.5cm
株式会社ABRF寄贈



2. 荻須高徳(1901-1986)
OGISU, Takanori
《津島風景》
Tsushima Scenery
1920年
油彩・板
oil on board
22.0×32.0cm
加藤規江子氏寄贈



3. 草間彌生 (1929-)
KUSAMA, Yayoi
《ドット・オブセッション 水玉で幸福いっぱい》
Dots Obsession, Full Happiness with Dots
2009年
携帯電話、充電器など ed.049/100
mobile phone, batterie charger, mixed media
14.1×17.6×14.3cm
KDDI株式会社寄贈



4. 草間彌生 (1929-)
KUSAMA, Yayoi
《私の犬のリンリン》
My Doggie Ring-ring
2009年
携帯電話、充電器など ed.056/100
mobile phone, batterie charger, mixed media
27.0×9.5×20.3cm
KDDI株式会社寄贈



5. 草間彌生 (1929-)
KUSAMA, Yayoi
《宇宙へ行くときのハンドバッグ》
Handbag for Space Travel
2009年
携帯電話、充電器など ed.0778/1000
mobile phone, batterie charger, mixed media
11.0×5.0×1.8cm
KDDI株式会社寄贈



6. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [In Play]関連資料 1969年 16x20inchマット装資料 3点、20x24inchマット装資料 2点、24x30inchマット装資料 1点、ボード貼り写真資料 2点
日沖隆氏寄贈 1件8点
7. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [3億円事件カローラ試乗会]関連資料 1969年 20x24inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈
8. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [栄広場へ]関連資料 1969年 24x30inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈
9. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [テレビ塔パフォーマンス]関連資料 1969年 20x24inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈
10. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [テレビ空間浮遊造形計画]関連資料 1969年 24x30inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈
11. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [白い布の道空間]関連資料 1969年 24x30inchマット装資料 2点、20x24inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈 1件3点
12. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [Conventionからの出発]関連資料 1970年 16x20inchマット装資料 1点、20x24inchマット装資料 1点、24x30inchマット装資料 1点
日沖隆氏寄贈 1件3点
13. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [作品名不詳(こどもの国)]関連資料 1970年 16x20inchマット装資料 1点、20x24inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈 1件2点
14. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [我S DISK]関連資料 1970年 16x20inchマット装資料 1点、20x24inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈 1件2点
15. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [映像会]関連資料 1970年 20x24inchマット装資料 1点、24x30inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈 1件2点
16. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [舞台美術制作]関連資料 1970年 24x30inchマット装資料 2点 日沖隆氏寄贈 1件2点
17. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [歩行者天国テープカットハブニング]関連資料 1970年 インク・紙(ラミネート加工済み・加藤久勝スケッチ画) 日沖隆氏寄贈
18. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [週刊 週刊誌]関連資料 1971年 納品書、請求書、返品伝票 各1点、16x20inchマット装資料 3点、20x24inchマット装資料 2点、24x30inchマット装資料 4点
日沖隆氏寄贈 1件12点
19. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas 中日新聞3月28日付け記事 1971年 16x20inchマット装資料 1点 日沖隆氏寄贈
20. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [スカラ座人形設置]関連資料 1973年 20x24inchマット装資料 2点 日沖隆氏寄贈 1件2点
21. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [人形参院選] 1974年 16x20inchマット装資料 1点、20x24inchマット装資料 1点、空気人形 (男12体、女12体) 日沖隆氏寄贈 1件26点
22. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas [子どもの手を返せ] 1997年 書籍(日沖隆・川合英治共著) 日沖隆氏寄贈
23. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas ラミネート加工済みコピー資料 インク・紙(ラミネート加工済み) 日沖隆氏寄贈 1件10点
24. ぶろだくしょん我'S(1969-1974) Production-Gas 資料整理ファイル インク・紙・ファイル 日沖隆氏寄贈 1件2点



25. 平松礼二 (1941-)
HIRAMATSU, Reiji
2012年協力会カレンダー《池を渡る風》
Wind Blowing across the Pond
2011年
オフセット印刷 ed.250/250
offset print on paper
12.8×22.4cm (イメージ・サイズ)
42.0×29.7cm
名古屋市美術館協力会寄贈

(4)資料収集状況一覧

年度別									
年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
58年度		0	26	2	0		1		29
59年度		3	32	50	1		0		86
60年度		4	25	67	20		2		118
61年度		5	23	33	6		1		68
62年度		12	38	0	360		15		425
63年度		0	15	8	13		6		42
元年度		3	7	2	275		1		288
2年度		7	4	2	17		1		31
3年度		1	3	2	122		0		128
4年度		2	10	15	126		3		156
5年度		0	13	4	0		3		20
6年度		0	7	0	1		2		10
7年度		1	27	2	195		0		225
8年度		0	7	0	2		3		12
9年度		0	2	0	17		2		21
10年度		2	8	0	21		0		31
11年度		2	10	0	0		1		13
12年度		0	9	0	0		0		9
13年度		0	8	0	※-83	※83	1	0	9
14年度		1	0	0	167	0	0	0	168
15年度		0	1	0	0	8	2	0	11
16年度		0	0	8	0	0	2	0	10
17年度		0	2	10	0	4	0	0	16
18年度		0	9	0	0	0	0	0	9
19年度		0	2	0	0	0	1	0	3
20年度		0	1	0	0	0	1	0	2
21年度		0	1	7	3	0	0	0	11
22年度		0	1	0	0	0	0	0	1
23年度		0	1	0	0	0	0	0	1
購入総計		43	(1)292	212	1,263	95	48	0	(1)1,953
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	130
寄贈		(7)73	(2)255	(0)853	(106)201	(183)390	(1)23	(87)1,556	(386)3,351
総計		(7)132	(3)588	1,096	(106)1,499	(183)488	(1)74	(87)1,557	(387)5,434

収集方針別

分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
エコール・ド・パリ	—	29	3	478	0	2	(1)1	(1)513
メキシコ・ルネサンス	—	29	35	(53)381	52	(1)4	0	(54)501
現代の美術	—	(2)132	69	276	11	59	(4)8	(6)555
郷土の美術	(7)132	(1)398	989	(53)364	(183)425	9	(82)1,548	(326)3,865
総計	(7)132	(3)588	1,096	(106)1,499	(183)488	74	(87)1,557	(387)5,434

()内の数字は平成23年度収集分

■ 鈴木昭男 《点音 in 白川公園：名古屋市美術館パート》

2009年 コンクリートプレート3個、環境音

名古屋市美術館の敷地内にある点音ポイントにフットマークを記したコンクリートプレート3個を設置した。

■ 宮島達男 《Opposite Circle》

1991年 発光ダイオード、IC、電線、アルミニウム・パネル、木製パネル 直径515.0cm

ガジェット(デジタルカウンター)10組を修理し、正常に作動するようにした。

■ 鬼頭鍋三郎 《夏日図》

1925年 油彩・キャンヴァス 45.5×53.4cm

画面表裏全体の汚れを除去した。

■ 田中君枝 《態》

1939年 油彩・キャンヴァス 117.0×91.0cm

画面表裏全体の汚れを除去し、画面上下端にある絵具層の剥落部分を固着した。

■ 田中君枝 《化粧》

1940年 油彩・キャンヴァス 91.0×65.0cm

画面表裏全体の汚れを除去し、画面四周の端にある絵具層の剥落部分を固着した。あわせて四周にストリップライニングを施し、表裏を違えて使用されていた木枠へ正しい向きでの張り込みを行った。

■ アバカノヴィッチ, マグダレーナ 《黒い立像》

1988年 ブロンズ 168.9×57.1×36.8cm

作品を固定しているアンカーまわりの接着剤が劣化したため、古い接着剤を除去し、新たに接着剤を塗布するとともに、足元まわりにシリコーン樹脂を注入して作品と土台の隙間を塞ぎ、作品の固定状況を改善した。あわせて全体的な汚れ、保護ワックスの部分的な欠損、動物のマーキングによる緑青の発生が認められたため、作品全体の汚れを除去するとともに、部分的に認められる緑青を除去し、保護ワックスの再塗布を行った。

■ アバカノヴィッチ, マグダレーナ 《智者の頭》

1989~90年 ブロンズ 280.0×225.0×470.0cm

全体的な汚れ、保護ワックスの部分的な欠損、動物のマーキングによる緑青の発生が認められたため、作品全体の汚れを除去するとともに、部分的に認められる緑青を除去し、保護ワックスの再塗布を行った。

■ ゴームリー, アントニー 《接近》

1924年頃 油彩・キャンヴァス 73.1×54.0cm

右足の小指先端付近にできた欠損を欠落片と接着剤によって形成し、接着部分を補彩により調整した。あわせて錆の発生を予防するため、作品全体の汚れを除去するとともに、保護ワックスの塗布を行った。

■ 岸田劉生写真資料

アルバムから岸田劉生と関わりのある9点のオリジナル写真を剥離し、保存環境を整えた。あわせて9点の複製写真をアルバムに貼付け、元の状態を再現して、オリジナル写真の寄贈者に返還できるようにした。

■ 山口牧生 《傾くかたち—四角柱》

1986~88年 黒御影石 398.0×88.0×48.0cm

土砂を補充し、土台の土盛の再形成を行った。

■ 富澤有為男 《姉》

1928年 キャンヴァス・油彩 91.0×72.8cm

額縁を新調し、展示に耐えるようにした。

■ 木村莊八 《りんご》

n.d. カルトン・油彩 17.0×24.3cm

額縁を新調し、展示に耐えるようにした。

作品を収集する際に、作品の材質やサイズ、裏書やサインなどの物理的なデータを採取するほかに、作者、作品名、制作年、展示や所蔵の来歴などの歴史的なデータについての文献的な調査も行っている。これらの情報は作品研究の基礎となるものであるが、収集時点で、すべてを明確にすることは難しい場合が多いので、収集後も継続的に情報収集に努め、追跡調査を続けて、不明な事項を明らかにする調査・研究活動を行っている。

(1)作家の生没年の変更

記述凡例：記述は、作家名（現行「所蔵作品総目録」の分類
および作品番号または年報の頁数）／現行年／
改定年／理由の順とする。

- ・元永定正（国内作家／洋画245,246）
現行年：（1922～ ）
改訂年：（1922～2011）
理 由：作家の死去

収蔵資料貸出

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
鬼頭鍋三郎	画室の女 手をかざす女 自画像	H23. 4 .15～7 .20 古川美術館	「鬼頭鍋三郎」展 H23. 4 .29～7 . 3
荻須高德	洗濯場 ボールガール通り	H23. 6 . 1～H24. 1 .31 松坂屋美術館 ジェイアール京都伊勢丹 美術館「えき」KYOTO 福沢市荻須記念美術館 日本橋三越	「生誕110年記念 荻須高德展～憧れのバリ、煌きのヴェニスへ～」 H23. 6 .11～7 . 3 H23. 9 . 8～10.10 H23.10.29～12.18 H23.12.27～1 .16
杉本健吉	名港 宮の渡し 八事山興正寺 東山動物園入り口正面	H23. 7 .15～9 .10 知多市歴史民俗博物館	「杉本健吉と宮崎晴 旅先の風景」展 H23. 7 .23～9 . 4
川合玉堂	秋嶺白雲	H23. 8 .18～12. 5 松坂屋美術館 神奈川県立近代美術館 葉山	「川合玉堂―描かれた日本の原風景―」 H23. 9 . 3～10.10 H23.10.22～11.23
島田章三	とりたのし（赤）	H23. 9 . 1～H24. 1 .15 愛知県美術館 横須賀美術館	「島田章三展」 H23. 9 .16～10.30 H23.11.19～12.25
佐分真	二人の裸婦 静物 自画像 風景 食後 背向きの裸婦	H23. 9 .20～12.10 一宮市三岸節子記念美術館	「佐分真展―洋画界を疾走した伝説の画家」 H23.10. 8～11.23
熊谷守一	烏 ハヶ岳 秋 山椿 冬の夜	H23. 9 .20～H24. 6 .10 福井市美術館 北九州市立美術館 瀬戸内市立美術館 伊丹市立美術館	「小さな画面に無限の世界 熊谷守一展」 H23.10. 1～11. 6 H24. 1 . 2～2 .12 H24. 2 .29～4 .10 H24. 4 .14～6 . 3
ベン・シャーン	牛乳工場で働く囚人たち 健康診断を受ける囚人たち リディツェ 友達の写真屋	H23.11. 5～H24. 8 .13 神奈川県立近代美術館 葉山 岡山県立美術館 福島県立美術館	「ベン・シャーン展」 H23.12. 3～H24. 1 .29 H24. 4 . 8～5 .20 H24. 6 . 3～7 .16
荒川修作	無題	H23.11.15～H24. 2 .10 千葉市美術館	「瀧口修造とマルセル・デュシャン」展 H23.11.22～H24. 1 .29
村山槐多 山本鼎	房州風景 信州の農家 ブルトンヌ ブルトンヌ（画稿） 河野にて 画稿24点	H23.11.15～H24. 2 .15 岡崎市美術博物館	「村山槐多の全貌」展 H23.12. 3～H24. 1 .29
加藤静児 太田三郎	婦人像 窓辺	H23.11.15～H24. 2 .15 渋谷区立松濤美術館	「渋谷ユートピア 1900-1945」 H23.12. 6～H24. 1 .29
中村正義	風景 自画像 男女 女 男 蝦蟇仙人図 鉄拐仙人図	H24. 2 . 5～4 .15 練馬区立美術館	「日本画壇の風雲児 中村正義 新たなる全貌」展 H24. 2 .19～4 . 1
田淵俊夫	「緑風」のための下絵2 「大地」のための下絵	H24. 3 .15～7 . 5 メナード美術館	「田淵俊夫展」 H24. 4 . 7～6 .17
須田国太郎	織女	H24. 3 .17～H25. 4 .14 神奈川県立近代美術館 葉山 茨城県立近代美術館 石川県立美術館 鳥取県立博物館 京都市美術館 島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」 H24. 4 . 7～5 .27 H24. 7 .21～8 .26 H24. 9 . 1～10.14 H24.10.20～11.25 H24.12. 1～H25. 2 . 3 H25. 2 .15～4 . 1

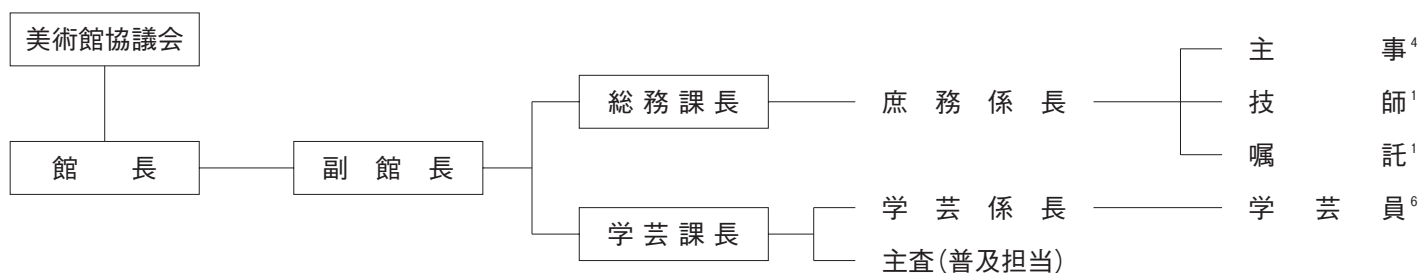
入館者一覽 VISITOR

展覧会名	開催期間	有 料								無 料		入場者 総 数	
		個 人				団 体				有 料 合 計	無 料 招待等		
		一般	高大生	小中生	小 計	一般	高大生	小中生	小 計				
常 設 展	平成23年 4月1日(金)～ 平成24年 3月31日(土)	6,080	1,436	無料 (2,863)	7,516	266	99	無料 (2,077)	365	7,881	66,249	74,130	
特 別 展	没後120年 ゴッホ展	平成23年 2月22日(火)～ 平成23年 4月10日(日) ※統計数字は4月1日 ～10日までのもの	58,020	3,045	5,905	66,970	413	39	0	452	67,422	4,659	72,081
	写真家・ 東松照明 全仕事	平成23年 4月23日(土)～ 平成23年 6月12日(日)	8,206	901	146	9,253	32	52	0	84	9,337	4,419	13,756
	レンブラント 光の探求/ 闇の誘惑	平成23年 6月25日(土)～ 平成23年 9月4日(日)	78,020	7,453	5,594	91,067	731	402	505	1,638	92,705	4,965	97,670
	画家五十年の 軌跡 平松礼二展	平成23年 9月13日(火)～ 平成23年 10月23日(日)	7,680	519	206	8,405	0	21	28	49	8,454	5,586	14,040
	日本画壇の風雲児 中村正義 新たなる全貌	平成23年 11月1日(火)～ 平成23年 12月25日(日)	4,045	302	94	4,441	87	46	1	134	4,575	3,612	8,187
	ベン・ シャーン展	平成24年 2月11日(土)～ 平成24年 3月25日(日)	8,610	1,207	442	10,259	29	66	48	143	10,402	2,440	12,842
特 別 展 小 計		164,581	13,427	12,387	190,395	1,292	626	582	2,500	192,895	25,681	218,576	
合 計		170,661	14,863	12,387	197,911	1,558	725	582	2,865	200,776	91,930	292,706	
											教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	17,166	
											総 計	309,872	

〈年度別入館者数等〉

区 分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	累 計	
展 覧 会	常 設 展	開催日数	282日	284日	280日	6,952日
		入場者数	92,902人	138,985人	74,130人	3,425,574人
	特 別 展	開催日数	237日	209日	228日	5,110日
		入場者数	260,110人	277,317人	218,576人	6,890,438人
入 場 者 小 計		353,012人	416,302人	292,706人	10,316,012人	
教育普及事業参加者		27,353人	46,783人	17,166人	545,342人	
入 館 者 合 計		380,365人	463,085人	309,872人	10,861,354人	

1 組織図



2 美術館協議会

(1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立城山中学校長	山田ちづ子	愛知県私学協会副会長	大谷 恩
愛知県立旭丘高等学校長	川村 則夫	名古屋市立名東高等学校長	鈴木 靖之
(財)名古屋市文化振興事業団理事長	相羽 規充	名古屋市社会教育委員	野村由美子
名古屋市地域女性団体連絡協議会理事	遠藤 恒子	名古屋市立小中学校PTA協議会理事	森 智子
愛知県立芸術大学教授	森田 義之	名古屋商工会議所文化委員会委員長	須田 寛
愛知県美術館長	村田 眞宏	名古屋造形大学教授	江本菜穂子
名古屋大学文学研究科准教授	加藤 靖恵		

(2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	場 所	協 議 題
第1回定例会 平成23年8月9日(火) 15:00~16:30	美術館講堂	○会長及び副会長の選出について ○平成22年度事業実施結果について ○平成23年度事業実施状況について
第2回定例会 平成24年2月29日(水) 15:00~16:15	美術館講堂	○平成23年度事業実施状況について ○平成24年度事業計画案について

3 職 員

館 長	松永 恒裕	学芸課長	深谷 克典
副館長	太田 龍峰	学芸係長	山田 諭
総務課長	朝倉 宏	主査(普及)	中野 毅
庶務係長	橘 弘子	学芸員	角田美奈子
副係長	福満 和美		竹葉 丈
主 事	岸 正子		原沢 暁子
	中村 治彦		笠木日南子
	前川 恵子		清家 三智
技 師	小川 和秀		保崎 裕徳
嘱 託	林 知万夫		

4 運営予算

総予算費	内 訳	
224,306千円	特別展関係費	84,679千円
	常設展運営費	16,007千円
	資料関係費	6,540千円
	教育普及事業費	9,427千円
	調査研究費	576千円
	管 理 費	107,077千円

平成23年度名古屋市美術館年報

発行日

平成24年12月

編集・発行

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号
(芸術と科学の杜・白川公園内)

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005